

クリエイター支援基金
(文化芸術活動基盤強化基金)
について
(文化施設による高付加価値化機能
強化支援)



令和8年1月15日

- 日本には 1.2 億人の市場があり、リスクを取って海外に打って出るインセンティブが生じにくいが、人口減少の中、このままでは高い成長潜在力を持つ コンテンツ市場の衰退の危機。
- 我が国の文化芸術の 海外展開を視野に入れた若手クリエイターやアーティスト等の挑戦支援、育成体制を強化するとともに、国内活動拠点として博物館・美術館、劇場等の文化施設が 新たな価値を付加できるよう機能強化し、若手クリエイター等を支える場として確立することが急務

事業内容

次代を担うクリエイター・アーティスト等を育成するとともに、その活躍・発信の場でもある文化施設の次世代型の機能強化を、独立行政法人日本芸術文化振興会に設置する基金を活用して弾力的かつ複数年度にわたって支援する。

◆ クリエイター・アーティスト等育成支援

- 2023年3月、岸田総理は、「広い意味での日本の誇るべきクリエイターへの支援を検討」することを表明。クリエイター等の挑戦を後押しするためには、企画から制作、国内外での展開まで一貫通貫した支援が重要。
- 新たな芸術の創造など我が国の芸術活動全体の活性化を促すとともに、コンテンツ産業の競争力強化に資するため、新たなビジネス展開も視野に クリエイター等を対象とした総合的な人材育成支援を行う。

世界に誇る我が国のマンガ、アニメ、音楽、現代アート、伝統芸能等をはじめとする次代を担うクリエイター等による作品や公演の企画・交渉・制作・発表・海外展開までの一体的な活動を、5年程度の活動目的の下で、3年程度弾力的かつ継続的に支援。（3年・45億）

◆ 文化施設による高付加価値化機能強化支援

- 博物館・美術館、劇場等の文化施設について、グローバルに通用するクリエイター・アーティスト等の育成の一環として、当該 クリエイター・アーティスト等の（国内における）活動の拠点かつ活動に対して新たな高い価値を付加する拠点としての機能を形成することを推進する。
- また、こうしたクリエイター・アーティスト等が生み出す作品を含めて、施設が持つ価値（コンテンツ）をデジタル・アーカイブ化等も行いつつ、世界に強力に発信し、価値を高めるとともに、そうした価値に受け手を惹きつけるための支援を行う。

次代を担うクリエイター・アーティスト等の国内における活動・発信拠点となるべく文化施設における発信力の強化（デジタル・アーカイブ化含む）、新たな高い価値を文化芸術活動に付加する取組について、5年程度の活動目的の下で、3年程度弾力的かつ継続的に支援。（3年・15億）

文化施設による高付加価値化機能強化支援の採択状況

博物館・美術館等と劇場・音楽堂等の2つの分野において、海外発信力や高付加価値化等の優れた成果が期待できる構想を採択（採択件数13件／応募総数63件）

分野	区分	採択件数
◆ 博物館・美術館等	大規模	3件（日本美術、メディアアート、現代アート等）
	中規模	1件（伝統工芸）
	小規模	—
◆ 劇場・音楽堂等	大規模	—
	中規模	4件（現代音楽、野外パフォーマンス、舞台芸術等）
	小規模	5件（演劇、ダンス、伝統芸能、メディアアート等）

〔取組の具体例〕

※事業規模別に以下の区分を設けており、各施設は複数の区分に応募可能。
大規模：3億円まで、中規模：1～5億円まで、小規模：4千万円まで

【最先端技術の活用】

- ◆ クリエイターが取り組む超高細密コンテンツやイマーシブな空間作りを通じ、グローバルな評価を確立する。
- ◆ AIやロボット、メディアアートを活用した創作と海外発信、公演等に一貫して取り組み、世界有数の創作拠点となる。

【地域資源の磨き上げ】

- ◆ 竹工芸の魅力のグローバルなポテンシャルに着目し、アーティストの創作等を世界に対して発信していく。
- ◆ 地域の自然・郷土等から受けた刺激をクリエイションに活かしたダンス分野の育成・発信を行い、国際的評価を得る。

【国際連携・共同制作】

- ◆ 日本の伝統美術・工芸を世界展開する新たなチームが、新興国等で優れた展示を行い、普及担い手を創出する。
- ◆ ストリートシアター分野の国際共同制作を通じて、若手クリエイターを海外に発信、拠点としての価値を高める。

文化施設による高付加価値化機能強化支援事業 採択先



▶ 全国各地の博物館・美術館等と劇場・音楽堂等を13件採択。

博物館・美術館等

劇場・音楽堂等

江原河畔劇場
無隣館インターナショナル



山口情報芸術センター【YCAM】
子ども×テクノロジー作品の制作を通じ
た人材育成プロジェクト



大分市美術館
大分発アートプラクティス発
信事業 - 竹/キュレーション
・プロデュース



愛知県芸術劇場
Constellation ～世界をつなげる
愛知県芸術劇場ダンスプロジェクト～



ロームシアター京都
レポートリーの創造 ホープス
(京都・関西を拠点とする若
手演出家育成事業)



静岡県舞台芸術センター
ストリートシアター グローバル
人材育成プロジェク
ト "STRANGE Lab."



まつもと市民芸術館
Step into the world from Matsumoto



国立科学博物館
次世代型学習コンテンツプロデュ
ーサー育成プロジェクト



世田谷文化生活情報センター
(世田谷パブリックシアター)
劇場による総合的な人材育成・
国際発信プロジェクト



東京国立博物館
Global Exhibition Team
(GET)による日本文化発信プロ
ジェクト



東京芸術劇場
TMTギアー 東京芸術劇場ク
リエーター支援プロジェクト



森美術館
グローバル・アート・プロフェッショ
ナル育成プロジェクト



東京文化会館
音楽クリエイター育成プロジェクト
Tokyo & Paris to the NEXT



【出典】各施設HPより

文化施設による高付加価値化機能強化支援事業 採択一覧（全13件）



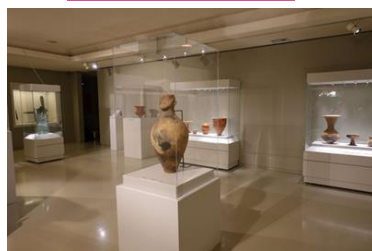
分野	プロジェクト名	プロジェクト概要	団体名
博物館・美術館	大分発ベストプラクティス発信事業－竹ノキュレーション・プロデュース	世界で活躍する若手竹工芸作家を育成するため、多彩な指導者のもとで、若手竹工芸作家が創作活動を行い、有名アーティスト等とのコラボレーション企画の開催、海外アートフェア・展覧会等への参画などを実施。	大分市美術館
	次世代型学習コンテンツプロデューサー育成プロジェクト	国立科学博物館がアジアの博物館における科学教育振興のセンターとなることを目指し、博物館標本を実空間、仮想空間、マスメディア等の特性に応じて効果的に活用できる「次世代型学習コンテンツプロデューサー」を育成する。	国立科学博物館
	Global Exhibition Team (GET) による日本文化発信プロジェクト	館内の特命チーム（GET）を立ち上げ世界で活躍する若手キュレーター等の人材育成を行いながら、海外ミュージアムとの密接なネットワークを構築するとともに、日本文化の研究・発信の国際的拠点としての地位を確立する。	東京国立博物館
	グローバル・アート・プロフェッショナル育成プロジェクト	展覧会の企画制作・国際巡回およびシンポジウム等を通して、国内や海外で活躍するキュレーター等を育成するとともに、活動拠点である美術館の機能を強化し、日本現代文化の国際発信力をさらに拡充させる。	森美術館
劇場・音楽堂等	Constellation～世界をつなげる愛知県芸術劇場ダンスプロジェクト～	劇場ダンスアーティストによる作品の創作、国内外での公演を通じて、海外公演を実施できる技能・ネットワークを構築し、愛知県芸術劇場を日本のダンス作品のハブ劇場とし、国際的なプレゼンスの向上につなげる。	愛知県芸術劇場
	無隣館インターナショナル	江原河畔劇場をフランチャイズする劇団青年団の人材育成ノウハウを生かして国際的に活躍する劇作家・演出家・舞台スタッフ・制作者を育成し、国際プロジェクトを制作・実践する拠点劇場となることを目指す。	江原河畔劇場
	ストリートシアター グローバル人材育成プロジェクト "STRANGE Lab."	ストリートシアター作品のクリエイションにおける国際的な人材育成機関として静岡県舞台芸術センターが機能することを目指し、国際的な舞台芸術市場に飛び出す若手アーティストを育成する。	静岡県舞台芸術センター
	劇場による総合的な人材育成・国際発信プロジェクト	演劇作品をプロデュースし、国内外で発表を行うことで、舞台芸術に携わる様々な職種の人材育成を図り、国際的に活躍する人材を輩出し、人材育成拠点としての劇場の機能強化を目指す。	世田谷文化生活情報センター（世田谷パブリックシアター）
	TMTギア ―東京芸術劇場クリエイター支援プロジェクト	舞台芸術・音楽分野において、世界で活躍するアート・クリエイターを育成するとともに、その活動を支えるハウススタッフを充実させ、日本の現代舞台芸術の魅力をグローバルに発信する拠点としての機能強化を目指す。	東京芸術劇場
	音楽クリエイター育成プロジェクトTokyo & Paris to the NEXT	東京文化会館と現代音楽における最先端の取り組みを行うパリのIRCAMが共同作曲委嘱、公演を行うことで、国際的に飛躍するクリエイターを育成し、世界における日本の文化芸術のプレゼンス向上を目指す。	東京文化会館
	Step into the world from Matsumoto	まつもと市民芸術館のコンセプト『開いていく劇場』の理念に即し、地域に開かれた活動を行うとともに自主事業として制作した作品を海外に発信することで、地方都市からダイレクトに世界へ発信できる地方文化施設となることを目指す。	まつもと市民芸術館
	子ども×テクノロジー作品の制作を通じた人材育成プロジェクト	AIやロボットを活用した新しい子ども向け舞台作品を創作、国内外での劇場での巡回公演を実施し、今後の未来を見据えた国際的に活躍する人材を幅広く育成するとともに、YCAMの国際的な創作・発信拠点としての機能も高める。	山口情報芸術センター〔YCAM〕
	ロームシアター京都 レポートリーの創造 ホープス（京都・関西を拠点とする若手演出家育成事業）	京都からダイレクトに世界を舞台に活躍するためのサポートモデルを確立することを目的とし、育成対象者による作品の国内・海外公演の実施を通して海外公演等で活躍できる制作スタッフ・技術スタッフを地域内で育成する。	ロームシアター京都

令和5年度 文化施設による高付加価値化機能強化支援事業

クリエイター・アーティスト等の活動の拠点かつ活動に対して新たな価値を付加する拠点としての機能を形成する文化施設として13件を採択し、令和6年度から5年程度の活動目的の元で活動を開始。

<採択された文化施設とその成果>

東京国立博物館



Global Exhibition Team (GET) による日本文化発信プロジェクト

館内の特命チーム(GET)を立ち上げ世界で活躍する若手キュレーター等の人材育成を行いながら、海外ミュージアムとの密接なネットワークを構築するとともに、日本文化の研究・発信の国際的拠点としての地位を確立する。

館内で「GET」及びプロジェクトの認知度が向上するとともに、海外展開に関する問い合わせ先として「GET」が機能するようになり、海外展開時のコミュニケーションスキームが組織内に確立されつつある。

大分市美術館



大分発ベストプラクティス発信事業ー竹ノキュレーション・プロデュース

大分美術館および大分市のプレゼンスを高めることを目標に、育成対象者と有名アーティストのコラボレーション企画、海外アートフェア・展覧会への派遣を実施。指導者であるコシノジュンコ氏の薫陶を受けるなど、育成対象者の成長のプロセスは地元メディアを中心に注目を集めており、当プロジェクト関連の報道はNHK大分をはじめ約65件に到達。令和6年度終了時点で、2名が国内での受賞、香港に2名、パリに1名が展覧会に出展。

愛知県芸術劇場



Constellation～世界をつなげる愛知県芸術劇場ダンスプロジェクト～

劇場ダンスアーティストによる優れたダンス作品を創造し、国内外での公演及び海外プロモーション活動を行う。

横浜国際舞台芸術ミーティング(YPAM)において育成対象者が出演する作品に声がかかり、業界界にも国際的にも高い注目を集めるドイツの舞台芸術祭において公演機会を獲得した(令和8年2月上旬予定)。

世田谷パブリックシアター



劇場による総合的な人材育成・国際発信プロジェクト

次代を担う若手のダンサーやスタッフ、劇場職員等の多面的な育成を図るため、育成対象者を中心とした演劇作品をプロデュースして国内外で発表を行う。

長期的な共同制作プロジェクトの第1弾として、韓国との共同製作作品の国内での公演を実現(令和7年8月「紅い落葉」)。海外関係機関との恒常的なネットワーク構築・劇場としての強固な基盤づくりの第一歩を踏み出した。

<支援内容(予定を含む)>

デジタル・アーカイブ化、国内展示、海外展示(メキシコ、インドネシア)

海外展示の実施、海外アートフェスティバル等への参加

欧米、アジア、オーストラリアの見本市、劇場、フェスティバル等での上演

ソウルやロンドンにおける共同製作作品等の公演

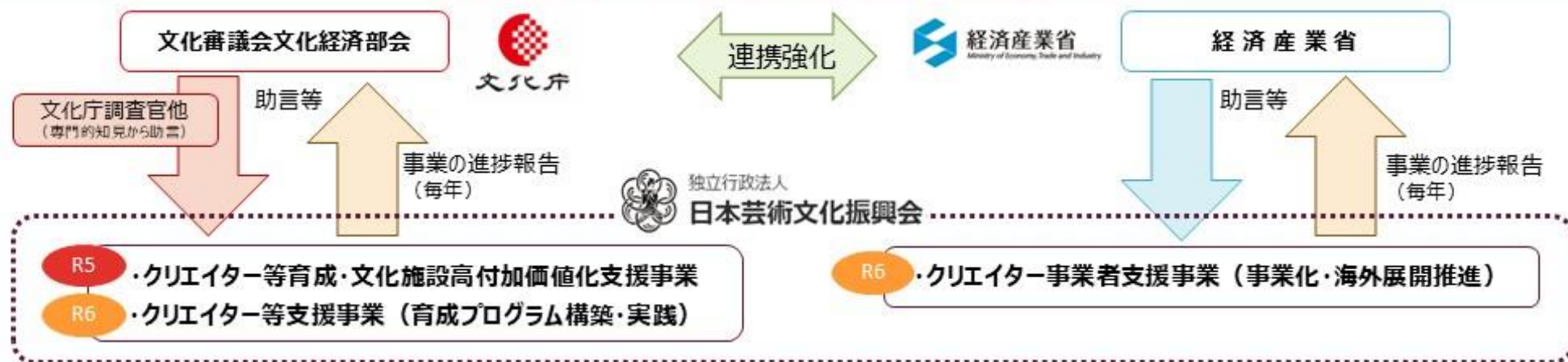
文化芸術活動基盤強化基金（クリエイター支援基金）

クリエイター等育成・文化施設高付加価値化機能強化支援事業
令和6年度活動報告書
（5か年計画の1年目）

1.はじめに

- (1) 本事業の概要
- (2) 業務実施概要

「クリエイター支援基金」に係る体制について



(独) 日本芸術文化振興会における体制整備

【制度設計・進捗把握・助言・成果検証】

事業検証委員会

- ・アドバイザー（アニメ、ゲーム、マンガ、映画、音楽、舞台、現代アート等）
- ・分析者（効果分析事務受託事業者またはその協力者）等

- R5 ○ クリエイター等育成・文化施設高付加価値化支援事業検証委員会（令和7年8月開催）
- R6 ○ クリエイター等支援事業・クリエイター事業者支援事業検証委員会（令和8年8月開催予定）

報告

【基金管理事務／広報／効果分析】

企画部 基金・助成事務局（基金管理、運営事務）

受託事業者（広報事務／効果分析事務）

【採択審査】

<補助事業>

部会

- R5 ※令和6年4月設置
 - クリエイター等育成部会
 - 文化施設高付加価値化支援部会（博物館・美術館等、劇場・音楽堂等）
- R6
 - クリエイター等育成プログラム構築・実践部会 ※令和7年4月設置
 - クリエイター事業者支援部会 ※令和7年8月設置

<委託事業>

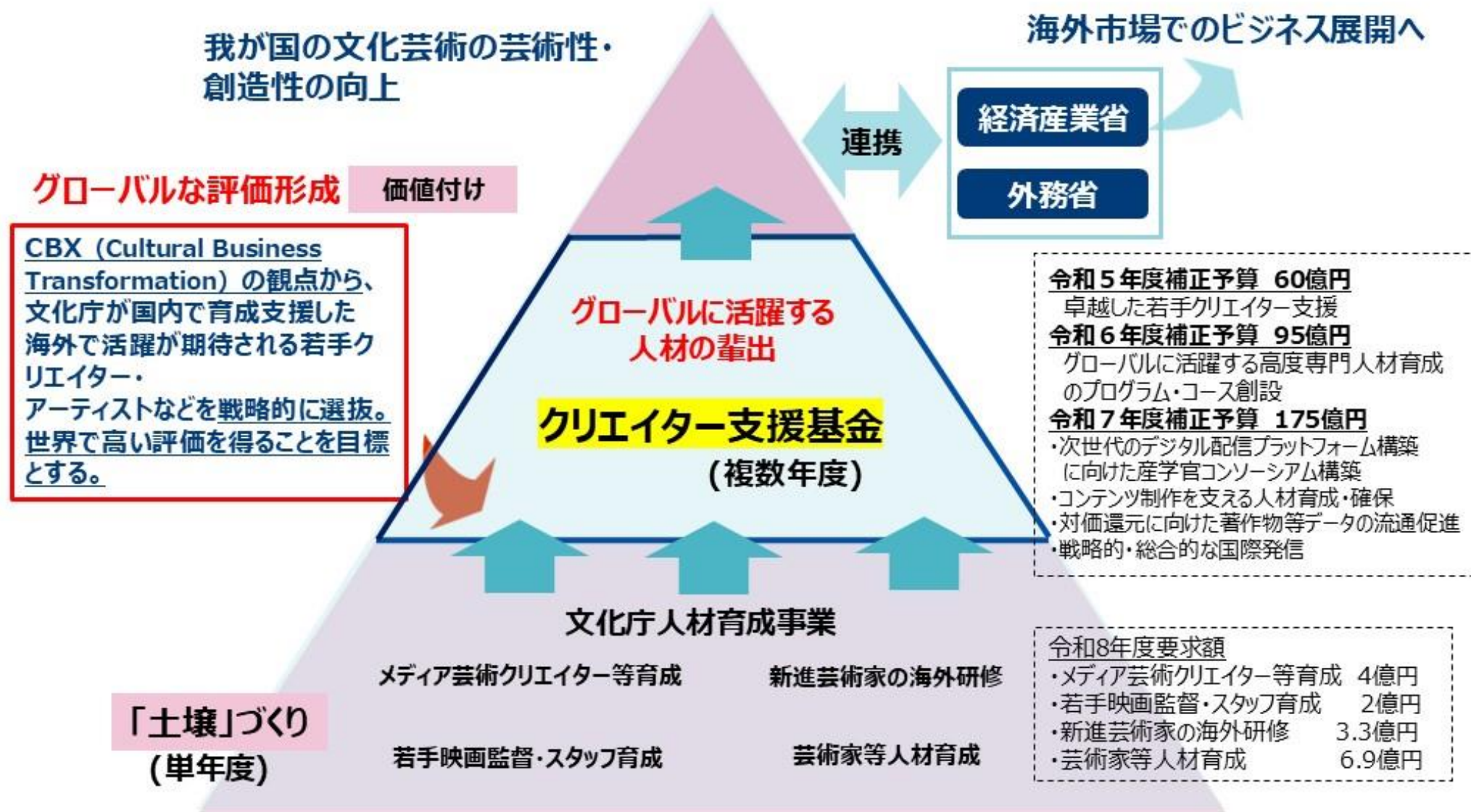
審査委員会

- クリエイター・アーティスト等育成事業審査委員会（令和6年4月設置）
- クリエイター等支援事業（育成プログラム構築・実践）審査委員会（令和7年4月設置）

クリエイター・アーティスト支援と海外展開の戦略全体構想



コンテンツ産業を基幹産業と位置付け、**2033年**に海外売上を現在の約4倍となる**20兆円**とする目標を設定。

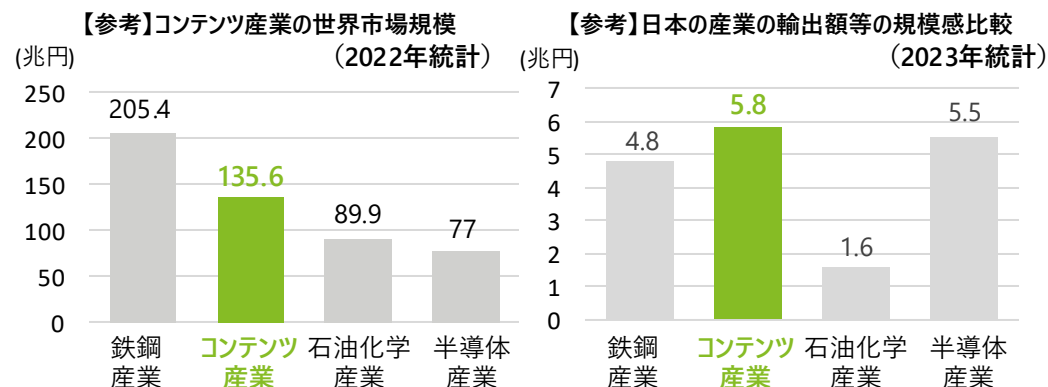


クリエイター等育成・文化施設高付加価値化支援事業は、文化芸術活動基盤強化基金を活用し、次代を担うクリエイター・アーティスト等の育成およびその活躍・発信の場である文化施設の機能強化を、弾力的かつ複数年度にわたり支援する事業である

本事業の背景および趣旨・目的

本事業の背景

- 日本発コンテンツの海外売上は4.7兆円と自動車の輸出額に次ぐ規模であり「基幹産業」である
- 政府の戦略としては、「海外売り上げを2033年までに20兆円」と示されている（知財本部決定：本部長内閣総理大臣）
- 日本には1.2億人の市場があり、すでに国内市場規模も13兆円であるため、リスクを取って海外に打って出るインセンティブが生じにくい。一方で、人口減少の中、このままでは高い成長潜在力を持つコンテンツ市場の衰退の危機である
- 我が国の文化芸術の海外展開を視野に入れた若手クリエイターやアーティスト等の挑戦支援、育成体制を強化するとともに、国内活動拠点として博物館・美術館、劇場等の文化施設が新たな価値を付加できるよう機能強化し、若手クリエイター等を支える場として確立することが急務である



本事業の趣旨・目的

- 文化庁令和5年度補正予算において措置された補助金により、クリエイター・アーティスト等の育成および文化施設の高付加価値化のために行う事業を実施するため、振興会に文化芸術活動基盤強化基金（通称：クリエイター支援基金、英語表記：Japan Creator Support Fund）が設立された
- 本基金を活用し、本事業として「クリエイター・アーティスト等育成事業」および「文化施設による高付加価値化機能強化支援事業」の2事業を実施し、次代を担うクリエイター・アーティスト等の育成およびその活躍・発信の場である文化施設の機能強化を、弾力的かつ複数年度にわたって支援する



独立行政法人

日本芸術文化振興会

文化芸術活動基盤強化基金

Japan
Creator
Support
Fund

クリエイター・
アーティスト等
育成事業
Japan
Creator
Support
Fund
FOR CREATORS

文化施設による高
付加価値化機能
強化支援事業
Japan
Creator
Support
Fund
FOR CULTURAL FACILITIES

本事業では、次代を担うクリエイター・アーティスト等の育成およびその活躍・発信の場でもある文化施設の次世代型の機能強化を、弾力的かつ複数年度にわたり支援することで、戦略的かつ持続的な日本のコンテンツの海外展開が可能になることを目標とする

我が国の海外展開の戦略全体構想と本事業の概要

我が国の海外展開の戦略全体構想

我が国の文化芸術の
芸術性・創造性の向上

海外市場での
ビジネス展開へ

グローバルに
活躍する人材の輩出
『価値づけ』

育成・創造活動支援
所管：文化庁

人材育成『土壌づくり』

本事業の概要

次代を担う卓越したクリエイター・アーティスト等の育成、およびその活躍・発信の場でもある文化施設の次世代型の機能強化を、弾力的かつ複数年度にわたって支援する

クリエイター等育成・文化施設高付加価値化支援事業（文化芸術活動基盤強化基金）

所管：独立行政法人日本芸術文化振興会

文化庁が国内で育成支援した海外で活躍が期待される若手クリエイター・アーティスト等を戦略的に選抜。世界で高い評価を得ることを目標とする

クリエイター・アーティスト等育成事業



次代を担うクリエイター等による、企画・交渉・制作・発表・海外展開までの一体的な活動を弾力的かつ複数年度にわたって支援

対象

クリエイター・アーティスト・キュレーター等

予算

3年・45億

支援概要

金銭的支援・アドバイザーによる支援

文化施設による 高付加価値化機能強化支援事業



文化施設における新たな文化芸術活動に付加する活動について、弾力的かつ複数年度にわたって支援

対象

文化施設

予算

3年・15億

支援概要

金銭的支援・アドバイザーによる支援

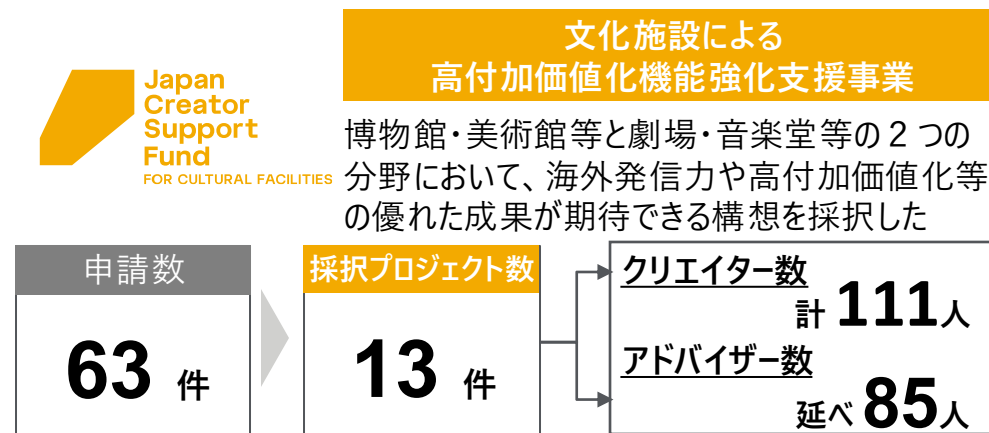
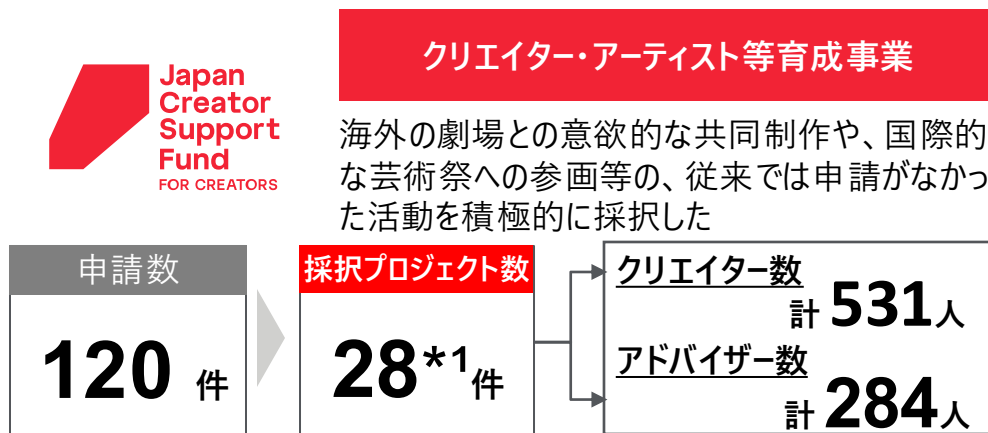
本事業

支援メニュー

クリエイター・アーティスト等育成事業では、2つの支援メニュー（「補助型」、「委託型」）にて実施。「補助型」は若手クリエイターの国内外での活動を一体的に支援し、振興会が伴走型支援を実施。「委託型」は人材育成を目的に、海外展開に向けた育成プログラムを委託事業として実施

クリエイター・アーティスト等育成事業および文化施設による高付加価値化機能強化支援事業におけるそれぞれの採択プロジェクト数は28*1件、13件、支援するクリエイター数は総勢640名超となる

各事業の採択状況



区分	分野	採択件数	
舞台芸術	音楽	4件	オペラ、オーケストラ、ポピュラー音楽
	舞踊	3件	バレエ、現代舞踊等
	演劇	5件	現代演劇、ミュージカル等
	伝統芸能・大衆芸能	3件	歌舞伎、文楽、邦楽等
	舞台芸術等	1件	舞台芸術総合
メディア芸術	メディア芸術	7*1件	マンガ、アニメ、ゲーム、映画等
現代アート	現代アート	2件	現代アート、写真等
分野横断的新領域		4件	特定の芸術分野に縛られない公演・展示活動

分野	区分*2	採択件数	
博物館・美術館等	大規模	3件	日本美術、建築等
	中規模	1件	伝統工芸
	小規模	-	-
劇場・音楽堂等	大規模	-	-
	中規模	4件	パフォーミングアーツ、現代音楽等
	小規模	5件	演劇、ダンス等

出所：公表資料より抜粋

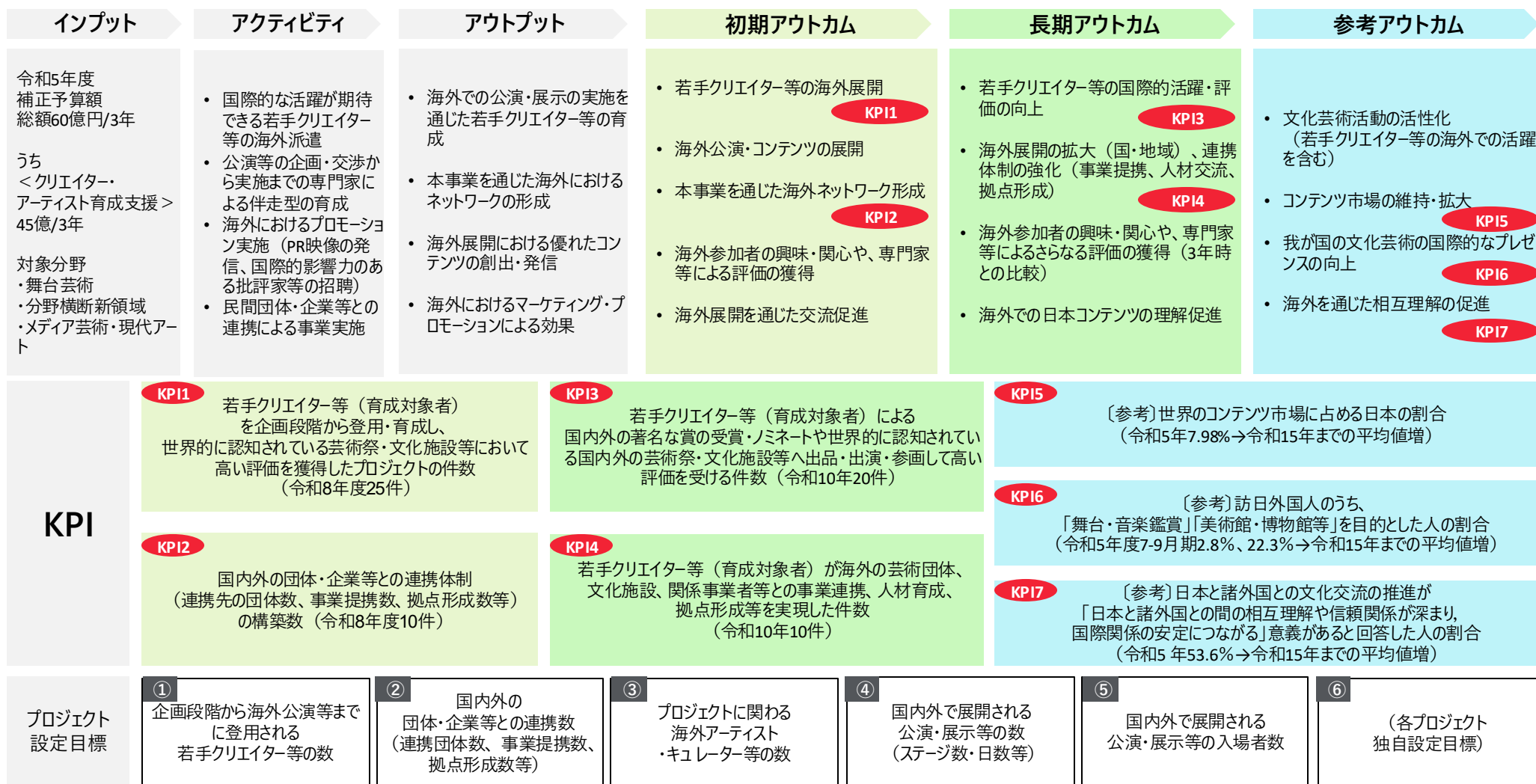
*1 29件のプロジェクト採択後に同一事業者による2件のプロジェクトが1件に集約された

*2 プロジェクト規模で大中小の区分を設け、大規模は3億円、中規模は1.5億円、小規模は4千万円まで

各事業は、それぞれのロジックモデルに基づき、アウトカムおよびKPIが設定されている。各採択プロジェクトに対しては、これらを踏まえたプロジェクト目標の設定を求め、各年度において定量的なプロジェクト評価を実施している

ロジックモデルとKPI（クリエイター・アーティスト等育成事業）

「クリエイター・アーティスト等育成事業」ロジックモデル

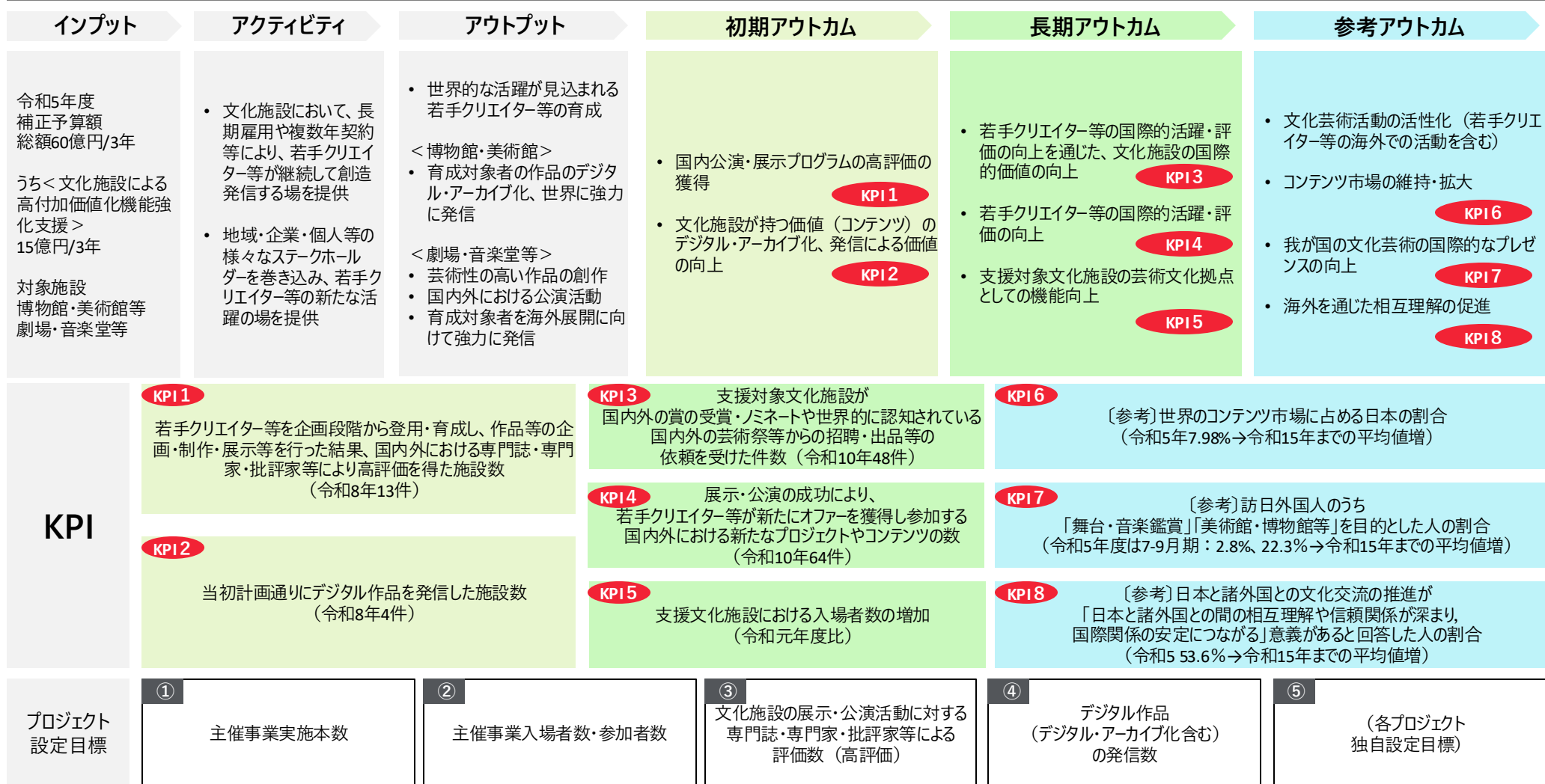


出所：公表資料より抜粋

各事業は、それぞれのロジックモデルに基づき、アウトカムおよびKPIが設定されている。各採択プロジェクトに対しては、これらを踏まえたプロジェクト目標の設定を求め、各年度において定量的なプロジェクト評価を実施している

ロジックモデルとKPI（文化施設による高付加価値化機能強化支援事業）

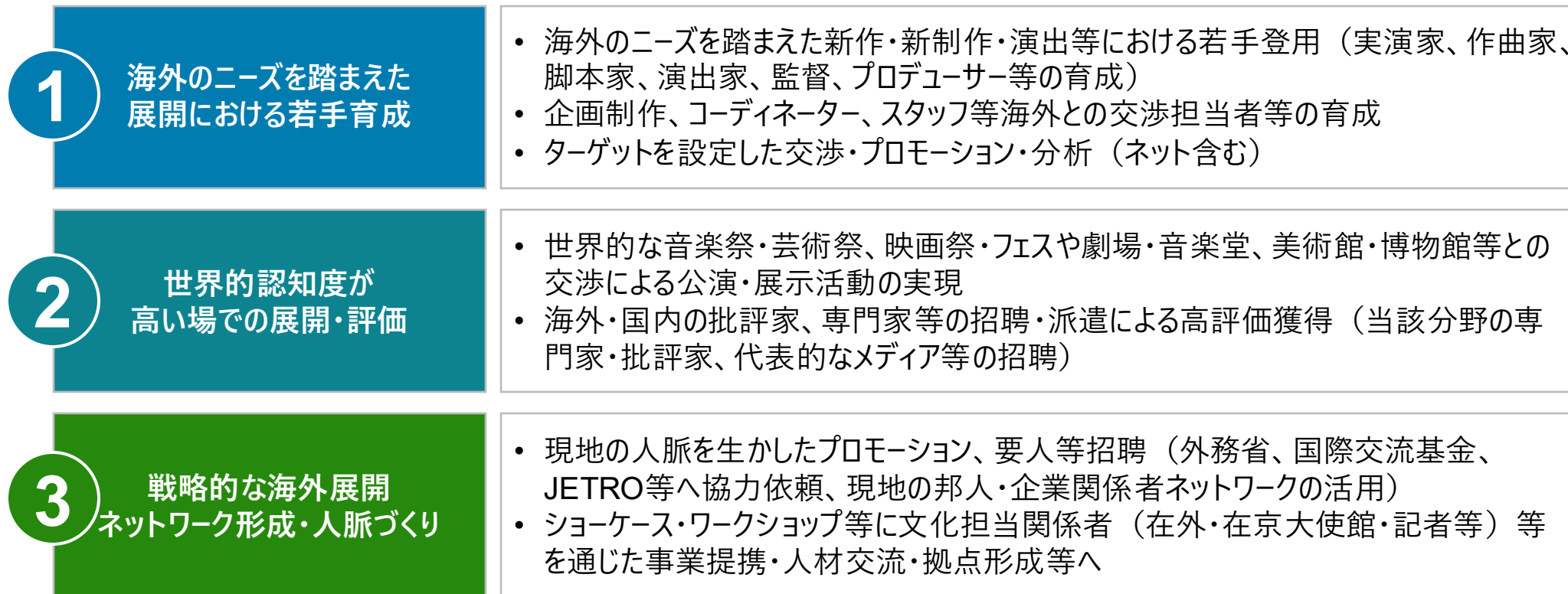
「文化施設による高付加価値化機能強化支援事業」ロジックモデル



出所：公表資料より抜粋

本事業では、海外展開に対する3つの方向性・ポイントを以下のとおり定め、各分野の海外ニーズの特性・状況を踏まえた海外展開を重視している

本事業の海外展開に対する方向性・ポイント



各分野の海外ニーズの特性・状況を踏まえた展開が必須

本事業の趣旨・要件等を踏まえ、クリエイター・アーティスト等育成事業では、専門家の審査を経て28*1のプロジェクトが採択された

クリエイター・アーティスト等育成事業採択プロジェクト一覧 (1/3)

#	プロジェクト名	採択団体名	採択額 (千円)	概要ページ
1	国際音楽祭での新作初演と新作オペラ “The Great Wave”の国際共同制作を通じた若手育成	株式会社 KAJIMOTO	300,000	p.94,95
2	アーティストの好循環を創り出す～大規模国際共同制作オペラ通した輸出型プロモーションの試み～	公益財団法人 東京二期会	100,000	p.96,97
3	ニコニコ動画主催企画を介した若手クリエイター発掘 および海外進出プロジェクト	株式会社 ドワンゴ	220,000	p.98,99
4	欧州公演ツアーを通じたオーケストラの次世代担い手 育成プロジェクト	公益財団法人 読売日本交響楽団	100,000	p.100,101
5	海外公演を通じた国際的なダンサー育成プロジェクト	公益財団法人 新国立劇場運営財団	110,000	p.102,103
6	世界に羽ばたく次世代クリエイターのためのDance Base Yokohama国際ダンスプロジェクト“Wings”	一般財団法人 セガサミー文化芸術財団	90,000	p.104,105
7	次世代の国際スター創出および世界五大バレエ団達 成プロジェクト	公益財団法人 日本舞台芸術振興会	150,000	p.106,107
8	KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭をプ ラットフォームとした次代のクリエイター育成事業	一般社団法人 KYOTO EXPERIMENT	90,000	p.108,109
9	SOIL Fellowship Program	一般社団法人 緊急事態舞台芸術ネットワーク	170,000	p.110,111
10	世界を現場にする次代クリエイターの育成プロジェクト	株式会社 サイ	80,000	p.112,113

出所：採択プロジェクト概要資料および令和6年度報告書

*1 29件のプロジェクト採択後に同一事業者による2件のプロジェクトが1件に集約された

本事業の趣旨・要件等を踏まえ、クリエイター・アーティスト等育成事業では、専門家の審査を経て28*1のプロジェクトが採択された

クリエイター・アーティスト等育成事業採択プロジェクト一覧 (2/3)

#	プロジェクト名	採択団体名	採択額 (千円)	概要ページ
11	IN TRANSIT －異なる文化を横断する舞台芸術プロジェクト－	株式会社 precog	170,000	p.114,115
12	世界のショービジネス界で飛躍するクリエイター育成 プロジェクト	株式会社 ホリプロ	170,000	p.116,117
13	歌舞伎の海外展開を目指したクリエイター育成	松竹 株式会社	300,000	p.118,119
14	日本音楽の魅力発信プロジェクト －和の文化活動を通じた若手育成－	特定非営利活動法人 日本音楽国際交流会	110,000	p.120,121
15	世界で高い評価を得られる文楽・技芸員 (アーティスト) 育成プロジェクト	公益財団法人 文楽協会	130,000	p.122,123
16	舞台芸術海外コーディネーター育成事業	公益社団法人 全国公立文化施設協会	94,000	p.124,125
17	グローバル・アニメ・チャレンジ	株式会社 キネマシトラス	230,000	p.126,127
18	Manga International Network Team (MINT)	一般財団法人 出版文化産業振興財団	178,000	p.128,129
19	Top Game Creators Academy(TGCA)	一般社団法人 コンピュータエンターテインメント協会	178,000	p.130,131
20	WAN: Art & Tech Creators Global Network	公益財団法人 画像情報教育振興協会	178,000	p.132,133

本事業の趣旨・要件等を踏まえ、クリエイター・アーティスト等育成事業では、専門家の審査を経て28*1のプロジェクトが採択された

クリエイター・アーティスト等育成事業採択プロジェクト一覧 (3/3)

#	プロジェクト名	採択団体名	採択額 (千円)	概要ページ
21	New Way, New World: Program for Connecting Japanese Animators to the World	公益財団法人 画像情報教育振興協会	168,000	p.134,135
22	Film Frontier	公益財団法人 ユニジャパン	280,000	p.136,137
23	T3: PHOTO FESTIVAL TOKYO / PHOTO ASIA / NEW TALENT	一般社団法人 TOKYO INSTITUTE of PHOTOGRAPHY	100,000	p.138,139
24	JUMP アーティスト＋キュレーター国際協働プログラム	独立行政法人 国立美術館	178,000	p.140,141
25	オペラ『Super Angels』新シリーズ制作及び海外展開 に向けた領域横断型人材育成	アタック・トーキョー 株式会社	200,000	p.142,143
26	渋谷・京都を拠点に「GAME/遊び」を起点としたクリ エーションとグローバルネットワークを形成する404 Not Found・art bit連携プロジェクト「ars●bit」	一般社団法人 渋谷あそびば制作委員会	110,000	p.144,145
27	「Kogei」アーティスト育成グローバル展開プロジェクト	認定NPO法人 趣都金澤	200,000	p.146,147
28	日本文化輸出プラットフォーム『KAISEKI』	株式会社 スクリイム・ラウダア	100,000	p.148,149

本事業の趣旨・要件等を踏まえ、文化施設による高付加価値化機能強化支援事業では、専門家の審査を経て13のプロジェクトが採択された

文化施設による高付加価値化機能強化支援事業採択プロジェクト一覧 (1/2)

#	プロジェクト名	採択施設名	採択額 (千円)	概要ページ
1	大分発アートプラクティス発信事業 -竹/キュレーション・プロデュース	大分市美術館	57,000	p.173,174
2	次世代型学習コンテンツプロデューサー育成プロジェクト	国立科学博物館	280,000	p.175,176
3	Global Exhibition Team (GET) による 日本文化発信プロジェクト	東京国立博物館	250,000	p.177,178
4	グローバル・アート・プロフェッショナル育成プロジェクト	森美術館	260,000	p.179,180
5	Constellation ~世界をつなげる愛知県芸術劇場ダンスプロジェクト~	愛知県芸術劇場	40,000	p.181,182
6	無隣館インターナショナル	江原河畔劇場	39,444	p.183,184
7	ストリートシアター グローバル人材育成プロジェクト "STRANGE Lab."	SPAC-静岡県舞台芸術センター	53,000	p.185,186
8	劇場による総合的な人材育成・国際発信プロジェクト	世田谷文化生活情報センター (世田谷パブリックシアター)	100,500	p.187,188
9	TMTギア-東京芸術劇場クリエイター支援プロジェクト	東京芸術劇場	130,000	p.189,190
10	音楽クリエイター育成プロジェクト Tokyo & Paris to the NEXT	東京文化会館	50,000	p.191,192

出所：採択プロジェクト概要資料および令和6年度報告書

本事業の趣旨・要件等を踏まえ、文化施設による高付加価値化機能強化支援事業では、専門家の審査を経て13のプロジェクトが採択された

文化施設による高付加価値化機能強化支援事業採択プロジェクト一覧 (2/2)

#	プロジェクト名	採択施設名	採択額 (千円)	概要ページ
11	Step into the world from Matsumoto	まつもと市民芸術館	18,121	p.193,194
12	子ども×テクノロジー作品の制作を通じた人材育成プロジェクト	山口情報芸術センター[YCAM]	40,000	p.195,196
13	ロームシアター京都 レポートリーの創造 ホープス	ロームシアター京都	40,000	p.197,198

1.はじめに

- (1) 本事業の概要
- (2) 業務実施概要

本報告書で参照する情報は、インターネット上の公開情報をはじめ、令和6年度の実績報告書やインタビュー等を通じて段階的に収集し、分析・検証を進めた

本報告書の作成概要

参照した情報

公表資料・情報

文化庁、独立行政法人 日本芸術文化振興会や文化芸術活動基盤強化基金などの各種ウェブサイトや公表されている参考資料等

令和6年度実績報告書

※取りまとめは別途一次報告書で作成

令和6年度（1年目）における各プロジェクトのプロジェクト概要、活動状況、活動における成果や課題に関する報告書（団体が本プロジェクトのFMTに基づいて作成）

採択プロジェクトインタビュー

約60分間のオンラインインタビューでプロジェクトに関わる指導者・団体・育成対象者から聴取した、これまでの活動/成果/課題/今後の展望等に関するヒアリング情報

振興会・文化庁ご担当者様との協議・対話（定例会等）

定例会議を含む各種会議における振興会および文化庁ご担当者様からの各プロジェクトに関するヒアリング情報

2次報告書（本報告書）

はじめに

- ・ 本業務の概要
- ・ 本事業の概要
- ・ 業務実施概要

全体サマリー

- ・ 令和6年度の事業実施効果
- ・ 事業別の主な成果
- ・ 海外展開に係る課題およびプロジェクトの意見・要望
- ・ 今後の示唆・提言

クリエイター等育成支援事業詳細資料

- ・ 採択プロジェクトインタビュー個票
- ・ 採択プロジェクト概要

文化施設による高付加価値化機能強化支援事業詳細資料

- ・ 採択プロジェクトインタビュー個票
- ・ 採択プロジェクト概要

令和6年度の活動・成果・課題等をより詳細に把握し、本事業の効果を分析すべく、42団体中、約半数の22団体に対してインタビューを実施し、結果を取りまとめた

インタビュー実施概要

調査目的	<ul style="list-style-type: none"> クリエイター等育成・文化施設高付加価値化支援事業における1年目の成果と課題と明らかにする
インタビュー項目	<div> <div> 1.業界動向・海外展開に係る課題等 <ul style="list-style-type: none"> 日本における当該分野の動向（日本コンテンツのニーズ、諸外国と比較した特徴等） 海外展開に係る課題 海外展開における成功ルート 海外展開・人材育成における考え方 </div> <div> 2.プロジェクト詳細情報 <ul style="list-style-type: none"> プロジェクトにおける目的・目標・概要 これまでの活動実績 プロモーションにおける活動 本基金によって活性化した活動/新たに取り組んだ活動 </div> <div> 3.成果・課題 <ul style="list-style-type: none"> プロジェクトにおける成果/今後見込まれる成果 育成対象者のスキル/マインドの変化 団体/業界/地域にもたらした好影響や波及効果 本基金のメリット 現状プロジェクトが抱える課題 </div> <div> 4.今後の展望 <ul style="list-style-type: none"> 本基金の活動を経て業界へ還元できるポイント等 基金への要望/改善点等 持続的な海外展開に向けて今後求められること 今後の活動の計画/展望 今後のプロモーションにおける計画/展望 </div> </div>
調査先の選定基準	<p>以下の選定基準に基づき、採択団体全42団体の約半数以上をインタビュー対象とする</p> <ul style="list-style-type: none"> 各分野/区分（クリエイター等育成事業は分野、文化施設による高付加価値化機能強化支援事業は区分）の網羅性を担保する 令和6年度実績報告書時点で、他団体の参考になる活動やユニークな活動を行っている
調査手法	<ul style="list-style-type: none"> 約60分間のオンラインインタビュー
調査期間	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年8月18日～令和7年9月16日

令和6年度の活動・成果・課題等をより詳細に把握し、本事業の効果を分析すべく、42団体中、約半数の22団体に対してインタビューを実施し、結果を取りまとめた

インタビュー実施団体一覧

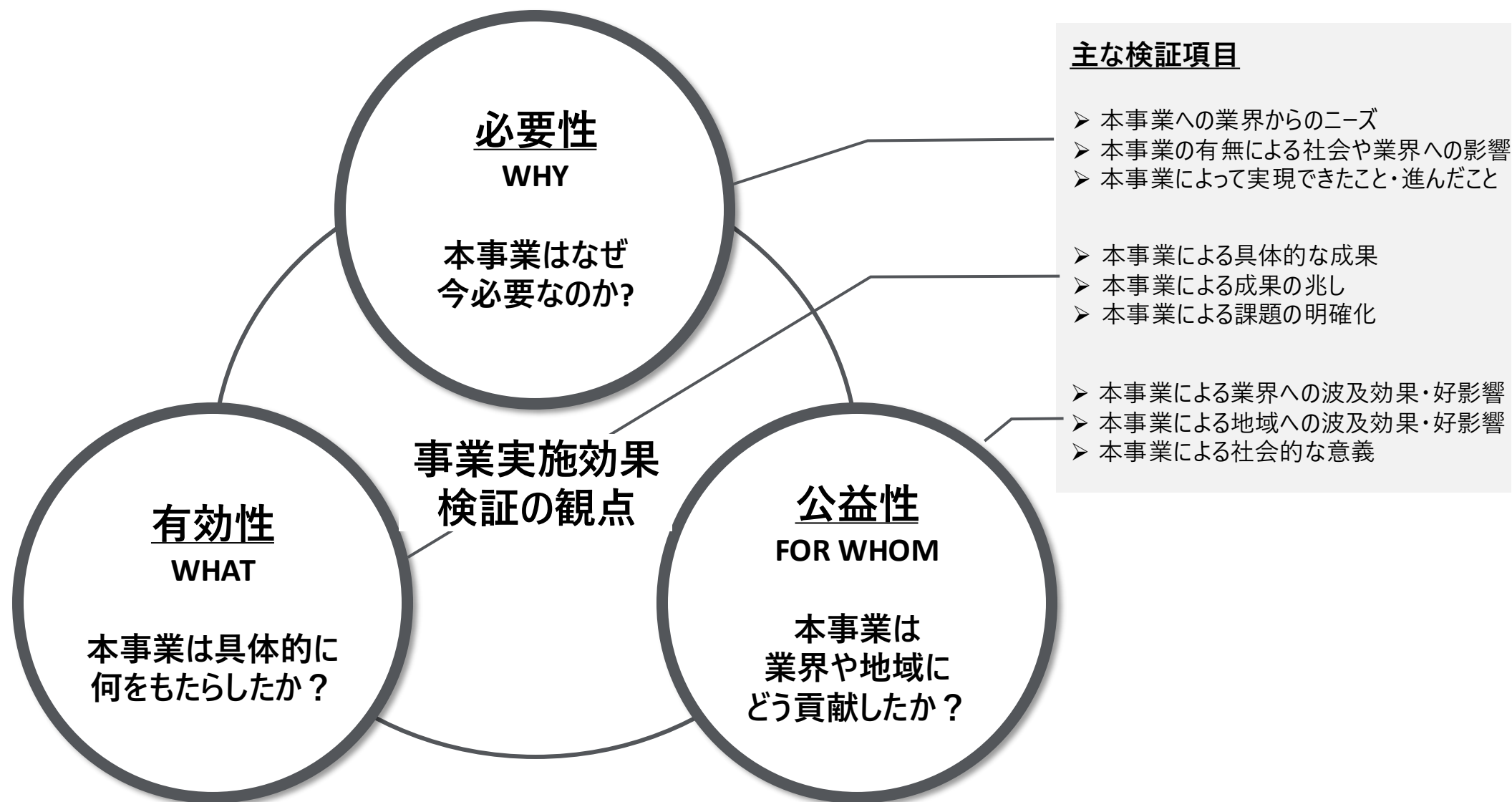
事業名	分野／区分（大項目）	分野／区分（小項目）	団体名／施設名	インタビュー詳細ページ
クリエイター等育成事業	音楽	オペラ	公益財団法人東京二期会	p.48 – 50
		オーケストラ	公益財団法人読売日本交響楽団	p.51 – 53
	舞踊	バレエ	公益財団法人新国立劇場運営財団	p.54 – 56
		現代舞踊	一般財団法人セガサミー文化芸術財団	p.57 – 59
	演劇	現代演劇	一般社団法人KYOTO EXPERIMENT	p.60 – 62
		現代演劇	株式会社precog	p.63 – 65
		現代演劇／ミュージカル	一般社団法人緊急事態舞台芸術ネットワーク	p.66 – 68
	伝統芸能	伝統芸能・大衆芸能（邦楽）	特定非営利活動法人日本音楽国際交流会	p.69 – 71
	舞台芸術	舞台芸術等	公益社団法人全国公立文化施設協会	p.72 – 74
	メディア芸術	ゲーム	一般社団法人コンピュータエンターテインメント協会	p.75 – 77
		マンガ	一般財団法人出版文化産業振興財団	p.78 – 80
		アニメ	公益財団法人画像情報教育振興協会	p.81 – 83
		映画／アニメ	公益財団法人ユニジャパン	p.84 – 86
	現代アート	現代アート	独立行政法人国立美術館	p.87 – 89
	分野横断的新領域	分野横断的新領域	認定NPO法人趣都金澤	p.90 – 92
文化施設による高付加価値化機能強化支援事業	博物館・美術館等	大規模	東京国立博物館	p.151 – 153
		大規模	森美術館	p.154 – 156
	劇場・音楽堂等	小規模	愛知県芸術劇場	p.157 – 159
		小規模	江原河畔劇場	p.160 – 162
		中規模	東京芸術劇場	p.163 – 165
		小規模	まつもと市民芸術館	p.166 – 168
		小規模	山口情報芸術センター[YCAM]	p.169 – 171

2.全体サマリー

- (1) 1年目途中経過（令和6年度の事業実施報告）
- (2) 事業別の主な成果
- (3) 海外展開に係る課題およびプロジェクトの意見・要望
- (4) 今後の示唆・提言

基金の事業実施初年度となる令和6年度については、事業の「必要性」「有効性」「公益性」の3つの観点から、本事業が創出した社会や業界に与えた影響や波及効果等を整理した

本事業の実施効果検証の観点



本事業の実施効果検証の観点①「必要性」 | 本事業はなぜ今必要なのか?

必要性 WHY

採択プロジェクトより聴取した意見からは、現在日本の文化芸術コンテンツは国際的に注目を集め、海外展開の好機を迎えている一方、活動リソース不足の解消を進め、人材育成や海外関係者等との関係構築等の成果の創出に一定の時間を要する取組を着実に行う必要があることが確認できた。そのためには長期的かつ柔軟に様々な準備やチャレンジができる支援体制が求められており、現在の日本の文化芸術にとり、本事業の必要性が極めて高いことが確認された

海外展開にかかる文化芸術分野の動向

海外動向

日本のコンテンツへの 注目・期待の高まり

海外では、近年のデジタルでのコンテンツ配信の普及・浸透に伴い、日本のマンガやアニメ、およびそれらを原作とした舞台作品等が注目・期待を集めており、日本のコンテンツは海外展開の好機を迎えている。文化・歴史等の伝統的な要素と日本ならではの感性・クリエイティビティ・価値観を適切に活かすことが評価ポイントのひとつとなっている

国内動向

海外展開を支える リソース・ネットワーク・知見の不足

多くの分野にて、活動資金や人材等の海外展開におけるリソースが不足している。また、国内市場における活動が多かったことによる、海外関係者とのネットワークや現地の最新情報の不足、そして既に世界で活躍している一部の人材へ活躍の場が偏ってしまう傾向も見られる。さらに、海外志向があっても、上記のリソース不足等により海外現地への視察訪問等は個人的に行わざるを得ないケースも多く、組織や業界への体系的な知見・ノウハウの蓄積という点においても課題が見られる

長期的かつ柔軟な 支援スキームの不足

海外展開を進めるためには、そのための人材育成や、展開先の関係者およびキーパーソン等とのネットワーク・信頼関係の構築等、長期的かつ地道な活動が強く求められる。一方で、国の実施する多くの支援事業は、単年度で終了してしまう（成果を求められる）ため、本格的な海外展開を進める上では、長期的かつ柔軟なスキームによる支援が、より成果創出につながりやすいと考えられる

本事業の実施効果検証の観点②「有効性」 | 本事業は具体的に何をもたらしたのか？

有効性 WHAT

事業初年度は多くのプロジェクトで、本事業の支援スキームを上手く活用し、多様な育成対象者の選抜や国内外の指導者の招聘等による海外展開を推進する体制構築を行いながら、海外の芸術祭等の視察やネットワーキングを目的とした具体的な活動に着手しているほか、既に海外公演を実施したり、作品に対する現地の高評価を獲得した事例も生まれており、2年目以降の展開に期待が持てる着実な前進を見せた

事業初年度の主要な活動・成果

事業アウトカム・KPIへの貢献

事業初年度より、音楽やメディア芸術分野の複数のプロジェクトで、欧州での公演実施や国内外のコンクール・映画祭関連事業での入賞等、本事業の初期・長期アウトカムおよびKPIの達成に貢献する成果が生まれた。現地メディアや観客等からも高い評価を獲得したほか、育成対象者を含むプロジェクト関係者は、多くの学び・気づきを持ち帰り、今後のプロジェクト推進に弾みをつけた

多様な育成対象者の選抜と指導者の招聘による体制構築

各プロジェクトでは成果の創出および現状課題の解決に向けて、クリエイター・アーティストのみならず、プロデューサーや批評家等、様々な役割を担う人材を育成対象者として選抜し、プロジェクトの推進体制を構築した。また、海外の著名なアーティストや専門家、海外実績を豊富に持つ有識者等が多数本事業の趣旨・目的に賛同し、指導者としてプロジェクトに参画し、2年目以降の本格的な海外展開に向けた内部基盤の整備が進んだ

育成対象者の創作能力・マインドの深化

実績・経験豊富な指導者による直接指導や講義、さらには海外での芸術祭等の視察、ネットワーキング、ピッチ等、事業初年度から多くの育成対象者が様々な経験を積んでおり、スキル・マインド両面から変化や成長が見られた。本事業には、これまで海外展開経験の少ない育成対象者も多く、これらの経験が、自身の創作活動を客観的に見つめ直したり、海外で高い評価を受けることで自身の作品に自信を持つ機会となっており、良い影響が生まれている

海外関係者とのネットワーク構築の進展

多くのプロジェクトにおいて、海外展開を図るうえで必要不可欠となる現地の関係者やキーパーソンとのネットワークや関係構築が課題となるなか、多くの関係者が集まる海外芸術祭等への訪問や、海外関係者の国内への招聘が可能となり、ネットワーキングが進んだ。また、複数年度支援という本事業のスキームや、文化庁の事業の採択プロジェクトである点が、今後の海外展開の交渉を進める上で有利にはたらいっている側面もあり、プロジェクトの前進に繋がった

本事業の実施効果検証の観点③「公益性」 | 本事業は業界や地域にどう貢献したのか？

公益性 FOR WHOM

採択プロジェクトが業界全体や地域社会に対してどのように貢献したかという点では、初年度より海外から高評価を獲得し、業界における日本の国際的なプレゼンスを高める動き、多様な人材の選抜とノウハウ・知見の共有を通じて業界全体のレベルアップにつなげる動き、そして活動を行う地域の人々との交流を通じて地域活性化やブランディングを推進する動き等、多くのプロジェクトで公益的な価値をもたらす活動が見られた

業界や地域への貢献に資する活動

国際的な舞台での 日本のプレゼンス向上

舞台芸術の複数のプロジェクトにおいて、国内外の著名な指導者による指導や、育成対象者の意識の醸成等を経て、本場欧州での公演が実現した。世界的にも著名な文化施設で披露された日本の高度な技術は、観客や現地メディア等からも高く評価され、国際的な舞台における日本の存在感を高めた。
また、映画のプロジェクトでは、育成対象者の企画が企画ピッチで入賞を果たす等、業界へのインパクトももたらした

業界への情報や ノウハウの発信・還元

舞台芸術や現代アートを中心とする複数のプロジェクトにて、プロジェクトの特設サイトで海外展開ノウハウや創作活動プロセスの発信を行う等、業界全体への情報やノウハウの発信・還元を進める動きが見られた。
海外展開経験や情報不足という課題を抱える団体も多いほか、海外からの日本のクリエイター等に関する情報へのニーズも一部では確認され、広範かつ効果的な情報発信が、国内外に広く好影響を与える可能性が示唆された

多様な人材の選抜による 業界の人材基盤強化

多くのプロジェクトで、クリエイター・アーティスト、プロデューサー、監督、キュレーター、演出家、批評家、広報、企画制作等の多様な人材を育成対象者として選抜し、企画開発から展開（施設機能強化）までの一連の海外展開プロセスに総合的に取り組む体制を構築した。
様々な立場・役割の人が育成対象となることで、業界全体での海外展開に向けた人材基盤の強化が期待される

地域の活性化や ブランディングへの寄与

演劇やダンスのプロジェクトでは、地域の演劇祭や文化・教育施設等との連携を通じた「演劇による地域活性化」や、育成対象者の移住を伴う地域密着型のプロジェクト活動を通じた「ダンスによる地域ブランディング」等を進めている。
また、舞台芸術のプロジェクトでは、子どもを対象とするAI技術を活用した新たな作品制作や、育成対象者による一般向けのワークショップの実施等、地域社会・住民と直接的に交流しながら創作を進める動きも見られた

2.全体サマリー

- (1) 令和6年度の事業実施効果
- (2) 事業別の主な成果
- (3) 海外展開に係る課題およびプロジェクトの意見・要望
- (4) 今後の示唆・提言

本事業初年度は、クリエイター・アーティスト等育成事業で4件、文化施設による高付加価値化機能強化支援事業で2件の短期・長期アウトカムのKPI達成に寄与する成果が創出された

事業別アウトカム達成への貢献状況

クリエイター・アーティスト等
育成事業

文化施設による高付加価値化
機能強化支援事業

短期アウトカム
KPI①へ貢献

ベルリン・フィルハーモニーでの公演実施 + 現地高評価獲得
(読売日本交響楽団)

- 世界的に認知されているベルリン・フィルハーモニーにて公演を実施
- Schwalzwalder Bote紙 (フィリンゲン=シュヴェニンゲン) をはじめとする独英8都市の各公演地の現地批評で多くの高評価を獲得



長期アウトカム
KPI③へ貢献

「沖縄環太平洋映画インダストリー」最優秀企画賞受賞
(ユニジャパン)

- プロジェクトの育成対象者が、将来的に国際的な評価を得る可能性が見込まれる「沖縄環太平洋国際映画祭Cinema at Sea」の関連事業「沖縄環太平洋映画インダストリー」にて企画ピッチを実施
- 育成対象者の太田信吾氏が最優秀企画賞を受賞



短期アウトカム
KPI①へ貢献

藤本壮介展の開催 + 高評価獲得
(森美術館)

- 7月2日から開催した藤本壮介展は、9月6日時点で入場者10万人を突破し、藤本展に関するメディア掲載件数は46件に到達。「藤本壮介という建築家の過去・現在・未来を、身体感覚を通じてたどることのできる貴重な機会である」(美術手帖)と高評価を獲得
- 2026年には、台湾・韓国での巡回展を予定



長期アウトカム
KPI③へ貢献

第21回リヨン国際室内楽コンクール入賞
(東京二期会)

- 第21回リヨン国際室内楽コンクール (声楽・ピアノデュオ部門) にて、育成対象者である七澤結氏が第3位入賞および委嘱作品最優秀演奏賞受賞



長期アウトカム
KPI③へ貢献

神ゲー創造主エボリューション 2024「審査員賞」を受賞
(渋谷あそびば制作委員会)

- NHKが主催する革新性をテーマにしたゲームクリエイターコンテスト「神ゲー創造主エボリューション 2024」において、プロジェクトの育成対象者が作品を出品
- 育成対象者の西島大介 (島島) 氏の作品が「谷口 暁彦 審査員賞」を受賞



長期アウトカム
KPI③へ貢献

YPAM2024での高評価獲得 + 海外公演機会の獲得
(愛知県芸術劇場)

- 横浜国際舞台芸術ミーティング (YPAM) において育成対象者が出演する作品発表を実施
- 上記において育成対象者の酒井はな氏が出演する作品に声がかかり、業界的にも国際的にも高い注目を集めるドイツとオランダの舞台芸術祭において公演機会を獲得した (2026年2月上旬及び5月下旬予定)



『ジゼルのアらすじ』

クリエイター・アーティスト等育成事業では、主に以下のような成果創出に向けた活動やアプローチが見られ、事業初年度より多くの採択プロジェクトで具体的な海外展開へのアクションが取られた

クリエイター・アーティスト等育成事業 | 成果創出に向けた活動・アプローチ例

活動の領域	成果創出に向けた活動・アプローチ例
【創作】 創作能力の向上や新たな作品価値の創造に関する活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 海外のアーティストや専門家の招聘による指導 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 世界で活躍する著名なアーティストや、海外現地と日本の事情に精通した、広い業界ネットワークを持つ専門家を招聘し、育成対象者に対する創作活動の指導や助言を実施した ● 海外展開に係る講習会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 既存のネットワーク等を活用し、海外にて多様な領域で活動している実演家や研究者等を講師とした講習会を実施した ● 多様な育成対象者や指導者の関与体制の構築 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 業界の人材課題解決に貢献すべく、大学生を含む多様なクリエイターや業界内の複数企業から指導者を集め、活動を始めた
【発信】 国内外への広報発信およびその基盤構築に関する活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内外の芸術祭等でのピッチ・作品プレゼンテーションの実施 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 育成対象者は、国内外の芸術祭や映画祭等に参加し、自身の作品のピッチや企画プレゼンテーションを行い、作品や自分の考え等を海外関係者に発信した ➢ 同時通訳の導入等の運営面での工夫を行ったり、企画のトレーラー映像を制作することで作品の意図が伝わりやすいような構成で、ピッチを実施した ● プロジェクトの進捗や創作過程の可視化 <ul style="list-style-type: none"> ➢ プロジェクトの特設サイトの立ち上げや、対面イベントの開催を通じ、プロジェクト概要や最新の活動状況を発信した ● 海外関係者・文化施設との連携による情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 本格的な海外展開を前に、海外の著名な博物館と共催でシンポジウムを開催し、現地関係者への情報発信を行った ● 現地ファンとの交流の実施 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 海外のイベント出展や、現地大学と連携したトークイベント・サイン会を開催し、現地のファンとの交流を行った
【ネットワーキング・交渉】 海外関係者等とのネットワーク構築や展開に向けた交渉に関する活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 育成対象者の海外芸術祭等への視察・出展参加 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 海外関係者とのネットワークを有するプロジェクト関係者とともに、育成対象者が海外の芸術祭等を視察訪問し、今後の活動を見据えた現地の最新動向入手や関係者とのネットワーキングを実施した ● 国内の芸術祭への海外関係者の招聘 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 国内の芸術祭における育成対象者のショーケース公演に合わせて海外の著名な劇場や芸術祭の関係者を招聘した
【展開】 公演等の海外展開および現地評価の獲得に関する活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 欧州での公演の実施 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 英独8都市でのオーケストラの公演ツアーや、イギリスの著名な劇場でのバレエ公演が実現した ● 著名な音楽コンクール等への出品・出場 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 育成対象者が、国際映画祭併設の企画ピッチングフォーラムで自身の企画のピッチを行った ➢ 海外の指導者による指導を受けた育成対象者が、フランスの著名な音楽コンクールに出場した

クリエイター・アーティスト等育成事業では、主に以下のような成果創出に向けた活動やアプローチが見られ、事業初年度より多くの採択プロジェクトで具体的な海外展開へのアクションが取られた

クリエイター・アーティスト等育成事業 | 創出された活動成果・好影響・波及効果例

活動の領域	創出された活動成果・好影響・波及効果例
【創作】 創作能力の向上や新たな作品価値の創造に関する活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 実践的な指導を通じた育成対象者の創作スキルの向上とマインドの醸成 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 育成対象者が、招聘した海外指導者と寝食をともにする等多くの時間を共有し、相互理解や信頼関係を築きながら指導を受けたことで、技術面のみならず、意識や考え方の面でも多くの刺激を受けた ● 企業等の組織の枠を超えた多数の熱意ある指導者および若手育成対象クリエイターの巻き込み <ul style="list-style-type: none"> ➢ 業界内への訴求等を通じ、30名超の指導者の参画と、大学生を含む熱意ある若手クリエイターを選抜することができた。指導者から活動の改善や新たな施策に対する提案がある等、関係者の間で積極的なプロジェクト推進が見られた ● 国際共同制作への発展と契約の締結 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 指導者として参画する海外プロデューサーと対話を重ねて相互理解・信頼関係が構築ができたことにより、共同制作契約の締結を進めることができた
【発信】 国内外への広報発信およびその基盤構築に関する活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 国際的な場でのピッチ・プレゼンテーションスキルの向上と高評価の獲得 <ul style="list-style-type: none"> ➢ プレゼンテーションを作り上げる過程で語学力の向上や自身の作品の振り返りにもつながった ➢ ピッチでの高評価を受けて、業界関係者限定のVIPイベントへの招待等を受け、業界における日本のプレゼンス向上に貢献できた ● 新たな引き合いの獲得 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 海外現地でのイベント開催を通じ、作品に付随するコンテンツの依頼や翻訳依頼を受けたほか、海外芸術祭でのピッチを通じて、フェスティバル出演の打診や共同制作の提案を受けた ● 戦略的な情報発信の進展 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 海外博物館との共催イベントを通じて新たなネットワークを獲得し、次年度以降のプロジェクトの海外展開活動をより多くの関係者等に事前発信・訴求していけるようになった ● 育成対象者の情報共有意識の向上 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 海外での創作活動や海外指導者等と接する中で得た実践的な気づきを、より多くの人に共有していきたいという意識が芽生えた
【ネットワーキング・交渉】 海外関係者等とのネットワーク構築や展開に向けた交渉に関する活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 海外関係者ネットワークの拡充・深化 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 海外芸術祭等への出展等を通じてつながった海外関係者と、その後のフォローアップ等が進み、継続的にやりとりをする関係を構築することができた
【展開】 公演等の海外展開および現地評価の獲得に関する活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 現地事業者との連携による海外展開実現と国内外での高評価獲得 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 海外公演にあたり、現地事業者と広報・プロモーション等の面で連携や調整を図る等、公演の成功につなげるための一連の活動を経験し、現地との調整のノウハウやポイントを認識することができた ➢ 国内テレビ局との連携を図ったほか、YouTubeでの動画配信等を実施し、当日の現地メディアや観客からの高評価・反響に加えて映像として記録・発信することで、国内やオンラインでも大きな反響を得た

活動の領域ごとのプロジェクトの主な活動成果は以下のとおり

クリエイター・アーティスト等育成事業 | 主な活動成果詳細

活動の領域

【創作】創作能力の向上や新たな作品価値の創造に関する活動

フランス人プロデューサーとの共同制作の決定 (ユニジャパン)



内容詳細

- 指導者として参画したフランス制作会社のジャン＝マリー・ジゴン氏に対し、制作実務（プレゼン映像、脚本）から資金・人間関係の悩みまで相談を重ねた。こうした密なコミュニケーションを通じて信頼関係を構築した結果、同氏を本プロジェクトのプロデューサーとして正式にお迎えすることになった
- プロデューサー就任に際して、共同製作契約を結び、制作費の一部も提供されることとなり、撮影の目途が立つに至った

世界的バリトン歌手ロラン・ナウリ氏ら による指導の実施 (東京二期会)



内容詳細

- 世界的バリトン歌手ロラン・ナウリ氏や、ミラノ・スカラ座をはじめとする世界的に活躍する指揮者を招聘し、「マスタークラス」と呼ばれる公開形式のレッスンを実施した
- 招聘した海外指導者とは、寝食をともにする等、多くの時間を共有し、相互理解や信頼関係を築きながら指導を受けたことで、技術面のみならず、歌手として世界で活躍していくうえでの意識や考え方の面でも多くの刺激を受けた

30名を超える指導者の参画と 若手クリエイターのモチベーション向上 (コンピュータエンターテインメント協会)



内容詳細

- 約35名の指導者が参加しており、若手の人材育成への熱意を持つものが多い。指導者が勉強会や座談会の実施を提案、実際に実施する等、育成対象者への助言の機会を多く創出している
- 専任メンターとなっている指導者とは毎月オンラインでミーティングを実施し、制作の助言をしている
- 本プロジェクトには大学生も多く選抜されているが、国の支援プログラムであることから、保護者の後押しも得やすく、それが育成対象者のモチベーションの向上につながっている

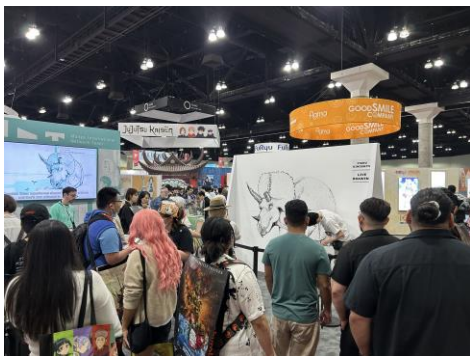
活動の領域ごとのプロジェクトの主な活動成果は以下のとおり

クリエイター・アーティスト等育成事業 | 主な活動成果詳細

活動の領域

【発信】国内外への発信活動およびその基盤構築に関する活動

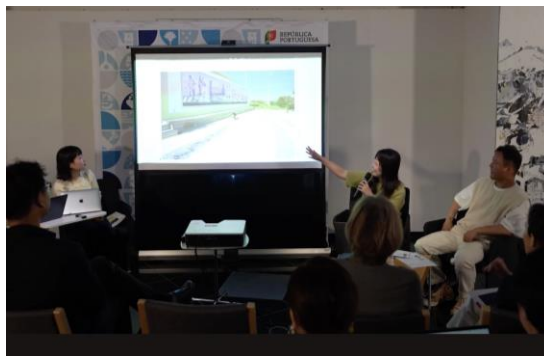
指導者の助言を活かした北米への展開と、
現地での高い評価による事業拡大の可能性
(出版文化産業振興財団)



内容詳細

- 令和7年にAnime Expo（ロサンゼルス）でのブース出展や、カリフォルニア美術大学（サンフランシスコ）でのトーク・サイン会を実施した
- 渡航前に指導者と面談し、現地での積極的なコミュニケーションや断るべきことの判断など、バランスを取る対応について助言を受けた
- 育成対象者は、現地でファンと交流する中で自身の作品が高く評価されていることを実感し、今後の制作意欲をより高めることができた

オンライン・オフライン双方からの情報発信
(独立行政法人国立美術館)



内容詳細

- 本プロジェクトのウェブサイトを作成し、海外美術館での展示までのプロセスの可視化や情報発信に積極的に取り組んでいる
- リスボンチームは、国内への知見還流のために、駐日ポルトガル大使館において、リサーチ報告会を実施した
- オンライン、オフライン両面での情報発信を行うことで、本プロジェクトの認知度向上と海外展開のプロセスの可視化による業界への知見還流に努めている

V&A博物館（ロンドン）でのシンポジウム開催
(趣都金澤)



内容詳細

- 「Kogei」の単なる普及や市場拡大にとどまらず、学術的な新しい言説を生み出すことを目的にV&A博物館（ロンドン）においてシンポジウムを実施した
- 本シンポジウムに参加した育成対象者からは、日本と海外という異文化間においても共通の課題が存在することを認識できたとの意見があった。その結果、「日本的なもの」に固執せず、より柔軟な発想で制作に取り組む姿勢が醸成されたことが確認された

活動の領域ごとのプロジェクトの主な活動成果は以下のとおり

クリエイター・アーティスト等育成事業 | 主な活動成果詳細

活動の領域

【ネットワーキング・交渉】海外関係者等とのネットワーク構築や展開に向けた交渉に関する活動

英国主要フェス参加を通じた国際展開基盤
構築・ネットワーク強化
(緊急事態舞台芸術ネットワーク)



内容詳細

- 国際フェスティバルのプロデューサーを指導者として招き、実践的なワークショップやレクチャーを経て、世界最大の演劇祭であるエディンバラ・フェスティバル・フリンジ（イギリス）にてピッチを行った
- ピッチは現地で高評価を受け、作品概要をまとめたコンパクトな資料の作成や同時通訳の実施など運営面での工夫も行い、ネットワーキングが活発に行われた。その後、各国関係者から具体的な提案がされており、着実に次の展開につなげることができた

招聘および海外視察におけるネットワーク拡大
(KYOTO EXPERIMENT)



内容詳細

- 今年度は海外キュレーターを約20名招聘し、プログラム鑑賞の他、京都市内の文化施設を案内するなど見識を深める仕掛けをつくることで、育成対象のキュレーターや演出家等が様々な関係を構築することができた
- 次代のディレクター候補（育成対象者）によるショーケース公演を通して日本のアーティストと独自のキュレーションをアピールしつつ、アジアを中心にフェスティバルを視察することで舞台芸術界の潮流を知り、今後キュレーションする作品に生かしている

国際的ネットワークの構築による美術館間交流
(独立行政法人 国立美術館)



内容詳細

- 海外美術館のキュレーターが来日した際、育成対象者が勤務する美術館を訪問してもらい、コレクションや地元にはゆかりのあるアーティストを紹介した
- 実際に訪問してもらうことで、日本の地方美術館の規模や作品の収蔵庫など、海外美術館とのさまざまな違いを実感してもらうことができ、交流も深まった。これまで予算や規模の面で海外との関係性構築が困難であった地方公立美術館にとって、今回のような交流がきっかけとなり、今後海外展開を進めていく契機になると考える

活動の領域ごとのプロジェクトの主な活動成果は以下のとおり

クリエイター・アーティスト等育成事業 | 主な活動成果詳細

活動の領域

【展開】公演等の海外展開および現地評価の獲得に関する活動

欧州公演ツアーの実施と高評価の獲得 (読売日本交響楽団)



内容詳細

- イギリス、ドイツを周遊する欧州公演ツアーを約10年ぶりに実施した
- 楽団の知名度向上を目的として演奏の様子の録画、英語字幕追加を日本テレビに発注し、YouTube上に公開したところ、40万件近くのアクセスを獲得した
- 演奏成果に対する現地の観客、メディア上での評価は非常に高く、イギリスのメディアは、“読響というオーケストラは、表現力・音の響きにおいて別格の存在だった”との評価をした

英国ロイヤルオペラハウス公演の実施 (新国立劇場運営財団)



内容詳細

- 団体初となる海外自主公演にあたっては、現地の広報・宣伝会社と連携し、効果的な展開戦略で現地メディア関係者とのネットワークを構築。広告出稿の他、プレスランチやトークイベント等の開催によりチケット完売に繋げることができた
- 現地の複数メディアにおいて公演評が掲載され、いずれも4〜5つ星の非常に高い評価を得た。また、SNSや終演後のロビー、出待ちの観客からの熱のこもった反応は育成対象者の自信にも繋がり、その後の活動の後押しになっている

「沖縄環太平洋映画インダストリー」 最優秀企画賞受賞 (ユニジャパン)



内容詳細

- 「第2回沖縄環太平洋国際映画祭Cinema at Sea」の関連事業「沖縄環太平洋映画インダストリー」のピッチングフォーラムで、育成対象者の太田信吾氏が最優秀企画賞を受賞した
- 企画プレゼンでは、プロジェクト予算を活用してプレゼン映像を制作したことで企画への本気度や覚悟を示すことができ、次回作へと繋がる企画プレゼンを成功させることができた。海外で作品を売り込む際に、映像を用意する重要性を再認識した

文化施設による高付加価値化機能強化支援事業でも、主に以下のような成果創出に向けた活動やアプローチが見られ、事業初年度より海外展開や施設機能強化へのアクションが多く見られた

文化施設による高付加価値化機能強化支援事業 | 成果創出に向けた活動・アプローチ例

活動の領域	成果創出に向けた活動・アプローチ例
【創作】 創作能力の向上や新たな作品価値の創造に関する活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 新たなキュレーター育成を見据えた巡回展示の始動 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 国内の建築展キュレーター不足という現状課題を踏まえ、建築展の国際巡回を始動。第一歩として国内の展示を開始した ➢ 国内の建築キュレーターの育成を目的とする国際ワークショップを公募で実施し、人材の裾野を広げることも目指す ● 指導者による育成対象者の自主的な活動の尊重・サポート <ul style="list-style-type: none"> ➢ 育成対象者の自主的な活動を尊重し、指導者による指導の枠に囚われない様々な活動ができる環境を整えた ● 世界最高峰の創作環境を持つIRCAMとの連携 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 現代音楽において世界最高峰の環境を持ち、国際的に活躍する作曲家のを輩出しているIRCAM（フランス国立音響音楽研究所）と連携したプロジェクトを立ち上げた
【発信】 国内外への広報発信およびその基盤構築に関する活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界的認知度のある指導者を迎え指導の様子を発信 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 本プロジェクトの指導者に世界的デザイナー・コシノジュンコ氏を迎え、竹芸作家の育成対象者に対するレクチャーを実施した。レクチャーの様子は地元テレビ局にて取材された ● プロジェクトサイト・プロジェクトページの開設 <ul style="list-style-type: none"> ➢ クリエイションをした作品や育成対象者を日英両方で発信するプロジェクトサイト・ページを開設し、映像や活動レポート等の掲載を通じて国内外に情報発信を開始した
【ネットワーキング・交渉】 海外関係者等とのネットワーク構築や展開に向けた交渉に関する活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 育成対象者の海外フェスティバル等への視察・リサーチ訪問 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 欧州で開催されている複数のダンスフェスティバルを視察・リサーチ訪問し、各所で海外関係者とのネットワーキングを実施した ● 育成対象者の国際会議への参加、海外関係者とのミーティング実施 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 業界関係者が集まる国際会議や、海外関係者とのミーティングに参加し、指導者等からのネットワークの共有を受けた
【機能強化】 海外展開のための体制構築や推進基盤構築に関する活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 初の海外展覧会の主催 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 施設として初めて海外での展覧会を主催した。展示前の出展作品の共同調査等、長期的な関係構築を進めた ● 地域ブランディング・地域活性化の推進 <ul style="list-style-type: none"> ➢ プロジェクトの活動を地域のブランディングや活性化に寄与すべく、地域住民や地域内の施設等との交流・連携を図った

文化施設による高付加価値化機能強化支援事業でも、主に以下のような成果創出に向けた活動やアプローチが見られ、事業初年度より海外展開や施設機能強化へのアクションが多く見られた

文化施設による高付加価値化機能強化支援事業 | 創出された活動成果・好影響・波及効果例

活動の領域	創出された活動成果・好影響・波及効果例
<p>【創作】</p> <p>創作能力の向上や新たな作品価値の創造に関する活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 育成対象者の海外展開マインドの醸成 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 初めて建築展の国際巡回を交渉する上で、日常的に海外美術館の建築展へのアプローチ動向をチェックするようになった ➢ 育成対象者がこのプロジェクトをきっかけに海外展開マインドが醸成され、欧州を自発的に視察、現地の日本人アーティストへのインタビューやフェスティバル公演の鑑賞・海外関係者とネットワーキングを実施し、海外で創作する機会を獲得するにいたった ● 世界最高峰の創作環境での育成対象者の新たな学び・気づきの創出 <ul style="list-style-type: none"> ➢ IRCAMの経験豊富なクリエイターやエンジニアと密にコミュニケーションをとることにより、育成対象者が新たな境地を開拓できる創作環境づくりを着実に行うことができた
<p>【発信】</p> <p>国内外への広報発信およびその基盤構築に関する活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクトサイト・プロジェクトページの開設による劇場としての発信強化 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 育成対象者の作品が世界市場で認知されるための第一歩として、今後の海外展開に貢献可能なWEBサイトを構築した
<p>【ネットワーキング・交渉】</p> <p>海外関係者等とのネットワーク構築や展開に向けた交渉に関する活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 育成対象者への海外ネットワーキング共有 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 令和7年度の始めにニューヨークで行われた国際会議ISPA(International Society for the Performing Arts)に育成対象者を参加させ、指導者のもつネットワークを育成対象者に共有することができた ➢ その後、ギリシャのフェスティバルに参加した際に、そのネットワークを活かした活動をすることができ、育成対象者自身によるネットワーク構築も順調に進んでいる
<p>【機能強化】</p> <p>海外展開のための体制構築や推進基盤構築に関する活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 海外展開を通じた課題の再発見とノウハウの蓄積 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 海外展覧会を初めて主催したことで、法務対応等の自施設の課題を改めて認識できたほか、長期プロジェクトで関与メンバーも増えたことにより、輸出入の手続きや契約対応等様々なノウハウが蓄積された ● 創作活動と地域貢献 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 館の掲げるビジョンに強く共鳴した育成対象者が自発的に移住し、積極的に地域住民と交流している

活動の領域ごとのプロジェクトの主な活動成果は以下のとおり

文化施設による高付加価値化機能強化支援事業 | 主な活動成果詳細

活動の領域

【創作】創作能力の向上や新たな作品価値の創造に関する活動

建築展示の国際巡回と海外著名キュレーター招聘による人材育成
(森美術館)



内容詳細

- 日本では、学芸領域として建築部門を有する美術館が少なく、建築を専門とするキュレーターが十分に育成できていない。そこで活動の場を世界に広がりつつある建築家の藤本壮介に焦点を当て、その国際巡回を本基金の活用によって実施し、我が国において建築を専門とするキュレーターの育成を目指す
- また並行して、現代建築の魅力を世界に発信するための人材育成と体制構築を目指し、情報の収集と蓄積、ワークショップの企画、海外機関との連携構築等の取り組みを開始した

IRCAM（イルカム）との国際共同委嘱と、
日仏での作品発表による若手クリエイター育成
(東京文化会館)



内容詳細

- 現代音楽において世界最高峰の環境を持ち、国際的に活躍する作曲家を輩出しているIRCAM（フランス国立音響音楽研究所）と連携したプロジェクトを立ち上げた。若手クリエイターへ国際共同委嘱し、ここで創作された新作をパリと東京で発表する
- これまでに、国内外で活躍する3名の作曲家と1名のサウンドデザイナーを選出し、令和10年度までに実施する、フランスでの創作・発表スケジュールを調整している。現地コーディネーターを交え、IRCAMの経験豊富なクリエイターやエンジニアと密にコミュニケーションをとりながら、育成対象者が新たな境地を開拓できる創作環境づくりを着実にやっている

活動の領域ごとのプロジェクトの主な活動成果は以下のとおり

文化施設による高付加価値化機能強化支援事業 | 主な活動成果詳細

活動の領域

【発信】国内外への発信活動およびその基盤構築に関する活動

世界的デザイナー・コシノジュンコ氏による指導と地元テレビ局による取材
(大分市美術館)



内容詳細

- 本プロジェクトの指導者に世界的デザイナー・コシノジュンコ氏を迎え、竹芸作家の育成対象者に対するレクチャーを実施した。レクチャーの様子は地元テレビ局にて取材された
- 地元テレビ局で報道された結果、本プロジェクトの認知度向上に繋がった。また大分が誇る竹工芸への注目を集め、来秋の作品発表への期待感を効果的に高めるといふ大きな成果を上げた

海外展開を意識したウェブサイトの構築や
育成対象者の批評家による発信活動
(愛知県芸術劇場)



『ジゼルのアらすじ』

内容詳細

- 本プロジェクトの専用WEBサイトを、WEB製作者と劇場にて議論を重ねて作成・リリースし、国内外への主要な発信プラットフォームとして位置付けた。単なる情報公開にとどまらず、批評家（育成対象者）による作品のレビューやイベントのレポートなどを掲載・集約し、育成対象者自身と本プロジェクトにて製作したダンス作品の紹介を実施
- 海外展開においては、対面でのコミュニケーションが最重要であるが、その機会は限られている。育成対象者の作品が世界市場で認知されるための第一歩として、今後の海外展開に貢献可能なWEBサイトを構築した

活動の領域ごとのプロジェクトの主な活動成果は以下のとおり

文化施設による高付加価値化機能強化支援事業 | 主な活動成果詳細

活動の領域

【ネットワーキング・交渉】海外関係者等とのネットワーク構築や展開に向けた交渉に関する活動

テクノロジーを活用した作品創作を通じた国際交流の活性化 (YCAM)



撮影：守屋友樹 写真提供：山口情報芸術センター [YCAM]

内容詳細

- 国内外のフェスティバルや見本市を通じてネットワーキングを実施し、海外プレゼンターとの関係構築を進めることで、今後の海外展開の可能性を高めた。また、現代社会を映す鏡としてのフェスティバルにおいて、多くのディレクターが同時代に発生しているテクノロジーに興味関心を持っており、テクノロジーを取り入れたパフォーマンスは海外展開のニーズに即していることを再発見した
- 主にアジアの機関や舞踊団と、テクノロジーを通じたパフォーマンスについてのコミュニケーションが深まり、各国間を行き来した相互交流が生まれている。令和7年10月には、育成対象者が韓国でのテクノロジーに関するダンスイベントに、ワークショップ講師やトーク登壇者として参加し、創作するパフォーマンス表現や、実際に海外で上演するための知見を深める機会となっている

劇場の恒常的なネットワーク形成への寄与 (世田谷パブリックシアター)



撮影：細野晋司

内容詳細

- 海外公演を見据え、英国・韓国でのリサーチ・関係者との間で集中的なネットワーキングを実施。単に公演を実施するだけでなく、劇場間あるいは関係機関の恒常的な関係構築を目指し、緊密な連携を確立。先方から話があればすぐに現地に赴き、直接対話を行うことで、文化的な機微を踏まえた迅速かつ柔軟な交渉を行った
- これにより、単発の国際共同制作ではなく、長期的な共同制作プロジェクトの第1弾として、国内での公演を実現（韓国との共同制作作品2025年8月「紅い落葉」）。海外関係機関との恒常的なネットワーク構築・劇場としての強固な基盤づくりの第一歩を踏み出した

活動の領域ごとのプロジェクトの主な活動成果は以下のとおり

文化施設による高付加価値化機能強化支援事業 | 主な活動成果詳細

活動の領域

【機能強化】海外展開のための体制構築や推進基盤構築に関する活動

海外展開活動に向けた新組織「GET」の立ち上げ (東京国立博物館)



内容詳細

- 本基金への採択を機に、特命担当「Global Exhibition Team (GET)」を立ち上げた。GETでは、世界で活躍できる専門家の育成、さらには日本の伝統文化の国際的なプレゼンスの向上ならびに当該地域における日本文化のファン獲得・拡張を目標としている
- 組織化により、館内で「GET」及びプロジェクトの認知度が向上するとともに、海外展開に関する問い合わせ先として「GET」が機能するようになり、海外展開時のコミュニケーションスキームが組織内に確立されつつある
- 広報担当者を海外に派遣することは予算の関係もあり実現できなかったが、本基金により広報室員の現地派遣による取材が可能となり、SNSやホームページを通じた国内外への発信を強化できている

滞在制作を通じた地域交流と都市ブランディングの推進 (まつもと市民芸術館)



内容詳細

- ダンスによる松本市のブランディングを標ぼうしており、館の掲げるビジョンに強く共鳴した育成対象者が自発的に移住し、滞在制作に着手した
- 移住したことにより、地域のお祭りやイベントに参加するなど、地域住民との交流が活発化し、本プロジェクトやコンテンポラリーダンスの認知度を高めることができている
- 併せて、本プロジェクトのWEBサイトを立ち上げ、育成対象者によるコラムやレポートを掲載し、国内外への発信を強化している

2.全体サマリー

- (1) 令和 6 年度の事業実施効果
- (2) 事業別の主な成果
- (3) 海外展開に係る課題およびプロジェクトの意見・要望
- (4) 今後の示唆・提言

各分野の共通課題としては、資金・人材のリソース不足や、海外展開に必要なネットワークやノウハウの属人化が見受けられた。分野ごとに課題や背景は様々だが、日本の商習慣の構造等に起因しているものもあり、長期的には抜本的な改革も求められる

各分野における海外展開に係る課題

分野	海外展開に係る課題
共通	<p>1.リソース（資金・人材）の慢性的な不足 日本の芸術関連の施設及び団体は慢性的な資金やそれに伴う人材（稼働ベース）が慢性的に不足している。また、海外（特に欧米）と比して、運営体制等の構造の違いにより海外展開で必要とされる専門性を持つ人材が不足している</p> <p>■分野別特徴 メディア芸術（ゲーム）：技術の高度化に伴い一作品当たりの制作工数の増加および制作に必要な人材が求められる一方、人材不足が顕著である 現代アート：特に公立美術館においては、企画展での所蔵作品の貸借による海外美術館との協働も、近年は輸送費の高騰により難しい状況 また、日本の美術館は学芸員と事務員という組織体制を維持している館が多く、専門的なキュレーター人材の育成を行う組織体制を構築出来ていない</p> <p>舞台芸術：海外の劇場がカンパニーを有し、劇場内で制作からプロモーション、公演、再演を推進する体制が根付いているのに対し、日本の劇場は上演する場として の機能が主であり、キュレーター/プロデューサー/アートマネジメント人材等の育成機会に乏しく、それらの人材が不足傾向</p> <p>2.海外ネットワークの不足、ネットワークの個人依存・若手への未継承、ノウハウの不透明性 海外展開に必要なネットワークは単純に不足しているだけでなく、個人に依存する傾向となっており、それらのネットワークの若手への継承が進んでいない また、ネットワーク構築・海外プロモーションに関するノウハウが個人・特定団体に留まっており、広く共有されていない</p> <p>■分野別特徴 メディア芸術（映画）：そもそも海外展開の経験値が業界全体で不足しており、ノウハウの蓄積がまだ少ない 現代アート：海外の美術館や展覧会視察のための出張費が所属組織から支給されにくく、組織としての海外ネットワーク構築が非常に難しい状況</p>
舞台芸術	<p>3.物価高騰等の経済情勢・エコ志向等による渡航ハードルの上昇 世界的な物価高の経済情勢は多くの関係者や物品の輸送を必要とする舞台芸術分野にとって大きなコスト増となっている。また、とりわけ欧米においては、近年のエコ志向（海外渡航に対する環境への配慮）の広まりにより、招聘する側のハードルが高まっている</p> <p>4.海外志向のある若手アーティストの減少 近年の3.の要因も多分に影響し、若手アーティストが海外展開に対する視野を持てないまま活動を続けている</p>
メディア芸術	<p>5.国内と海外の市場の違いによる海外展開志向醸成の難しさ（マンガ） 国内市場が成熟していることも起因し、もとより海外市場向けに作品を展開することのインセンティブが作家・出版社ともに高まりにくい</p> <p>6.産業的な構造による資金不足（短編アニメーション） 産業として成り立ちにくい構造となっているため、制作資金を得る場が少なく、自己資金と余暇で作らざるを得ない状況である</p>

採択プロジェクトへのインタビューからは、①本基金の支援内容の拡張②持続的な海外展開支援の検討に関する要望が寄せられた

プロジェクトから寄せられた意見や要望




カテゴリ	詳細
本基金の支援内容の拡張	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト間、育成対象者間での繋がり強化 本基金のプロジェクトに参加したことによる同プロジェクト内でのネットワークの広がりによって価値を見出す育成対象者が多く、プロジェクト内に限らず、他プロジェクトの育成対象者との交流する機会（情報交換や成果報告等）が求められている 振興会・文化庁のネットワークを活用した海外情報発信の強化 プロジェクトごとに特設サイト等を用いて、クリエイター等、作品、ナレッジ/レポート等を発信するもののリーチ範囲は限定的。振興会・文化庁がネットワークを持つ、外務省や国際交流基金、そして在外大使館等の海外に対する発信力を持つ公的組織と連携した情報発信の取り組みを支援・強化することで、個々の各団体/プロジェクトの広報・プロモーション活動の活性化と事業全体としての発信力の底上げが求められている
持続的な海外展開支援の検討	<ul style="list-style-type: none"> 海外展開に関する情報のオープン化 海外展開を検討し始めた際に必要な情報（当該分野における基本的な海外展開に関する座学講義等）は広くクリエイター等が認識することで若手クリエイター等の海外展開の機運醸成に繋がる。また、実際に海外展開のために必要な情報（自身の作品にあった展開候補となる国やそのトレンド情報、海外ディレクターの特徴、具体的なネットワーク構築ノウハウ等）があることでよりアクションに繋げやすいため、これらの情報が段階的にでもオープンになることで、業界全体で海外展開の機運醸成を図れると考えられる エージェントやディストリビューターの機能の本格立ち上げ 特に舞台芸術分野等において、海外には存在する同機能（海外展開時に劇場やフェスティバルなど、広く関係者に作品を売り込み出来る機能）の担い手が不足しており、効率的な海外展開を実現するためにも同機能が各分野で充足される必要がある

2.全体サマリー

- (1) 令和6年度の事業実施効果
- (2) 事業別の主な成果
- (3) 海外展開に係る課題およびプロジェクトの意見・要望
- (4) 今後の示唆・提言

今後の本事業に関して、採択プロジェクトの成果の最大化を支援しつつ、これまでの成果・課題・要望等の整理の結果から、本事業での検討・検証を通じた持続的な海外展開モデルの追究と、文化芸術分野全体への普及が求められていると思料した。その実現にあたっては、本事業で以下の3フェーズの目的を果たし、あるべき状態を作り出していくことが重要であると考えた

「採択プロジェクトの成果の最大化」と「持続的な海外展開モデルの展開」に向けた本事業のロードマップ（案）

	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3
目的	<div>採択プロジェクトの成果の最大化による 本事業の目標達成</div> <div></div>	<div>持続的な海外展開モデル・仕組みの 検討と検証</div> <div></div>	<div>持続的な海外展開モデルの 文化芸術全体への段階的な普及・実装</div> <div></div>
目的達成の ポイント	採択プロジェクト間の交流活性化と 海外展開活動の認知度向上による成果 を創出しやすい環境の構築	各プロジェクトに蓄積された成果や ベストプラクティスの体系化および 有用性の検討・検証	各分野に有効にはたらく持続的な海外展 開モデルの継続的な精度向上と 業界における認知拡大・浸透
あるべき状態	<div>✓ 育成対象者を含む各採択プロジェクトの関係者同士が、有機的に繋がりながらコミュニケーションを取り、情報交換等を通じて自身の創作、発信、ネットワーク構築等の海外展開に向けた各活動を深化させる環境が整備されている</div> <div>✓ 各採択プロジェクトにおける成果創出を促進または創出された成果による影響を最大化するための海外向けに情報発信が可能な環境が整備されている</div>	<div>✓ 各採択プロジェクトにおいて海外展開に向けた活動が進み、成功事例が蓄積され、自分たちのベストプラクティスが見えてきている</div> <div>✓ 上記のベストプラクティスが基金内で共有され、採択プロジェクト間での参照・応用も進み、一定の再現性や有効性が確認されている</div> <div>✓ 海外展開モデルの応用にあたっての課題やボトルネックが明らかになっている</div> <div>✓ 基金内での応用状況を踏まえ、業界全体でも有効に機能するような持続的な海外展開モデルに関する検討・検証が進んでいる</div>	<div>✓ 本事業で検討・検証された持続的な海外展開モデルが文化芸術分野全体に段階的に広まり、団体や個人で応用して海外展開に取り組むことができる</div> <div>✓ 各分野でボトルネックとなるポイントや海外展開モデルのさらなる発展や深化に向けて、不足している／必要とされる機能やリソース（仕組み、組織、人材等）の要件等が明らかになってきている</div> <div>✓ 海外展開モデルが常に検証・改善・アップデートされ、様々な分野での成果創出に貢献している</div>

各フェーズにおいて、本事業の主な関係者となる文化庁・振興会および採択団体に求められるキーアクション案を整理した。
各フェーズの目的達成には、文化庁・振興会、採択団体が一丸となり、本事業目標の達成に加え、持続的に海外展開を行うためのモデルを構築し、常にアップデートを繰り返しながらも、文化芸術分野全体へ段階的に普及させることが重要であると思料する

本事業の関係者に求められるキーアクション（案）

		フェーズ 1	フェーズ2	フェーズ3
目的		採択プロジェクトの成果の最大化による 本事業の目標達成	持続的な海外展開モデル・仕組みの 検討と検証	持続的な海外展開モデルの 文化芸術全体への段階的な普及・実装
キー アクション （案）	文化庁・ 振興会	<ul style="list-style-type: none">採択プロジェクトの関係者を対象とする定期的な情報交換会・交流会の企画・開催成果発表会、シンポジウム等の企画、開催（既に実施している中間報告会を含む）海外機関との連携を通じた、本事業および採択プロジェクトの活動や成果のプロモーション・発信強化	<ul style="list-style-type: none">持続的な海外展開モデルの検討に向けた海外事例等の先進事例のリサーチ各採択プロジェクトの創出成果分析およびベストプラクティス等の情報の集約成果およびベストプラクティスの類型化、成功ステップの体系化海外展開モデルの発展に必要な機能やリソースの明確化リサーチ成果や検討状況等の定期的な発信・共有	<ul style="list-style-type: none">海外展開モデルの広域的な発信・展開準備<ul style="list-style-type: none">必要リソースや機能の明確化と実装想定されるアクション専門人材の育成カリキュラムの実装情報プラットフォーム整備統括団体やエージェント組織の設立・運営支援検証・改善・アップデート体制の整備海外展開モデルの確立と文化芸術分野への広域的な発信・展開
	採択団体	<ul style="list-style-type: none">採択プロジェクト交流機会への積極的な参加採択プロジェクト間の交流推進に関する要望や意見出し主体的な情報交換会等の開催成功事例やノウハウの蓄積プロジェクト特設サイト等を活用した創出成果の発信・見える化	<ul style="list-style-type: none">成功事例等からのベストプラクティス導出ノウハウやネットワークの集約・体系的な整理交流機会における積極的な情報発信・共有採択プロジェクト間での相互学習や相互のベストプラクティスの応用の推進	<ul style="list-style-type: none">統括団体やエージェント的組織への参画・運営情報発信・ネットワーキングの継続実施次世代人材の継続育成・採用

フェーズ1における「各採択プロジェクトの成果の最大化」そして、次フェーズ以降の持続的な海外展開モデルを検討、普及させていく上で、目先のプランとして、「各採択プロジェクト間の交流推進」と、「本基金としての海外への情報発信体制の強化」の2つのアクションプランが、採択プロジェクトの課題や要望にも応えるという観点においても、検討し得ると考えた

成果創出に向けたアクションプラン（案）

アクションプラン①プロジェクト間の情報交換機会の創出

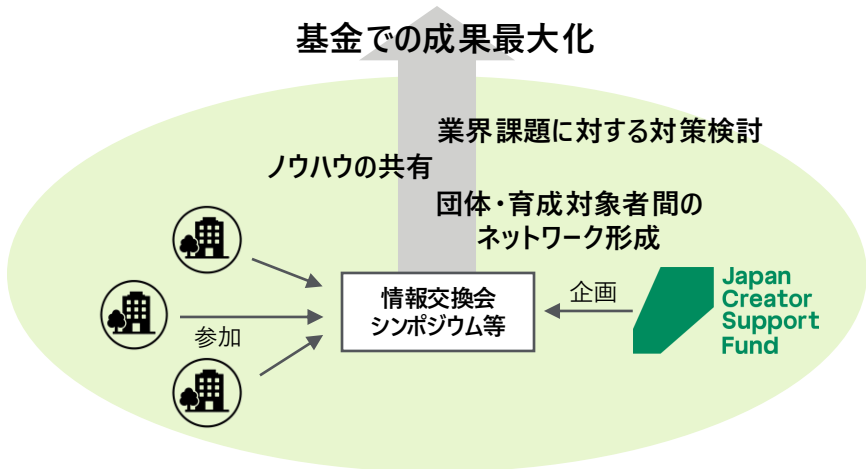
背景・目的

- 海外展開の経験が少ない育成対象者も多く参加する本事業では、同じ志を持つ育成対象者の繋がりには自分自身にとって意義深いことがわかり、現在希薄になっているプロジェクト間の交流を求める声が挙がっていた
- 各プロジェクトに蓄積されているノウハウや成功事例を共有し、採択団体の関係者の国内ネットワーク強化・成果創出の促進することを目指す

施策概要

定期的に関係者を対象とした交流の機会を作る。ノウハウの共有をする、特定のテーマ（各分野における成果創出に向けたアクションプラン等）について議論するなど、様々な観点から交流目的を設定し、採択団体関係者の興味喚起、交流促進を図る。

また、今後のありたき姿に向けてコミュニティ化の検証をするなど、本基金の成果以外にも、各業界に還元できる取り組みになることを目指す



アクションプラン②海外情報発信体制の構築・周知による発信強化

背景・目的

- 各団体のウェブサイトによる海外への発信力は限定的であり、直近の成果創出に向けて効果的な情報発信が求められている
- 各プロジェクト及びクリエイター等の海外における認知拡大・成果創出の足がかりとなる情報発信を目指す

施策概要

採択団体が海外に向けたプロモーションに苦戦した際に、気軽に相談を受けられる窓口を設立し、課題に応じて助言・公的機関（例：国際交流基金、外務省等）との連携・発信支援を実施する。さらに、相談窓口で得られたケースとノウハウを広く基金の採択団体へ共有することで各団体の発信強化に寄与する

▽施策実施のイメージ

効果的なプロモーション
施策の戦略検討

海外に、より効果的にプロモーションを実施すべく、各分野におけるプロモーションのあり方（訴求方法・各国のプロモーション事情等）をリサーチし、どのような支援体制が実現できるかを整理する

相談窓口設立・周知

プロモーションにおける支援体制の検討を経て、各採択団体が気軽に相談できる窓口を用意し、本基金の団体へ周知を行う。採択団体は必要に応じて、窓口へ相談を行う

助言及び公的機関との
連携、発信支援

課題に応じた支援メニューを提供。助言を行う形や、外務省・国際交流基金との連携を通じて、既に発信力のある海外公的機関等を経由したプロモーションの実施支援等を行う

ノウハウの団体への共有

分野ごとに得られたケースとその効果検証を踏まえて、各団体の海外プロモーションにおける自立、成果最大化に向けて基金に参加している採択団体にノウハウを広く共有する

4.文化施設による高付加価値化機能強化支援事業 詳細資料

(1) 採択プロジェクトインタビュー個票

(2) 採択プロジェクト概要

インタビュー対象	東京国立博物館	分野	美術館・博物館
プロジェクト名	Global Exhibition Team (GET) による日本文化発信プロジェクト	区分	大規模

インタビューサマリー








- ✓

文化庁の支援のもと積極的に推進している日本美術の海外展開は、海外からの要望も増えており、館同士の連携強化・拡大を図るチャンスを迎えている。一方で、人員不足や法務知識の不足をはじめ、他館へのノウハウ共有による業界底上げへの対応については課題を抱えている
- ✓

Global Exhibition Team (GET)は本基金への採択を機に、新設された世界規模での日本文化の魅力発信を行う館内の特命チームである。具体的な海外展覧会の企画・実施も進む中、GETおよび活動の館内認知度も高まっており、施設全体で海外展開の機運が醸成されている
- ✓

今後の継続的かつ主体的な海外展開に向けては、従来展覧会を開催していなかった国・地域の施設とのネットワークの拡充、館としてのノウハウ蓄積が重要となる。本基金へは、法務関係等当館に知見の少ない業務に対する支援や、館の活動を長期的に支える仕組みを求めている

インタビューメモ

調査項目		回答内容	 団体・施設	 指導者	 育成対象者
業界動向・海外展開の考え方・現状課題	●業界動向（日本の博物館・美術館の海外展開の現状）	 日本美術の海外への発信は、従来文化庁が主体となり「海外展」を実施していたが、現在は中止となっている。しかし 現状では、日本美術の借用や展示に関する要望が海外の美術館・博物館から寄せられている 。当館のように、文化庁の支援のもとに海外で日本美術の展示を積極的に推進している博物館は他にないと認識している。 また、当館は国立博物館であるため、海外の国立博物館が困ったとき等に連絡相談を受けることが多い。当館にはアジアの文化財も所蔵されているため、それらの地域の館とは共同調査・展示や、所蔵品の貸し借りを通じたネットワーク形成が進んでいる			
	●海外展開のステップ	 博物館の海外展開（展覧会）は大きく2パターンあり、相手先の館との共同企画・展示による「主催」と、相手先がテーマを決めて借用依頼を行う「貸出」である。これらの展覧会は相手先との交流関係のもとに成立する。 例えば、日韓国交正常化60周年を節目とした大規模展覧会等の相互でリソースを出し合うような展覧会は「主催」となるが、日本の文化財を所蔵する欧米の大規模文化施設では、研究員が企画内容を決め、当館に借用依頼を行う「貸出」が多い			
		 当館での海外展開は、MOU（国際交流協定）を結ぶことで、属人的な関係に依存せず館としての結びつきを維持、または強化しながら相手先との共通課題に取り組んでいく方針を取っている。MOUは継続的な協力を目的とし、展覧会開始時点で締結する場合もあれば、既に交流がある場合は展覧会の準備段階で締結することもある			
	●海外展開への考え方	 当館はこれまで米国や西欧への発信機会が多かったが、今後はまだ実績が無い東欧・中米・東南アジア・中東等に対しても積極的に展覧会実施の働きかけを行い、日本文化や日本美術への興味関心を引いていきたい			

インタビュー対象	東京国立博物館	分野	美術館・博物館
プロジェクト名	Global Exhibition Team（GET）による日本文化発信プロジェクト	区分	大規模




調査項目

回答内容












団体・施設


指導者


育成対象者

活動実績・成果およびその影響	●プロジェクトの目的/概要	<div> 国立文化財機構の一部門である当館は、「国際文化交流の振興」を使命として掲げており、継続的なネットワークの形成・強化を通じて、日本文化財のハブとしての知見の相互共有などの役割を果たすべく活動しているが、本プロジェクトへの採択を機に、特命担当「Global Exhibition Team（GET）」を立ち上げた。GETでは、世界で活躍する専門家の育成、さらには日本の伝統文化の国際的なプレゼンスの向上ならびに当該地域における日本文化のファン獲得・拡張を目標としている。</div> <p>GETでは以下の4事業を実施している</p> <ul style="list-style-type: none">・ ジョイントリサーチ事業：より魅力的な展示を実現するための、出展作品に関する共同での事前調査を推進する事業・ 展示メソッド事業：展示制限があるなど、脆弱な日本の美術品の基本的な前提知識を連携先の館に共有し、展示環境の違いへの対応や、オペレーションのしやすい展示メソッドの確立を推進する事業・ パートナーシップ事業：海外の館とMOUの締結を通じて長期的な関係構築を目指しつつ、将来的な連携可能性の創出を推進する事業・ デジタルコンテンツ事業：海外展で作成した作品解説や翻訳（英語・中国語・韓国語）、そして画像・写真データをデータベース化し、広くアーカイブ公開を推進する事業
	●プロジェクトにおける成果/今後見込まれる成果	<div> 2025年8月韓国での展覧会が終了し、入館者数や現地報道記事、アンケートの取りまとめを行っている。なお、2025年9月からは中国・上海で展覧会の開催を予定しており、既に館内作品の梱包作業中、10月から予定しているインドネシアでの展覧会に関しても図録を作成中であり、プロジェクト2年目も着実に海外での展覧会開催を進めることができる見込みである</div> <p>本基金のKPI達成の貢献にも紐づく、2025年実施予定のメキシコでの展覧会は延期となったが、2026年の11月に開催する旨を既に現地でも広報済みであり、2026年中の実施を見込んでいる</p> <p>2029年以降には、日本美術を所蔵するプラハ国立美術館での海外展を予定しており、作品の保管管理や修理に関しても助言を行う。これまで交流がなかったため、先にMOUを結び、その後、着実に調査研究・保存アドバイス・展覧会実施を進めていく予定である</p>
	●海外展開の課題	<div> 海外展開に取り組む人員および資金不足と、海外を含めた他館へのノウハウの共有が最大の課題だと認識している。他館へのノウハウ共有は、国内全体の文化施設の機能の底上げ・強化を図れるのではと考えている</div>

インタビュー対象	東京国立博物館	分野	美術館・博物館
プロジェクト名	Global Exhibition Team (GET) による日本文化発信プロジェクト	区分	大規模

調査項目		回答内容	
		 団体・施設  指導者  育成対象者	
活動実績・成果 およびその影響	●プロジェクトにおける活動進捗/成果/今後見込まれる成果	 従来の海外展開に関しては当館で個別の担当者が任務を担っていたが、本基金で新設された「Global Exhibition Team (GET)」という組織のなかで複数名体制で実施している。組織化されたことでGET及びプロジェクトの認知度が高まるとともに、海外展開に係る相談先も明確になり、組織的にコミュニケーションスキームが確立されてきている	
	●育成対象者におけるプロジェクトの成果	 国際展のロジスティクスに加え、ミュージアム主催者側として在外日本大使館や国際交流基金とのやり取りが増えたため、ネットワークが拡充された。インドネシア展の図録/パンフレット作成を通じて多様な業務へ挑戦することができた	
	●本基金によって活性化した取り組み	 これまでは文化庁の海外展をサポートする形で展示品を貸し出すに留まっていたが、本基金では主催者側として責任を持って取り組むことで、法務関連の業務など主催者としての業務プロセスの中で館として不足している点などを認識できた。また、長期のプロジェクトとなっているため、館内でも海外展開に関われる人材が増えている	
	●広報・プロモーションの取り組み	 従来広報担当者を海外展に派遣することは予算の関係等もあり実現できなかったが、本基金により広報室員の現地派遣による取材や、SNSで海外に日本文化を発信することができた。館内ポスターやウェブサイトを通じた本プロジェクトの広報活動も実施しており、国内外への発信を強化している	
		大使館や国際交流基金、共同開催する海外館が既に持っているネットワークやノウハウをフル活用し、いかにコストパフォーマンスの高い広報ができるかを考えて実施している。そのために各関係各所とのコミュニケーションを密にとっていく必要がある	
今後の展望・本基金への示唆	●今後の展望・ビジョン	 引き続き、これまで交流のなかった館ともMOUを締結し、継続的な協力関係を築いていきたいと考えている 2029年まで、メキシコ・UAE・アイルランド・中国・チェコでの展覧会を企画しているが、日本と相手国の周年事業や相手館の会場状況等を考慮し、外務省大使館等とも連携しつつ調整している	
		 国内においては、ハローキティ展や内藤礼展など、若年層が関心を持つきっかけとなる展覧会が実施できている。そのため、まず国内で新たな企画に挑戦し、成果のあった企画を将来的に海外展開へ発展させる可能性も視野に入れている	
	●本基金への要望	 本プロジェクトを通じ、継続的に海外展開を主催する場合、法的知識を有する人材を確保する必要性を強く感じた。コンテンツの多様化による契約書や著作権対応が難しくなっている中、欧米に比べリーガルチェック体制の整備が甘いため引き続きの支援をいただくと有難い	
		本基金の支援期間は、現状最大5年であるが、時間を要するプロジェクトが多いため、より長期間支援があることが望ましい	

インタビュー対象	森美術館	分野	美術館・博物館
プロジェクト名	グローバル・アート・プロフェッショナル育成プロジェクト	区分	大規模

インタビューサマリー






- ✓

日本の美術館では、学芸員と事務員という組織体制による不足や、メディア企業を中心に海外から展覧会や主要美術館コレクションを輸入するモデルが続いたことによる館内のPMOや交渉のノウハウの不足、そして国際的なネットワークを持つリーダーシップ層の不足などが海外展開に係る課題として挙げられた
- ✓









同館として知見・ネットワークの薄い建築分野における海外巡回の実現に資するネットワーク拡充が進行している点は、施設の機能強化に寄与。また、海外巡回経験のない育成対象者の実務を通じた育成も並行し、今後の人材面での施設の機能強化にも期待が持てる
- ✓

引き続き、海外巡回に伴う業務経験（とりわけネットワーク構築経験）を次代を担う若手人材にも継承しつつ、そのノウハウを国内美術館へも広く共有していくことが求められている

インタビューメモ

調査項目		回答内容	 団体・施設	 指導者	 育成対象者
業界動向・海外展開への考え方・現状課題	●日本の美術館の現状	<div><div></div><div>明治維新以降、欧米の近代化に追従した日本は、アジアの中では比較的早い時期に美術館・博物館政策を始めた国であると言える</div></div> <div>国内の国公立美術館には、海外の建築系美術館やMoMA（ニューヨーク）、M+（香港）のように建築・デザイン部門を持っている美術館がほとんどなく、建築キュレーターが育成出来ていない状況である。そのため諸外国の建築系美術館や総合美術館の建築部門において継続的に試みられている「建築を展覧会化する」ということの可能性に関する情報共有が、日本では十分になされていない</div>			
	●海外展開に係る課題	<div><div></div><div>1990年代、2000年代以降にアジア地域でも欧米のモデルに準じた多様な専門性を持った文化施設が生まれているのに対して、日本は学芸員と事務員という旧来の組織体制や、メディア企業を中心に海外から展覧会を輸入するモデルが続いたことがあり、美術館内にPMOや巡回交渉等のノウハウが育っていない。また、館長レベルでの国際的なネットワークが不足しており、海外から顔が見えている館長が少ない現状である</div></div> <div>1990年代に比べて多くの文化施設が新設されるアジア地域（シンガポール・韓国・香港等）においては、輸送費のコストシェアや共同コミッションなどのコスト削減対応策を行いながら展覧会の巡回は以前に比べて頻繁に実施されている。一方で、日本の公立美術館は、単年度会計かつ一円単位での予算計上が求められるため、外貨が変動するなかで国際的な協働には参画しにくいという制度的な問題を抱えている</div>			

インタビュー対象	森美術館	分野	美術館・博物館
プロジェクト名	グローバル・アート・プロフェッショナル育成プロジェクト	区分	大規模

調査項目		回答内容
業界動向・海外展開への考え方・現状課題	●海外展開に係る課題	 基金によって海外巡回が実現することは有意義なことだが、本来は経費等の助成をなしに海外の美術館等が企画を購入し、予算も負担するというモデルがあるべき姿であるため、今後基金等の助成がない中でいかに海外巡回を実現していくかは課題と言える
	●海外展開のステップ	 海外美術館との巡回・共同展示は、館長クラス同士の話し合いという、トップダウン型によって話が進むことが多い。世界の著名な美術館の館長が定期的にカンファレンス等で集まり、意見交換をしている。また個展の場合には、アーティストが知り合いのキュレーターに相談したり、キュレーター同士が相談したりすることにより巡回や共同展示が成立する場合があるが実現性が高いのはトップダウン型である
	●海外展開・施設の機能強化の考え方	 海外巡回により当館のスタッフも育成しつつ、この仕組みを継承していきたい。また、海外巡回はネットワークありきで成立するため、本プロジェクトの育成対象にも顔の見える関係構築を行ってもらうことで持続的な仕組みにしたい
成果およびその影響活動実績	●プロジェクトの目的/目標/5年後に目指す成果/ありたき姿	 本基金を活用して、当館の内部にて、海外の美術館とグローバルスタンダードな方法で交渉するノウハウを身につけたスタッフを育成し、本基金終了後も海外巡回を継続していける組織作りをしたいと考えている
	●これまでの活動	 当館における藤本壮介展の開催で、2025年7月から11月までが会期となっているため、令和6年度のはじめの半年間については、同展示会のための準備として企画・制作を実施していた。現在は令和8年度のアジア巡回に向けて、国際巡回が可能なような美術館・文化施設への交渉を続けているところである 海外巡回の交渉に関しては、タイミング・予算があれば、実際に欧州やアジア各地の美術館に行き、先方のキュレーターと話をしている。また知人の伝手を使い、メール・オンラインベースで営業をしている
	●育成対象者が本プロジェクトに参加したきっかけ	 前職は新聞社に勤めており、国外からの輸入型の国内展示会の制作には携わっていたが、コンテンツを国外に巡回する輸出型の展示会・巡回に携わるのは本件が初めてであり、経験値のある館内スタッフから学びながら業務を進めている 本基金のようなプロジェクトで育成を受けるのは初めての経験であり、海外巡回のためには強固な人的ネットワークが不可欠であるため、本基金を通してネットワークを拡大しようとしているところである
	●プロジェクトにおける成果/課題	 海外の人的ネットワークの構築は、どれだけ相手と多く対話を行い信頼関係を築けるのか、という点に懸かっており、長期的な視座を持つべきだと考えている。また海外との巡回展の実現に向けて、最低でも2.3年先の話として海外美術館と交渉しなければならないため、現状は苦戦しているといえる
		 巡回難易度の高い建築展における海外ネットワーク構築は、巡回の実施有無に関わらず進展したと考えている

インタビュー対象	森美術館	分野	美術館・博物館
プロジェクト名	グローバル・アート・プロフェッショナル育成プロジェクト	区分	大規模



調査項目	回答内容
活動実績・成果およびその影響	<div><div><div>● 育成対象者におけるスキル/マインドの変化</div><div>● 本基金で得られたこと</div><div>● 本プロジェクトによる団体/業界等への好影響や波及効果</div></div><div><div><div>アジア・ヨーロッパの美術館に対して、現代建築の展覧会の巡回交渉をするのは初めての経験であり、常日頃からこの美術館で現代建築展が行われているかを意識的に情報収集するようになった</div><div>海外巡回を視野に入れて、国内展覧会の制作や予算の考え方などを意識する習慣がついてきている感覚である</div></div><div><div><div>建築・デザインの分野で国際的に活躍するキュレーターに、今回のワークショップにあたり招聘すべきキュレーターについての助言をいただいた。その際、協力いただいたキュレーターは各美術館におけるキュレーターの嗜好性やこれまでの経験等を把握しており、このような深い関係を保持していくことが重要であると感じた。そのためには日頃の信頼関係作りだけでなく、キュレーターとしての経歴に関する情報に関しても知っておく関係構築や海外巡回においてポジティブに働くと感じた</div><div>国際展事業の建築部門の講師は世界的にも注目されている建築キュレーターを招聘できているため、今後20年ほど使えるようなネットワークを構築していけば業界還元につながると思う</div></div></div></div></div>
今後の展望・本基金への示唆	<div><div><div>● 今後の活動の展望</div><div>● 持続的な海外展開に向けて求められること</div></div><div><div><div>同一基金内で国際展事業（建築系・美術系のキュレーター人材の育成事業）としてワークショップを令和7・8年度に開催する。本基金以後も当館の内部スタッフの育成は実施していくつもりであり、また既に国際的な交流会（カンファレンス・セミナー等）に積極的に参加しているところである</div><div>海外の巡回展はそもそも複数年で交渉・営業をするものであるため、単年度のみの助成では実現が困難であり、今回の基金は非常に有益である一方で、基金終了後も各団体・施設が自走できるシステムの構築は容易ではなく、基金後のフォローアップもすべきであると考え。しかし、そのようなシステム構築を行い、文化施設の高付加価値化を実現するというのは非常にハードルの高いものということも同時に理解している</div><div>30代・40代の若手人材が自力ではできないような経験を通して、その後に繋がるプロフェッショナルな人的ネットワークを作るといことは、国としても継続的にやっていくべきことだと思うが、それを継続できるかが重要。また全国には、美術館が400館程度あるなかで、今回文化施設の採択は4館と全体で見ると一部に留まっており、本基金で培ったノウハウや内容を情報発信していくことが重要だと考える</div><div>日本は欧米に対してかなりの金額を使いコレクションを借用してきたが、発信の少ない輸入偏重型の構造を変えるべく、本基金の期間で人材育成を行うことで、美術館の館内スタッフで巡回ができるような素養を身に付けられていると望ましい。また、本基金終了後に、海外展開のためにどのようなモデルを目指すのかも議論していく必要がある</div></div></div></div>

インタビュー対象	愛知県芸術劇場	分野	劇場・音楽堂等
プロジェクト名	Constellation～世界をつなげる愛知県芸術劇場ダンスプロジェクト～	区分	小規模

インタビューサマリー





- ✓

ダンスの分野では、海外劇場は自前のカンパニーが作品制作・人材育成・販売展開を一貫して行い、作品完成後はつながりのある近隣国から順々に公演を行う一連の流れがある。一方、日本では、劇場とカンパニーの関係がそもそも異なり、劇場が自前のカンパニーを持つところは非常に少ない。日本の劇場では、カンパニーを持つのではない形でも機能強化が求められている
- ✓

本プロジェクトでは、令和6年の活動をきっかけに交渉を開始した海外公演もあり、アウトカム達成に資する成果創出が進んでいる。それらの交渉やネットワーク構築の現場に育成対象者も立ち会うことで、コミュニケーションや交渉のスキルを実践で学ぶ機会を作ることができた
- ✓

ダンス作品の持続的な海外展開に向けては、現状の日本から海外への展開支援だけでなく、双方向の展開を支援する仕組みが求められる。また、プロジェクトとしては、比較的小規模のダンス公演の効率的な海外公演に向け、海外現地ディストリビューターとの連携・活用を図っていききたい

インタビューメモ

調査項目		回答内容	 指導者	 育成対象者
業界動向・海外展開に対する考え方	●業界動向（諸外国と比較した際の日本のダンス分野の違い・特徴）	<div><div></div><div>海外は多くの芸術分野で長い歴史があり、公共が劇場・カンパニーを持ち、制作から人材育成まで取り組んでいた一方で、日本の施設は1990年頃から活動が開始し、2000年頃から劇場を拠点に盛んに活動が行われるようになったばかりである。日本では多くの劇場が貸館であるため、ダンスの制作・上演を主要事業とする施設が少ない。加えて、コンテンポラリーダンスをある程度の頻度で上演している劇場が少ない。また、クリエイションができる劇場も不足している。</div></div>		
	●海外展開における課題	<div><div></div><div>欧米を中心とした海外では劇場がカンパニーを有し、劇場で制作、公演まで実施するプロセスがあるため、人材育成の取組も活発である。そのような構造がない日本の劇場は、プロデューサーやそれを支える専門スタッフが圧倒的に不足している状況である</div><div>海外であれば自分の劇場で制作、公演後に既にネットワークの築かれている周辺国から始まり、遠方の国まで再演していく流れがあるが、日本はそのような一連の流れを構築できず、ゆえにクリエイションの質も高めづらかったのだと思う。そのため、現状国際的に活躍する日本人は、海外に拠点を移して上記のような流れに乗って活躍するアプローチを取らざるを得ず、日本を起点に作品を制作し、海外に展開するという経路が絶たれていると考えられる</div><div>日本に関心を持つ海外の劇場やフェスティバルは存在するが、現状海外との交流が活発ではない中で、日本の劇場や作品に関する情報の入手先が限られており、その担当者ともコンタクトを取るのが難しい状況である。また、日本ではダンス作品の上演機会が少ないため、海外からプロデューサーが来日した際に公演を気軽に見ることができないのも課題である</div></div> <div></div> <div></div>		

インタビュー対象	愛知県芸術劇場	分野	劇場・音楽堂等
プロジェクト名	Constellation~世界をつなげる愛知県芸術劇場ダンスプロジェクト~	区分	小規模








団体・施設



指導者



育成対象者







調査項目	回答内容
海外展開に 対する考え方	<p> 展開したい国の見本市やショーケースに作品を持っていくことや、各国のダンスプラットフォームに日本から関係者を10〜20名ほど連れてジャパンプラットフォームのような形で海外で発信することが考えられるが、後者はなかなか予算的にも実施が難しい。一方でダンスはノンバーバルなコンテンツであるため、他ジャンルと比較して展開しやすい面もあると考えられる</p>
活動実績・ 成果およびその影響	<p> プロジェクト初年度は、一部作品の創作・上演を行う一方、見本市でのブース出展・作品紹介等を通じた海外ネットワーク構築を実施しつつ、海外フェスティバルにも訪問し、どのような関係者がいて、どのような作品を求めているのかリサーチを実施した</p> <p> 業務で海外の見本市やフェスティバルを視察することが難しい中、休暇等にプライベートで現地視察に行く職員も多いため、本プロジェクトの始動によりこれを正式な業務として遂行できる環境が整った点は非常にありがたい。本基金が劇場の価値向上に繋がり、多くの方が当劇場にダンスアーティストとして関わる機会を得られたことも意義深く感じている</p> <p> 2026年2月中旬にハンブルク（ドイツ）の舞台芸術フェスティバルにて作品を上演予定である。ハンブルクでの公演は、横浜のYPAMでの公演をきっかけに紹介を受け、2025年2月に決定した。また、2026年5月にユトレヒト（オランダ）のスプリングフェスティバルでの上演も決定した。さらに同年8月にはチューリッヒフェスティバル（スイス）への招聘の話もいただいている</p> <p>アーティストの作品制作のみではなく、それをどう届けるか、どうネットワーク構築するか、観客とどうコミュニケーションするか、なぜ作品を届けるのかも意識的に考える必要があるが、地域住民との交流や活動を通じてそれらを育成対象者に考えて頂くきっかけとなったと考えている</p> <p> 海外展開への意欲は元々あったが、本プロジェクトへの参加を通じてさらにモチベーションが高まり、自分の作品をどう届けるかを深く考えるようになった。オランダフェスティバルでは多様な作品やアーティストの存在に刺激を受け、トレンドや海外で求められる作品の要素を確認することができ、海外展開に向けた戦略や自身のやりたいことを突き詰める重要性を再認識した。作品のプレゼンテーションで高評価を得たことも自信につながった。若い世代にも海外で多くを見て、刺激を受けてほしいと感じた（アーティスト）</p> <p>本プロジェクトでは、ドイツ、オランダ、オーストリア、そしてフランスにてダンスフェスティバルの視察やリサーチ、舞台芸術関係者とのミーティングを実施した。会う人の立場によって話し方を変えるなどのコミュニケーションの重要性を学んだ。また、欧州の各フェスティバルを回っていると、面識のある関係者とも再会することになるため、どのように継続的に関係性を維持するかを考える良いきっかけとなった（劇場スタッフ）</p>

インタビュー対象	愛知県芸術劇場	分野	劇場・音楽堂等
プロジェクト名	Constellation~世界をつなげる愛知県芸術劇場ダンスプロジェクト~	区分	小規模

調査項目

回答内容



活動実績・成果およびその影響	<ul style="list-style-type: none">●本プロジェクトにおける広報・プロモーションの取り組み	<p> 「Constellation」のウェブサイトはこれまでの販売を目的としたサイトとは異なり、基金での取り組み自体/アーティスト等の育成スタッフの紹介を行うサイトとした。作品のスペック紹介や、コンタクトがあった際には直接愛知県芸術劇場とやり取りし、作品の詳細スペックを提供できる仕組みとした。ウェブサイトを見て作品に関するコンタクトが入ることが理想である。一方で、ウェブサイト経由で作品のコンタクトが入るようにするための今後の運用や取り組みは課題と感じている</p>
	<ul style="list-style-type: none">●本プロジェクトの地域や社会への還元	<p> 当劇場だけでなく複数の類似の活動をしているダンス団体と協力して海外見本市でのブース展開を行ったが、日本の新たなダンスを統一感を持って効果的にアピールできたと思う。海外ディレクター等来場者にしても、ひとつずつ館や団体を見るのは手間だが、一度に紹介することで、日本のダンスコンテンツをまとめて訴求でき、かつセールスにも繋げやすいという印象を受けた</p> <p> 単に国内公演を行うだけではなく、創作プロセスや活動の中に県民との繋がりを作ることを目的とした。そこで自身の作品以外にもワークショップの実施、コンサートの中でオルガンとのコラボレーション、無料イベントに出ていただくなど、劇場がハブとなり、地域の活性に寄与する様々な活動を実施した</p> <p> 当劇場で、一般の方向けに、踊りの魅力や楽しさを伝えるワークショップを開催した。普段はバレエ経験者に対する指導が多い中、初心者の方々との交流だったため、改めて踊りを通じたコミュニケーションの広がりやその可能性について認識した</p>
今後の展望・本基金への示唆	<ul style="list-style-type: none">●今後の持続的な海外展開のために求められること	<p> 本基金は、「日本から海外へ」というコンセプトとなっているが、基本的に海外の劇場関係者も日本での上演を望んでいるため、継続的な海外展開を実現するためには、日本と海外の双方向の交流を促すような仕組みに変えていく必要があると考える。欧州では渡航費を補助する支援制度も整っているが、本基金の場合、他の補助金との併用ができない点は課題である</p> <p>海外での小中規模の作品上演の際には特に、プロモーションを含めた効率的な活動を行いたいと考えている。例えば、現在2026年2月と5月に欧州（ドイツ・オランダ）での公演が決定しているが、その前後で現地の劇場1ヶ所ずつに作品上演の交渉をしている。しかし、劇場に直接交渉しているため、スケジュールの確保や初めての作品の受け入れに苦戦している。1回の上演だけで帰国するのは効率が悪いと、一度の渡航で複数の上演を実現するためには、劇場との交渉やツアー実施を効率的にサポートしてくれるディストリビューター等とのつながり・活用が必要だと考える</p> <p>事業を遂行している結果、当初の計画以上の成果を出せる見込みであるが、現在確定している助成額では、創作やPR活動などの活動範囲が非常に限定的にならざるを得ない状況である。海外からのオファーが増えてきた場合に、海外公演の資金が不足して、せっかくの海外公演の機会を諦める可能性も大いにありうる。よって、次の2年間については、そういったチャンスが無駄にならないような取り組みも考えてほしい</p> <p> ネットワークは個人に依存しがちだが、それが広く共有されると良い。業界全体として広く共有していれば大きいインパクトを生み出せると感じる</p>

インタビュー対象	江原河畔劇場	分野	劇場・音楽堂等
プロジェクト名	無隣館インターナショナル	区分	小規模

インタビューサマリー







- ✓

演劇分野の海外展開として海外の演劇祭・芸術祭に出展するにあたり、一方的な輸出を目指すのではなく、海外作品を日本の演劇祭・芸術祭に輸入することを前提に相互関係を築き、海外展開を狙っていくことが重要となっている
- ✓

江原河畔劇場の育成方針の浸透による各育成対象者における意識変容が、各自の活動を見直し、新たなアクションを取るきっかけづくりに寄与。また、一部今後の海外公演（パリ）に関する交渉も進んでおり、海外展開においても成果の見込みが窺える
- ✓

クリエイター視点では、より多くのクリエイターが海外展開の可能性を掴むために各国市場の特徴や自身の作品との親和性に基づく助言など、分野でのマーケティングインテリジェンス的機能を求める声が挙がる。分野での積極的な情報交換は継続的な海外展開の肝と思料

インタビューメモ

調査項目		回答内容	 団体・施設	 指導者	 育成対象者
業界動向・海外展開に対する考え方	●業界動向（日本の演劇分野の諸外国と比した特徴）	<div> 日本では大学における演劇の教育はほとんどなく、小学校・中学校においても演劇という教育科目もない。そのような国はOECD加盟国でも日本含め3カ国だけという状況で、大きな課題であると感じている</div>			
	●海外展開における課題	<div><div> 海外展開をしたい場合でも、いきなり日本人が海外で演劇公演を実施しようとしても相手にされない。幸い江原河畔劇場が主体的に参画している豊岡演劇祭は多くの団体がフリンジとして参加していて、豊岡演劇祭と関係が持てるということのひとつのポイントとして海外交渉が可能だが、それらの交渉材料を持たない団体は簡単に海外展開しづらいと思う。このように、海外展開はあくまでも相互的であることが国際交流の原則であり、そうでないと海外マーケットに参画もできない</div><div>演劇は相手（鑑賞側）ありきなので、国ごとに何が評価されるか異なることが難しい。作品をブラッシュアップすることは大事だが、ブラッシュアップすれば評価が得られるものではなく、翻訳やマーケットの問題はこちらでコントロールできない</div></div>			
	●海外展開のステップ	<div><div> 海外展開はあくまでも相互的なものであり、作品を展開したいこちら側も海外からのアーティストの受け入れを実施し、それをパートナーにこちらの作品の受け入れも依頼するのが重要である。</div><div>いきなり日本人が海外に行っても相手にされない状況の中で、豊岡演劇祭はフリンジに力を入れているため、豊岡演劇祭への参加を材料に海外の芸術祭に参加するためのきっかけを作りやすい特徴がある</div></div>			

インタビュー対象	江原河畔劇場	分野	劇場・音楽堂等
プロジェクト名	無隣館インターナショナル	区分	小規模


調査項目


回答内容



活動実績・成果
およびその影響


- 施設の機能強化のありたき姿


 当館としては2020年から、地域を活性化するだけではなく、「江原から世界へ」を目指して中継点としての役割を目指してきたが、新型コロナウイルスもあり活動を自粛していた。本基金で事業を再開できたため、国際共同事業などもより多くの地域住民に触れていただき、当館および演劇の認知が頂けるような拠点にしていきたいと思っている
- 人材育成の考え方

 人材育成において大事なのはトラッキング（定点的な進捗確認・評価）と、競争と淘汰の原理と考えている。それに基づき、令和6年度でも、幅広く育成対象者を公募しつつ年度ごとに人員を絞って選抜している。令和6年度から令和7年度にかけて各々の進捗を踏まえて、評価とインセンティブ（育成対象者に与える予算配分）を定めてきた。また選抜された育成対象者は実績も異なれば、現状のプロジェクトの中での進捗も異なっているが、その進捗の差を厭わず、競争意識を持たせるようにしている


単に海外公演をすることが最終目標ではなく、きちんと海外の演劇界、あるいは学术界で名誉ある地位を占めるようなアーティストを育成することが最終的なアウトカムなので、そのために時間をかけてじっくり育成に取り組みたいと考えている

既存事業の無隣館で教養講座の実績はあるため、その中で特に海外を意識した教養講座を令和6年度の活動として実施しており、人材育成の実績が他施設比較で多い点は当館の強みである
- プロジェクトの活動実績











 プロジェクトでの活動としては、海外展開を意識しながら年12回の教養講座、合宿研修、週2回のメンタリングを実施。海外視察は、令和7年度は4か所実施し、何を視察し、誰と会うかというところまで緻密に海外視察の計画を立てている。また豊岡演劇祭では今年から、海外のプロデューサーを招聘する新たなプログラムが設けられ、ショーケースとしての機能がさらに高まることが期待される
- プロジェクトにおける成果/今後見込まれる成果

 令和6年度は研修がメインだったが、段階的な活動成果として豊岡演劇祭での字幕付きの公演を実施。令和7,8年度では海外での公演を見込んでおり、現在フランス・パリでの海外公演の交渉に入っているメンバーもいる。

令和6年度での活動が育成対象者それぞれの各自の活動（豊岡演劇祭のフリンジや別フェスティバルへの参加等）へ繋がっている点も、本プロジェクトへの参加による意識変容の結果だと思う
- 育成対象者におけるスキル/マインドの変化・成長実感

 他の育成対象者もレベルも高く、学びを深めつつ、競争環境にあるという状況で、今何が必要かという点を意識して活動に取り組めるようになった。海外でのアーティスト等との出会いや、利賀村（富山県）での様々な出会いの中でなにかしら演劇業界・舞台芸術業界に還元できるのではと具体的に考える機会が増えた。

インタビュー対象	江原河畔劇場	分野	劇場・音楽堂等
プロジェクト名	無隣館インターナショナル	区分	小規模







調査項目		回答内容	
		<div><div> 団体・施設</div><div> 指導者</div><div> 育成対象者</div></div>	
活動実績・成果およびその影響	●育成対象者がプロジェクトを通して感じた成果や変容		これまで漠然と目指していた海外展開だったが、 本基金の事業に参加して自分の現在地とやるべきことが明確になっており、自身の現在地だと芸術祭などでメインプログラムをいきなり目指すのではなく、まずは、小さな作品を世界各地で展開して知ってもらうことが重要だと思った。また、海外展開された作品をたくさん紹介頂く中で、国際的な日本独自の特徴などを戦略的に混ぜていくということが重要であるということがよく理解できた
	●海外でのプロモーション活動		視察チーム（市場）ごとに企画書を作成してもらい、広報のやり方をそれぞれ現地コーディネーターとすり合わせながらブラッシュアップしていている段階
	●育成対象者視点でのプロモーション活動に関する現状・課題		海外の場合はInstagramでの広報が必要だが、AIなどを活用してなんとか多言語対応も実施出来ている状態。個人としては知名度もあまりないが、江原河畔劇場のウェブサイトなどで紹介して貰えば、プロモーションの効果も相乗的と思われる ハッシュタグ（#）の付け方次第で、アナリティクスを見ると海外からの流入があり、今後は舞台映像とSNSからの流入、現地で実践可能なステージライダーを有機的に回すことが国内で出来る広報だと認識している
	●本基金のメリット		育成においてきちんとした競争と淘汰を行うには時間がかかるため、育成に複数年度の猶予を頂けたことは大変有益である。予算も明示されているため、参加者に対して、「 全体の年度で使える予算があるため、どのように配分するかを育成対象者の評価に基づいて配分していく 」旨を説明がしやすく、競争と淘汰の原理を反映しやすい
	●基金の活動を経ての地域・社会への影響		豊岡市は人口7万5千人と非常に小さな町でインパクトが実感しやすい。例えば、城崎温泉という関西随一の観光地を抱えており、豊岡演劇祭も賑わっているため、地域への還元が実感できていると感じる。 海外のアーティストと共同制作をする場合にも、宿泊施設を持っている城崎国際アートセンターや江原河畔劇場で集中的に実施したり、国際共同制作等も実施が可能であるため、次のステップとしてはそれらも実施したい。 また、 市内に芸術文化観光専門職大学もあるため、今後は育成対象者に短期の講座を持ってもらうことも考えている
本基金事業への示唆 今後の活動や	●本プロジェクトのプロモーション活動における展望		本プロジェクトのどんな育成対象者がいて、どんな取り組みをしているのかを発信するために準備を行っている。 2025年9月の豊岡演劇祭の際に紹介したり、各々の作品の上映に向けて翻訳資料なども紹介できるように劇場としても取り組んでいきたいと考えている
	●これまでの活動を踏まえて、求められる支援等		各国での演劇の位置づけや、求められている表現、各国のトレンドなどの情報や、個々人の作品や特性に応じたターゲット市場の情報や助言があると多くの人材が活躍できる確度高くなるのではないと思う 国内での（座学での）学びの場は得ているが、地政学的にも海外と交流し続けることが難しい。 単発の視察だと国際演劇祭に視察に行くことのみに留まってしまうところがあるので、創作だけではなく長期で様々な目的のための派遣があると良いと思う

インタビュー対象	東京芸術劇場	分野	劇場・音楽堂等
プロジェクト名	TMTギア – 東京芸術劇場クリエイター支援プロジェクト	区分	中規模

インタビューサマリー

- ✓ 日本の舞台芸術コンテンツは、海外から高く評価され、海外展開の好機を迎えているが、文化施設としてはいかに実力のあるタレントに依存せず、システムティックに海外販路を確立できるかが課題であり、積極的な海外プログラムへの参加、海外劇場との連携交渉等が求められている
- ✓ プロジェクト初年度は、海外フェスティバル・劇場視察や国際会議への参加等を通じ、育成対象者のネットワーク構築や国際感覚の醸成を支援。育成対象者とプロジェクト未参加スタッフの会話を通じ、館のスタッフ全体での海外展開への機運醸成や意識変容も見られた
- ✓ 館としては、長期的な視点で責任ある海外展開交渉ができるという本基金ならではのメリットを享受しつつも、舞台芸術分野とその他分野の違いを踏まえた成果指標・成果創出スパンの設定への工夫や配慮を求める声も挙がり、分野ごとの適切な評価体系の検討の余地が垣間見えた

インタビューメモ







調査項目		回答内容	 団体・施設	 指導者	 育成対象者
業界動向・海外展開への考え方・現状課題	●業界動向	 演劇・ダンスの業界においては、新型コロナウイルスによる影響が落ち着き、国際交流が再開したという状況であるが、コロナ前後で様々な変化を感じている。例えば、 演者や制作関係者等の飛行機の移動に対するエコ・脱炭素志向の浸透や、オンラインでの取組・活動が増えたことで、「生で上演することの価値」が高まっていると感じており、国際フェスティバルも、人件費や物価等、物流コストの上昇等の経済的な状況を背景に、従来の舞台芸術のあり方やプログラム内容の再編成が行われている			
	●日本のコンテンツへの評価	 一方で日本の演劇コンテンツに関して言えば、ロンドンのウエストエンドで2.5次元系のアニメを原作とした作品が大ヒットする等、日本のコンテンツへの期待・関心が非常に高まっており、日本にとっては海外展開の絶好の機会であると捉えている			
		 今回ブリティッシュ・カウンシルからの招聘で訪問しているエディンバラ・フェスティバル（イギリス）においても、本基金の別プロジェクト「SOIL」が発信するプログラムや、劇団鹿殺しの作品の評価が高く、日本のコンテンツの人気を目の当たりにしているところである。特に劇団鹿殺しは5つ星評価を獲得するなど活躍が顕著であった。 また、フェスティバルに来て感じることは、国ごとに作品やその作り方に様々な特徴が見られるものの、 日本人は丁寧かつ繊細に、細やかに芸術を創り上げる などということ。その点はプロデューサーや制作スタッフの力もすごく大きいと思うが、日本の強みとして大事にしたいポイントだと感じた。 極めて伝統的なものや美意識が高いものと、キッチュなものや両極端と一緒に存在しているというのも、日本の魅力のひとつだと思う			

インタビュー対象	東京芸術劇場	分野	劇場・音楽堂等
プロジェクト名	TMTギア – 東京芸術劇場クリエイター支援プロジェクト	区分	中規模











調査項目

回答内容



業界動向・海外展開への考え方・現状課題	●海外展開への考え方	 文化施設としては、従来の才能の突出した芸術監督やプログラムディレクターに依拠した属人的な展開から脱し、システムティックに海外への販路拡大することで館の機能強化に繋がっていくことが求められていると思う また、同時に新たな才能の発掘に熱心なブリティッシュ・カウンシルが実施する海外プロデューサー向けのプログラムに日本からも多くの人を派遣する等、もっと積極的に販路拡大・機能強化に必要なネットワーク構築にも取り組む必要があると考えている 国家两厅院（台湾）は積極的にシャイヨー国立劇場（フランス）、アヴィニオン演劇祭（フランス）等とMOA (Memorandum of Agreement)を結ぶなど、フットワーク軽く、積極的に海外提携を進めている。その中で、同館がプロデューサーを3年にわたり育成するプログラム（Asia Connection：Producers Camp）を立ち上げ、シンガポール・ソウルの劇場・当館と合同で実施した。当館からは今回の育成対象メンバーが参加した経験がある。参加者は、海外への視界が開けるだけでなく、国際的な仕事につながる可能性が生まれるため、これらの海外に出る機会は、制作者・プロデューサーにとって重要である
	●施設/プロジェクトの課題	 当館は、ネットワークがイギリスやフランスにとどまり、全世界に張りきれていないため、アジア地域のネットワーク強化を図りたい。 また、新型コロナの影響で取り組めなかった若手スタッフの海外ネットワーク構築にも取り組む。なお、近隣の韓国・シンガポール・台湾は、日本よりもネットワーク形成に積極的であり、見習いたいと思っている
活動実績・成果およびその影響	●プロジェクトの目的/活動概要/5年後に目指す成果・ありたき姿	 本プロジェクトの目標としては、育成対象クリエイターの作品の海外上演、高評価の獲得であるものの、5年後には初期の育成対象者が海外で継続的に活躍し、インナースタッフによるクリエイター発掘や海外との関係構築を行いながら、後続を育成する仕組みを作ること、持続的な海外展開と機能強化が実現できる体制を作りたいと考えている
	●これまでの活動実績・成果【演劇】	 今年の5～6月にかけて、オン・ジョブ・トレーニングの一環として、ルーマニアのラドゥ・スタンカ国立劇場と共同製作を行った「ヨナ-Jonah」の東欧ツアーに帯同した。自分自身も制作現場に身を置きながら、現地の方々との信頼関係の構築や、日本と異なるスピード感等の文化の違いを体験し、今後の制作業務を行う上で必要な視点を獲得することができた。また、初めてシビウ国際演劇祭に参加し、日本とは異なる現地の空気感に大きな刺激を受けた そして、6月には韓国のK-Musical Marketに参加し、公演やピッチの視察や他カンパニーとの意見交換を行った。中でも、日韓共同制作を行う日本のプロダクションのピッチやプレゼンは、同様の経験が少ない当館にとって、先行事例として大変学びが多かった
		 映像モデル検証事業で、今回の「ヨナ-Jonah」公演のドキュメンタリー映像を、出演者らによる欧州ツアーの成果報告会で披露したところ、非常にインパクトと説得力があり、地方の館からも広報活動で利用したいという連絡を受けている  今年の始めにニューヨークで行われた国際会議、The International Society for the Performing Arts (ISPA)に育成対象メンバーを帯同して参加し、自分のネットワークを彼女に共有した。のちに彼女がギリシャのフェスティバルに参加した際には、その際に共有したネットワークを活かした活動を行うことができ、若手スタッフのネットワーク構築も順調に進んでいる

インタビュー対象	東京芸術劇場	分野	劇場・音楽堂等
プロジェクト名	TMTギア – 東京芸術劇場クリエイター支援プロジェクト	区分	中規模

調査項目		回答内容	 団体・施設	 指導者	 育成対象者
活動実績・成果およびその影響	●これまでの活動実績・成果【音楽】	 音楽に関しては、当館が長年実施しているBorn Creative Festivalを来年の3月に行う予定であるが、その際に世界中の演奏家が集まるのに合わせ、クリエイターの発表機会を作ることができないか模索しており、昨年度より育成対象メンバーがディレクターやプロデューサーの招致に向けたネットワーキングを進めているところである			
	●本プロジェクトによる団体/業界等への好影響や波及効果	 上記の進捗報告およびその先の海外展開に向けて公演候補地先となる劇場とのネットワークキングのために、今年3月にドイツを訪れ、これまでは担当者レベルでのつながりだった館同士の関係性強化に向けてミーティングを行いつつ、視察を実施した 視察では、直近10年で新設された劇場を回ることができ、日本にいと知り得なかったような業界の最新事情や注目すべきアーティストの情報を入手できたことは大きな収穫だった。普段東京での自分の仕事との違いや距離感を比較できたとともに、アートクリエイターと協働する際に参考になる部分をたくさん持ち帰ることができたと思う			
		 育成対象になっていないインナースタッフとも海外展開を意識したような会話ができるようになったり、作品に対する意見交換や海外マーケットの情報の交換等も館内で活発化した。K-Musical Market（韓国）では他施設関係者とも連帯感を持ち、情報共有ができた。今後はこれを育成対象となっていない人々にも広げたい			
		 他の採択団体からもプロジェクト推進に関する質問を受けて会話する等、採択団体間の情報共有が進み、この基金事業を有効活用しようという共通意識ができたと感じる。成果を適切な機会に社会へ発信し、産業としての可能性をアピールしたい			
今後の展望・本基金への示唆	●今後の活動の展望	 今年の秋には、日本の実情を知ってもらうべく、海外プレゼンターを日本に招聘する予定である。東京舞台芸術祭やKYOTO EXPERIMENTが行われる時期であり、日本から海外に発信するものも増える時期であるため、複数のプレゼンターを招く準備を進めている。また、YPAM（横浜国際舞台芸術ミーティング）の時期も同様に考えている。これは3ヶ年で取り組んでいく予定である			
	●本基金のメリット	 海外の劇場やプロモーターと先を見据えた話し合いができることは本基金のメリットである。複数年で取り組めることから、育成対象アーティストをいつ頃、どのような公演をすることが可能なかを責任を持って伝えることができ、話がしやすくなっている これまでは単年度予算で活動を計画する必要があったが、本基金では3年間かつ予算の付け替えも可能であり、非常に柔軟な体制を取ることができるため、クリエイションの観点からも取り組みやすい			
	●現場視点で求められる基金への要望等	 この基金では複数年度の取り組みでありつつも、中間成果を示すことが求められているが、本番公演が最大の成果となる我々の分野にとっては、中間成果・変化を見せにくいという課題があると思う。特に舞台芸術は即時的に成果が見えやすい分野（マンガ、アニメ等）と比べ、成果が地味に見られがちであるため、舞台芸術の価値を適切に評価することで、関係者のモチベーション向上にも繋げられる仕組みがあると有難い			

インタビュー対象	まつもと市民芸術館	分野	劇場・音楽堂等
プロジェクト名	Step into the world from Matsumoto	区分	小規模

インタビューサマリー






- ✓

日本のコンテンポラリーダンスの分野は、国内マーケットが小規模かつ作品上演の機会も縮小傾向にあり、既に活躍しているアーティストに活躍の場が集中している。国内外で活躍できる、作家性を備えた若手ダンサーも減少しているため、その育成が急務である
- ✓









減少傾向にある作家性を兼ね備えたダンサーを育成しながら、ダンス分野においても松本市のブランディングを推進していくという大きな目的に向けてプロジェクトを始動。指導者の育成方針に関する想いの共有やチームビルディングが功を奏し、各個人での自主的な活動が数多く生まれ、行動変容が起きている
- ✓

当館としては引き続き作品制作～公演を通じて若手アーティストの育成を推進しつつも、今後さらにプロジェクト・作品のプロモーションの試行錯誤を行い、成果の最大化を目指す。また、本基金に対して、育成対象者が主体となった情報交換の場を求める声も挙がった










インタビューメモ

調査項目	回答内容	 団体・施設	 指導者	 育成対象者
業界動向・海外展開への考え方	<div><div></div><div>日本のコンテンポラリーダンスの分野は非常に小規模であり、作品が上演される機会や国内マーケットが縮小傾向にあるため、海外に作品を売り込んでいく潮流がある。一方で、海外の舞台芸術関係者が視察に来る、国内の舞台芸術祭、ミーティング等で作品を上演する日本人は、既に海外から認知のあるアーティストに集中しており、若手アーティストの活躍の場をサポートしていく必要がある</div><div>コンテンポラリーダンスには「作家」と「ダンサー」の2つの役割が存在しており、かつては国内にも作家とダンサーを兼任するアーティストが存在したが、今はこの2つの素養を持ち合わせた良い作品を作ることができるアーティストが減少傾向にある。そのため、海外ディレクターが、国内でクオリティの高い作品をセレクトする際に、作家性を兼ね備えたごく一部のダンサーに興味が集まってしまう</div><div>日本国内でコンテンポラリーダンス作家が減っている要因として、専門的な教育という意味で大学教育の機能不全があると考えている。かつては一流のアーティストの下、4年間でダンスや作品創作について考えることができたが、規制などもあり従前の教育が衰退していると思っている。本事業の期間は、大学教育中の期間と概ね一致しており、若手アーティストがゆとりをもって作品制作やダンスについて考えられることはアーティスト育成において非常に重要だと思う</div></div> <div><div></div><div>若手アーティストが、自身のあり方を確立させるためには、ある程度の時間的な余裕も必要であると考えているが、多くの人がコンペティションのための作品制作に追われており、作品制作やダンスを通してそもそも自分が成し遂げたいことを考える時間が限られてしまっている</div></div>			

インタビュー対象	まつもと市民芸術館	分野	劇場・音楽堂等
プロジェクト名	Step into the world from Matsumoto	区分	小規模

活動実績・成果およびその影響	調査項目	回答内容	 団体・施設	 指導者	 育成対象者
	●プロジェクトの目的	 巡回公演や貸館だけではなく、作品制作のノウハウを持つことが強みの当館は、これまで注力していた演劇に加えて、別の分野にも進出していく方針・狙いである。それに伴い、既に備わっている『岳』『学』『楽』等の松本市のブランド力に『ダンス』が加わることで更に促進されることが本プロジェクトの大きな目的である。基金終了後も育成対象者には関与し続けていただきたいし、松本市にダンスのイメージも醸成し続けていきたいと考えている			
	●育成対象者選抜・育成の方針	 本プロジェクトの目的を果たすため、作家性を兼ね備えた若手アーティストを選抜し、育成していきたいと考えている			
	●人材育成の考え方	 自身の経験では、ダンスとは一見関係ない出来事から作家としての素養が鍛えられてきた。実力のあるアーティストを育成するには、自分のペースで、何かダンス以外のことを考える時間を持つ必要があると考えている。そのため、指導者が海外展開に係る活動を全て主導するのではなく、育成対象者とコミュニケーションをとりつつ、彼らの自主的な活動をサポートしていきたいと考えている			
	●これまでのプロジェクトの進捗状況/活動実績	 3名のダンス作家と1名の制作者を育成対象とした後、能楽師等によるレクチャーや市内研修等を行った。令和7年12月にショーイングを実施し、令和8年の5月に松本市市内での公演を予定しており、その際に国内外のプロデューサー・批評家等を招聘し、作品に対して意見を頂く予定である。 加えて、アートマネージメントの育成対象者がリサーチしている各国のダンスフェスティバルの情報と、育成対象者個人の活動、令和7年6月の韓国視察から得られた情報を内部の成果報告会で共有し、ディスカッションを通して、育成対象者ごとにどの国のどのフェスティバルをターゲットとするかを検討・選定する予定である			
	●プロジェクトにおける成果/今後見込まれる成果	 指導者の指導およびフィールドワークを通じて得た学びを生かし、育成対象者が各々の活動に繋げていくマインドを身に付け、まつもと市民芸術館を拠点に、それらを有機的に共有している点が非常に大きな成果であると考えている。また、自費での欧州視察、一般の方を起用した作品制作、振付師としての劇団の作品制作への参等、各自が自主的に具体的な活動を展開し、切磋琢磨している			

インタビュー対象	まつもと市民芸術館	分野	劇場・音楽堂等
プロジェクト名	Step into the world from Matsumoto	区分	小規模

調査項目		回答内容	
		 団体・施設  指導者  育成対象者	
活動実績・成果およびその影響	●プロジェクトにおける成果/今後見込まれる成果	 本プロジェクトの枠組み・指導者との関わりが自身の海外展開に対する考えを大きく変えた。海外で国際的に活動するという言葉の解像度が低いということを痛感した。そこで、ベルギー、ドイツ、オーストリアの現地の教育機関およびダンスハウスを自費で約1ヵ月に渡り視察し、現地で活動している12名の日本人アーティストにインタビューを実施し、活動の内容や現地コミュニティの有無、資金繰りについて話を伺った。またインパルス・タンツ（オーストリア）を視察し、若手アーティストが参加するオムニバス公演を観賞した。視察後、ノウハウ還元のため、本プロジェクトメンバーと情報共有しただけではなく、急な坂スタジオ（横浜）にて一般向けに視察内容の報告会を実施した	欧州視察後に、リンツ（オーストリア）のインディペンデントダンスハウスのレジデンシーに通過し、26年度からオーストリアにて創作を行うことが決定した。欧州視察から現地ダンスハウスへの応募までの一連の活動は、本プロジェクトを契機とする意識と行動の変容により実現した結果であると認識している
	●本基金のメリット	 コンテンポラリーダンスは企画から公演まで最低2年、長くて4、5年程度の時間を要するため、単年度の事業では、実施可能な内容が限られてしまう。一方本基金では、資金面の援助に加えて、長期的な視点で1つのプロジェクトを実施し、育成を行うことができるようになったことが非常に魅力的である	“作品制作～公演”だけではなく“育成”のための活動に対して資金援助がされる点も魅力的であると感じている。公演に直結する経費だけでなく、ダンスについて考える時間や講師のレクチャーの時間などの作品制作の手前の活動に対してかかる費用も対象となっている点は大変有益である
	●本基金による地域社会への好影響や波及効果	 市民に芸術やコンテンポラリーダンスへの関心を広げつつ、育成対象者として成長できるかがプロジェクトの目的と考えているため、松本市に実際に移住してプロジェクトに参加している。その中で、地域のお祭りなどのイベントに実際参加・交流するだけでなく、それを通じて公演や当館の活動の話に繋がることもあり、移住も含めてそれらの目的達成に同時に向かっている実感がある	
本基金への展望・今後の展望	●プロジェクトの広報活動における今後の展望	 広報手法を検討するにあたり、欧州のダンスカンパニー関係者と情報交換を行った際に、作品セレクトを行う上での参考映像は、長尺よりも1分程度の短い動画の方がインパクトがあり有効との意見があった。そのため、今後は映像/音楽制作が出来る育成対象者と協力して進めていきたいと考えている	
		 事業を広く周知するために、ウェブサイトには、概要のほかライターや育成対象者によるレポートを掲載している。運用も動き出したばかりで試行錯誤しながら進めている状況なので、文化庁や芸文振の皆様の伴走支援により、アドバイスや意見を頂けたら大変有難い	
	●今後基金に求めること	 プロジェクトの垣根を超えた育成対象者での情報交換やディスカッションの機会があると良い。本基金で得られたノウハウを全体に還元できると相乗効果も出て良いと考えている。どこかの団体が主催するのかもしれないと思うが、本基金の施策の一環として用意頂けると大変有益だと感じる	

インタビュー対象	山口情報芸術センター【YCAM】	分野	劇場・音楽堂等
プロジェクト名	子ども×テクノロジー作品の制作を通じた人材育成プロジェクト	区分	小規模

インタビューサマリー






- ✓

近年の国際的なフェスティバルでは、VRやAI等のテクノロジーを活用した新たな表現が多く、ディレクターたちの興味関心を惹きつけていると認識している。一方で、テクノロジーを活用した作品制作には、創作のための多くの時間・費用の捻出、そして各国法規制への対応等が求められる
- ✓

本プロジェクトでは、施設として初めて子どもを対象にしたオリジナル舞台芸術作品の制作に挑戦しており、その上でさらに海外展開の実現に向けて活動をしているため、育成対象者の意識変容も含めて様々な気づきを得ながら、地域の小学校等とも連携して作品制作を進めている
- ✓

作品にAIを活用することから、海外現地の契約や法規制等への対応が課題であるものの、今後地域と連携して広報活動を進めながら、児童に作品のプロトタイプを体験してもらう機会も計画しており、成果創出に向けて多方面で積極的な活動を展開する予定である

インタビューメモ

調査項目		回答内容	 団体・施設	 指導者	 育成対象者
業界動向・海外展開への考え方・現状課題	●業界動向	<div><div></div><div>当館はこれまで20年以上、「同時代のテクノロジーを応用して作品を作る」ということに挑戦している。その中で、本プロジェクトの調査で国内外の芸術祭を訪問した際にも感じたことであるが、欧米やアジアを問わず、近年の国際的なフェスティバルは、例えばVR、ロボティックス、AI等のテクノロジーを使った作品を上演するフェスティバルが非常に多いと感じた。現代社会を映す鏡としてのフェスティバルにおいて、多くのディレクターが同時代に発生しているテクノロジーに興味関心を持っているのではないか</div></div>			
	●認識している課題	<div><div></div><div>テクノロジーを活用した作品は、興味や注目が集まる一方で、制作に非常に時間がかかるのが課題である。どのようなテクノロジーを作品に使用するかを協議し、実現に向けプロトタイプを一度開発してから実験を行い、テクノロジーの使用可能性や作品の実現可能性を確かめていくことが必要になるため、どうしても時間と費用の捻出が課題となる</div></div>			

インタビュー対象	山口情報芸術センター【YCAM】	分野	劇場・音楽堂等
プロジェクト名	子ども×テクノロジー作品の制作を通じた人材育成プロジェクト	区分	小規模

調査項目

回答内容



団体・施設








指導者












育成対象者

- 活動実績・成果およびその影響
- これまでのプロジェクトの進捗状況/活動実績
 - 基金によって活性化した取り組み/基金があることで始動した取り組み
 - スキル/マインドにおける変化／成長実感の度合い
 - 単年ではない基金だからこそ感じられるメリット

-  YCAMは、作品制作を支えていたスタッフの入れ替わりもあり、若いスタッフの育成という施設としての課題も抱えているが、今回の海外展開を通じた人材育成プロジェクトでは、初めてこのような取組に参加するスタッフに対するアドバイザーとして元YCAMの技術課長が指導者として参画し、海外スタッフとの確認作業等実務的な部分のアドバイスを頂きながら、人材育成とプロジェクトの両方を推進できているようにしている
-  今回の作品では、例えば日本の小学校で当たり前のこと（例：授業開始のチャイム、教室の机の並べ方やレイアウト等）を取り入れているが、そのコンテキストがどこまで海外で通用するののかという点は非常に気にしている。作品のコンテキストや話の内容を上演する先々で擦り合わせしつつも、そこに影響されすぎずに作品を保持し続ける難しさがあると思っている。また、海外展開を見据えてコンセプトを固めながら作品を作るのは、これまでの自身のやり方とは異なるため、意識すべき点が多いと感じている

本作品は通常の鑑賞体験とは異なり、アーティストと観客である子どもが一体となって作り上げていくものであり、現在台本作成においても、先生の投げかけに対して実際に児童が反応してくれることを想定して作成を進めている。ただ、児童がどのような熱量でこの作品を体験するのかという点や、パフォーマティブな要素とそれに対するリアクションの要素の想定が適切であるかという点は正しく掴みかねている部分である
-  YCAMでは、AIを活用した創作はこれまでも取り組んだことがあるものの、子どもたちを対象にしたパフォーミングアーツの分野のプロジェクトは初の試みである。教育普及活動という切り口で、小学4年生以上の児童を対象にしたワークショップ形式の授業等は過去に実績があるものの、舞台芸術で子どもを対象にしたオリジナル作品を制作するのはYCAMとして初めてであり、非常に大きな挑戦となっている
-  制作、プロモーション含め、海外展開をするというマインドセットの中で制作をするのは初めてである。海外まで展開するという意識がクリエイションの一部になっていることが、自分にとって非常に珍しいことであり、現在令和7年12月の初演に向けてクリエイションを進めているが、今後の先々の展開を見据えつつ、当初の目的・ビジョンを忘れずに作品を作っている
-  3年間支援いただけることが決まっているからこそ描ける射程がある。単年度助成の場合だと、支援開始後すぐに海外展開をするための作品制作を行わないといけないが、今回は国内の文化施設や市内の小学校から始まり、そこから海外各国に合わせて作品を調整しながら展開を図るという計画を描いている。海外展開を段階的に考えることができるのは、この事業だからこそだと感じている

インタビュー対象	山口情報芸術センター【YCAM】	分野	劇場・音楽堂等
プロジェクト名	子ども×テクノロジー作品の制作を通じた人材育成プロジェクト	区分	小規模

調査項目		回答内容	
成果およびその影響	●広報面における指導者の関与	 指導者である伊藤ガビン氏には、「編集者」であり「子どもを持つ親」という立場で、YCAMにも訪問いただきながら、子ども達に作品を伝えるための広報や子どもや親へのアピールの仕方についての助言や、広報の素材制作などにも関与いただいている	   団体・施設 指導者 育成対象者
	●本プロジェクトにおける課題	 海外現地におけるAI使用のレギュレーションを把握することが課題である。本作品は観客が喋った内容を録音し、AIが生成した言葉をロボットが喋るシーンを想定している。個人情報を使用し、その情報からAIが台詞を生成することに対して予め観客の許可を取る必要がある。海外展開の場合、現地プレゼンターがパートナーとなり、その点は調整の対応をしてもらうことを想定しているが、現地での個人情報に関わる法的課題には留意する必要があると考えている 海外での契約や法務は毎回YCAMでも手探りであるが、この分野のノウハウや専門的知見があると他劇場も含めて非常に助かると感じた	
今後の展望・本基金への示唆	●今後の展望	 令和7年9月のクリエイション活動では実際に作品のワークインプロGRESSを子どもに体験してもらう予定で、その結果やフィードバックを作品に反映していきながら作品を完成に近づけていく想定である  作品を通じて市内をはじめ多くの小学校を巡る予定であるため、今までYCAMに足を運んだことのない子どもたちにも作品を届ける良い機会になるのではと考えている 令和7年10月にソウルの国立現代舞踊団が主催のイベントにワークショップ講師や、フォーラム登壇者としての参加を予定している。本作品から得たアイデアを取り混ぜながら、ワークショップを実施する予定である	
	●今後の広報活動予定	 本プロジェクトの広報活動は、YCAMがオリジナル作品に対して通常行っている広報活動（フライヤー、プレスリリース、バナー、ポスター制作等）に沿って行っているが、ただ今回は新作かつ子どもを対象としていることもあり、イラストレーションを活用したポスターやティザー動画を検討中である。また、地域における広報活動という点では、地元の新聞やテレビにもはたらきかけ、批評家を招聘して記事を書いていただくことも予定しているほか、小学校等の関係団体へのフライヤー配布や、親子向け演劇を上演している団体への告知、地域内の舞踊・演劇団体向けの広報も併せて実施していく予定である	
	●本基金に求めること	 海外批評家、海外に向けて発信できる国内批評家、さらに海外で発信力を持つ批評家のネットワークがないため、それらの情報やマッチング支援（批評家や媒体との繋がるための支援）があれば、より作品や活動を訴求できるのではないかな 次世代のクリエイター育成を推進するという意味では、育児と創作活動の両立に困難を感じている関係者をサポートする環境を整備することで、より質の高いパフォーマンスが期待できるのではないかな	

4.文化施設による高付加価値化機能強化支援事業 詳細資料

(1) 採択プロジェクトインタビュー個票

(2) 採択プロジェクト概要

プロジェクト名 大分発アートプラクティス発信事業-竹/キュレーション・プロデュース

実施施設 大分市美術館



美術館・博物館

劇場・音楽堂

大規模

中規模

小規模

事業概要

大分美術館および大分市のプレゼンスを高めることを目標に、育成対象者と有名アーティストのコラボレーション企画、海外アートフェア・展覧会への派遣を実施する。また、大分市美術館コレクションとのコラボレーション、展覧会の国内外開催による学芸員のキュレーション、プロデュース能力の向上を目指す。

活動計画

～3年目

～5年目

- 有名アーティストとのコラボレーション企画（「アウトスタンディング・アーティスト×竹」）を含む国内展示会を開催
- 制作プロセスを含むデジタルコンテンツを国内外に配信
- 国内での作品制作と国内外への発信
- 海外における市場開拓
- 海外展示の実施、アートフェスティバル等への参加

主な育成対象者



長谷川 絢 | 美術家

日本美術展覧会・日本新工芸展入選/『Japon Japonismes, Objets inspires 1867-2018』展（パリ装飾美術館）に出展。



近藤 雅代 | 竹工芸作家

次世代バンブーアート賞トラディション優秀賞・暮らしの中の竹工芸展グランプリ受賞/日本伝統工芸展入選。



谷口 倫都 | 竹藝家

国際北陸工芸サミット『ワールド工芸100選』展 富山県美術館/日本新工芸展 彫刻の森美術館奨励賞。

中核的な指導者・アドバイザー



コシノ ジュンコ | ファッションデザイナー

東京を拠点に、1978年～2000年にパリ・コレクションに参加。世界各地でファッション・ショーを開催。オペラから、ブロードウェイ・ミュージカル、スポーツのユニフォーム、インテリア・デザインまで、幅広い分野で活動。



中臣 一 | 竹藝家

次世代バンブーアート賞コフランド最優秀賞受賞。ボストン美術館等国内外の展覧会参画。国内外の美術館にパブリックコレクション多数あり。



木崎 和寿 | 竹藝家

次世代バンブーアート賞ファイナリスト/『Japon Japonismes, Objets inspires 1867-2018』展（パリ装飾美術館）に出展。



池 将也 | 竹藝家

『Japon Japonismes, Objets inspires 1867-2018』展（パリ装飾美術館）に出展/国際北陸工芸サミット『ワールド工芸100選』



青柳 慶子 | 竹工芸作家

西部伝統工芸展入選/日本伝統工芸展入選。

プロジェクト別令和6年度実施概要・成果等（出所：令和6年度報告書）

令和6年度の実施概要

- ・ コシノジュンコ氏らのワークショップ開催に向け準備を行った
- ・ 海外美術館、海外の著名なアーティストとの連携協議を推進した

プロジェクト関係者の
意識・行動変容

- ・ 指導者・育成対象者ともに、本プロジェクトに対する期待と使命を持ち、意欲的に取り組んでいる
- ・ 遂行団体として、当初のロードマップを基にしつつ、柔軟かつスピード感のあるPDCAサイクルの重要性を再確認した

令和6年度終了時点での
育成についての状況

- ・ 近藤雅代がくらしの中の竹工芸展グランプリ受賞、池将也が同展大分合同新聞社社長賞受賞した
- ・ 木崎和寿、池将也がArt Central（香港）に、長谷川絢がArt Paris（パリ）に出品した

事業概要

国立科学博物館および映像コンテンツ制作会社のメンバーからなるイノバイティブ映像開発ユニットのノウハウを統合し、博物館標本を実空間、仮想空間、マスメディア等の特性に応じて効果的に活用できる『次世代型学習コンテンツプロデューサー』を育成する。

活動計画

～3年目

～5年目

- イノバイティブ映像開発ユニットと共同で博物館標本に関する超高精細コンテンツの制作
- 展示・学習コンテンツの制作
- 超高精細コンテンツを活用した学習コンテンツの制作
- 上記を活用した、コミュニケーションモデルをアジア地域の博物館に対して提案

中核的な指導者・アドバイザー



篠田 謙一 | 国立科学博物館 館長

古人骨のDNAを分析し、日本人の起源や人類の世界拡散について研究、書籍多数出版。国立科学博物館にて幅広い分野の特別展を監修。



落合 淳 | NHKエデュケーショナル エグゼクティブプロデューサー
専門分野は科学番組や超高精細8kコンテンツプロデュース。超高精細技術を生かし、中尊寺展展示映像、国立科学博物館の標本の超高精細3DCG化等行う。科学技術映像祭文部科学大臣賞等受賞。

育成対象者

堤 千絵	国立科学博物館 植物研究主幹
森田 航	国立科学博物館 人類研究部研究員
對比地 孝亘	国立科学博物館 生命史研究部研究主幹
井手 竜也	国立科学博物館 動物研究部研究主幹
田島木 綿子	国立科学博物館 動物研究部研究主幹
鞍島 治	国立科学博物館 科学系博物館イノベーションセンターマーケティング・コンテンツグループ長
小川 達也	国立科学博物館 学習課学習企画担当

久保 匡	国立科学博物館 常設展示・巡回展示課常設展示担当
大橋 紘樹	国立科学博物館 企画展示課特別展担当
泉谷 尚宏	国立科学博物館 財務課財務企画担当
日野原 竜	NHKエデュケーショナル チーフプロデューサー
藤原 桃子	NHKエデュケーショナル プロデューサー
植木 健太	NHKエデュケーショナル ディレクター
高嶋 一成	アフタイメージ テクニカルディレクター

プロジェクト別令和6年度実施概要・成果等（出所：令和6年度報告書）

令和6年度の実施概要

- ・ 人類頭骨5式、ほ乳類2式、化石1式の3D撮影を行い、人類頭骨5式の3Dモデリングを作成した
- ・ ASEAN諸国の現地博物館訪問者の状況を調査し、コンテンツ展開のステップの検討を開始した

プロジェクト関係者の
意識・行動変容

- ・ 自然標本の特性や注意点、取り扱いに関する理解度が高まった
- ・ 標本・資料のデジタル化と超高精細データ制作方法についての理解を深めた
- ・ デジタルコンテンツを展示や学習プログラムに活用する方法についての視点が広がった

令和6年度終了時点での
育成についての状況

- ・ 次世代学習コンテンツの一つ3Dモデリングを作成した
- ・ 標本管理者と映像クリエイターの間で議論を重ね、標本の意義や特性を共有しながら作業を進めたことで、相互理解が向上した
- ・ 撮影やモデリングが予定通り進行し、成果を達成した
- ・ 令和7年度の3D撮影やモデリングに向けたスケジューリングを行い、計画的な進行の準備を整えた

事業概要

若手キュレーター・デザイナーの人材育成、アジア諸国やBRICS等のミュージアムとのネットワーク構築を行う。また、日本文化の魅力発信を通して、日本伝統文化の国際的なプレゼンスの向上、海外での日本文化ファン獲得・拡大を目指す。

活動計画

～3年目

～5年目

- 日本美術展の開催機会が少ないメキシコ、インドネシアを候補地として展覧会を開催
- 世界各地のミュージアムとの交流協定の締結
- 交流協定締結館のうち日本との関係強化が見込まれる地域に限定し、日本の美術展を開催
- 展覧会を適宜デジタルコンテンツ化し、情報を発信

中核的な指導者・アドバイザー



小山 弓弦葉 | 東京国立博物館職員

東京国立博物館・調査研究課長。染織を専門分野としており、特別展『人間国宝』、『きもの』、『江戸☆大奥』ほか多数展示実績あり。



佐藤 寛介 | 東京国立博物館職員

東京国立博物館 特別展室長。刀剣甲冑を専門分野としており、特別展『国宝 東京国立博物館のすべて』ほか多数展示実績あり。

主な育成対象者

沼沢 ゆかり	染織	東京国立博物館・工芸室 研究員（キュレーター）	増田 政史	日本彫刻	東京国立博物館・特別展室 研究員（キュレーター）
玉城 真紀子	東洋考古	東京国立博物館・平常展調整室 研究員（キュレーター）	菊池 望	日本考古	東京国立博物館・特別展室 研究員（キュレーター）
野中 愛理	日本絵画	東京国立博物館・特別展室 研究員（キュレーター）	荻堂 正博	展示設計	東京国立博物館・デザイン室 研究員（デザイナー）
福島修	漆工	東京国立博物館 貸与・特別観覧室長 主任研究員（キュレーター）	小島 有紀子	教育普及	東京国立博物館・教育普及室 主任研究員（エドゥケーター）
廣谷 妃夏	染織	東京国立博物館・東洋室 研究員（キュレーター）	山口 朔実	英語	東京国立博物館・海外展室 AF（コーディネーター）

プロジェクト別令和6年度実施概要・成果等（出所：令和6年度報告書）

令和6年度の実施概要

- ・ インドネシア国立博物館で展示室の計測・環境調査を実施し、展示レイアウトおよび展示ケースの図面を作成。韓国国立中央博物館では令和7年度展示作品の合同調査を実施した
- ・ 国内展示では、トルコのサバンジュ美術館と連携。東京国立博物館でトルコ文化やオスマン帝国の美術を紹介する講演会を開催した
- ・ プラハ国立美術館とのMOU締結、インドネシア国立博物館とMOU締結に向けた現地協議を実施した
- ・ 今後の海外展出品作品のColBase登録を行った

プロジェクト関係者の
意識・行動変容

- ・ 育成対象者からは、主体的に実務を担う意識が強く芽生えていることが看取される。次年度以降はこれをより具体的な行動として発揮できるよう働きかけていく

令和6年度終了時点での
育成についての状況

- ・ 海外ミュージアムの国内情勢によりスケジュール変更を余儀なくされる中、若手コーディネーターを採用し、指導者のサポートのもと実践的な人材育成を実施した
- ・ 育成対象者に、展覧会に伴って生じる文化財輸出入にかかる手続きを経験させることで、博物館事業の国内・海外展開に必要なロジスティクス能力を育成した

事業概要

建築家の藤本壮介氏の展覧会の企画・制作・海外巡回や、森美術館外の中堅・若手キュレーターも対象としてシンポジウムやワークショップを通じたキュレーター、コーディネーター、アシスタントの育成を実施する。

活動計画

～3年目

～5年目

- 3年間でアジア1~2会場での藤本壮介展の巡回を実施
- 国際展のディレクター経験者を招聘し、ワークショップと国際シンポジウムを開催
- アジア巡回に加えて欧州での巡回
- ワorkshop参加キュレーターを海外機関や芸術祭のスタッフとして派遣

主な育成対象者



近藤 健一 | 森美術館シニア・キュレーター

2014-15年ハンブルガー・バーンホフ現代美術館客員研究員。国内外にて多数の企画・共同企画経験あり。



椿 玲子 | 森美術館キュレーター

2002年より森美術館所属。国内外にて多数の企画・共同企画経験あり。



高橋 美奈 | 森美術館コーディネーター

展示制作グループにて展覧会コーディネーター担当。海外巡回含む複数展覧会に関わる。2013年より森ビルのパブリックアート設置も担当。

中核的な指導者・アドバイザー



Photo : David Vintiner

藤本 壮介 | 建築家

2014年フランス・モンペリエ国際設計競技最優秀賞『ラルブル・ブラン（白い樹）』に続き、2015、2017、2018年にもヨーロッパ各国の国際設計競技にて最優秀賞を受賞。国内では、2025年日本国際博覧会の会場デザインプロデューサーに就任。



片岡 真実 | 森美術館館長

2020年より現職。海外美術館・芸術祭にてキュレーター、芸術監督経験多数。CIMAM（国際美術館会議）では2014~2022年に理事（2020~2022年に会長）を歴任。

No
Image

三宅 さくら | 森美術館 コーディネーター

毎日新聞社にて展示会制作業務に従事したのち、2023年より現職。森美術館では、『ルイズ・ブルジョワ展』（2024-2025）等の展示・制作を担当。

No
Image

清水 美咲 | 森美術館 アシスタント

2023年より現職。『私たちのエコロジー』（2023-2024）、『MAMリサーチ10：1980~1990年代、台湾ビデオ・アートの黎明期（展覧会編）』（2024-）等を担当。

プロジェクト別令和6年度実施概要・成果等（出所：令和6年度報告書）

令和6年度の実施概要

- ・ 2・3年目に実施予定のワークショップや国際シンポジウム等の国内拠点形成に向けた準備を進めた
- ・ 海外美術館との人的ネットワーク形成および海外展示設営の基礎習得のため、育成対象者は台北等に出張し活動した
- ・ 藤本氏との企画内容や展示プランの協議・策定等、展示に伴う各種調整業務を進行した
- ・ 森美術館の既存ネットワークを活用し、巡回先となる台湾や欧州等の候補館へのアプローチを開始した

令和6年度終了時点での
育成についての状況

- ・ キュレーターは、万博会場をはじめとする藤本建築の視察や、指導者との面談を踏まえ、「藤本壮介の建築展」実現に向けた専門的な知識の習得やキュレーションスキルの向上を図った
- ・ コーディネーター、アシスタントは展覧会制作に必要な大型模型をはじめとした展示物の制作や、国際巡回を意識した輸送計画の策定といった展示・制作に関連する知見を深めた

事業概要

育成対象者によるダンス作品の創作活動を行い、愛知県芸術劇場で初演、国内で再演、海外公演まで実施する、加えてプロモーション強化事業及び海外プロモーション活動を行う。これらの事業に愛知県芸術劇場の制作者・舞台技術者等も参画し、海外公演を実施できる技能・ネットワークを構築する。

活動計画

～3年目

～5年目

- 令和6年度より指導者に伴走し、創作活動を開始
- 見本市参加、国際会議等でのプロモーション活動を通じ上演機会の開拓・再演
- 3年目までの成果を踏まえ、更なる国内での再演および海外公演を実施

主な育成対象者



酒井 はな | ダンサー

クラシック・バレエを中心に、ミュージカル、コンテンポラリーダンスにも挑戦。2009年芸術選奨文部科学大臣賞、2015年ニムラ舞踊賞等受賞、2017年紫綬褒章受章。



島地 保武 | ダンサー・振付家

海外でダンサーとして活躍後、帰国し酒井はなとユニット“Altneu<アルトノイ>”を結成。近年フランス国立シャイヨー劇場のレジデンスプログラムに選出され滞在制作を実施。



三東 瑠璃 | ダンサー・振付家

「生きることが踊ること」。自作自演のソロ『Matou』（2015）は世界14カ国21都市で上演され続けている。2017年に<Co.Ruri Mito>を結成。

中核的な指導者・アドバイザー



唐津 絵理 | プロデューサー

愛知県芸術劇場を中心に、ダンスの公演・普及・育成等あらゆる企画に携わる。2024年愛知県芸術劇場芸術監督・常務理事に就任。

2022年度芸術選奨文部科学大臣賞受賞。



平山 素子 | ダンサー・振付家

2005年より本格的に振付家としての活動を開始。新国立劇場、愛知県芸術劇場にて多数の上演経験あり。2009年芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。



黒田 勇 | ダンサー・振付家

第21回Art-M in 富山2018最高賞の松本千代栄賞受賞。座・高円寺ダンスアワード受賞。岡田玲奈とダンスユニット<Null>を立ち上げる。演劇、バックダンサー、CM出演等活動の場を広げる。



岡田 玲奈 | ダンサー・振付家

幼少よりモダンダンスを学ぶ。黒田勇とダンスユニット<Null>を立ち上げる。そのほか振付家作品への出演や演劇・ミュージカルの振付助手、MV・CM出演等活動中。

他、制作スタッフ4名（内 愛知県芸術劇場職員2名）
舞台スタッフ2名（内 愛知県芸術劇場職員1名）
批評家・ライター 2名

プロジェクト別令和6年度実施概要・成果等（出所：令和6年度報告書）

令和6年度の実施概要

- ・ 育成対象者による作品クリエイション及び上演を実施し、メンターによる作品に対するフィードバックを行った
- ・ ダンスアーティスト及び創作した作品をアーカイブにまとめ国内外へ発信した
- ・ 育成対象者に対し、作品創作の基礎知識となるプロデュース・マネージメント・ライターのための講座の実施をスタートした

プロジェクト関係者の
意識・行動変容

- ・ 育成対象者は、メンターとの対話を通じて、作品を客観的に見つめ直し、社会への展開を考える視点を得た
- ・ 育成対象者は、「社会的視点の弱さ」を自覚し、作品の改善と社会との繋がりを熟考する機会となった

令和6年度終了時点での
育成についての状況

- ・ 育成対象者（ダンサー・振付家）は、作品創作に集中し、メンターからフィードバックを受け、今後の海外展開を視野に入れた活動を実施した
- ・ 育成対象者の島地保武と酒井はな、Nullは、横浜国際舞台芸術ミーティング（YPAM）に参加し、自身の作品を海外の舞台芸術関係者と共有し、発信力を強化した
- ・ 育成対象スタッフは、公演の現場だけでなく、横浜国際舞台芸術ミーティング等の場に立ち会い、メンターと交流しアドバイスを得る機会を創出した
- ・ 育成対象者であるスタッフは、海外の見本市や劇場を視察し、海外関係者とのネットワーキングの構築をスタートさせた

事業概要

江原河畔劇場をフランチャイズする劇団青年団の人材育成ノウハウを生かし、国際的に活躍する劇作家・演出家・舞台スタッフ・制作者を育成する。実際に国際プロジェクトを制作・実践する拠点劇場となることを目指す。

活動計画

～3年目

～5年目

- ・合宿・オンラインによる海外展開の
教養講座の提供
- ・海外プロデューサーのマッチング、
海外フェスティバルへの派遣
- ・豊岡演劇祭等での字幕付き上演
の実施
- ・国際共同制作、海外劇場・フェス
ティバルからの委嘱作品制作に向
けた研修の実施
- ・育成対象者全員の海外公演の
実施

主な育成対象者



上ノ空 はなび | 演出家

パフォーマンスカンパニーto R mansion全作品の演出、振付、プロデュースを行い、18カ国84都市の演劇祭やストリートフェスに招聘されている。近年、演出ユニット・スカンクスパンクを結成。

©Chiye NAMEGAI



宮崎 玲奈 | 劇作家・演出家

ムニ主宰・劇作家・演出家。『ことばにない』第1回日本みどりのゆび舞台芸術賞 HOPE 賞受賞 / 『真昼森を抜ける』第11回せんがわ劇場演劇コンクール演出家賞。



松原 俊太郎 | 劇作家・演出家

戯曲『みちゆき』第15回AAF戯曲賞大賞を受賞(2015)。戯曲『山山』が第63回岸田國土戯曲賞を受賞(2019)。

© HISAKI MATSUMOTO

中核的な指導者・アドバイザー



© Tsukasa Aoki

平田 オリザ | 劇作家・演出家

1995年岸田國土戯曲賞他受賞歴多数、2011年仏国芸術文化勲章受勲。

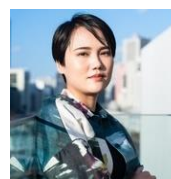
2021年芸術文化観光専門職大学学長。



杉山 至 | 舞台美術家

2006年 カイロ国際演劇祭ベストセノグラフィアワード、2014年 読売演劇大賞最優秀スタッフ賞、受賞。

2021年 芸術文化観光専門職大学准教授。



撮影：塚田史香

高羽 彩 | 劇作家・演出家

プロデュースユニット『タカハ劇団』の主宰・脚本・演出。アニメ・実写ドラマ・ゲームシナリオとジャンルを問わず活躍の場を広げている。



©矢野瑛彦

福名 理穂 | 劇作家・演出家

劇作家、演出家、ぱぷりか主宰。『柔らかに揺れる』にて第66回岸田國土戯曲賞受賞(2021)。



©岩原俊一

穴迫 信一 | 劇作家・演出家

現代演劇を制作する芸術団体「ブルーエゴナク」代表・劇作家・演出家。公益財団法人セゾン文化財団セゾン・フェロー-I。THEATRE E9 KYOTO第3期アソシエイトアーティスト。

プロジェクト別令和6年度実施概要・成果等（出所：令和6年度報告書）

令和6年度の実施概要

- ・ 選考の面談も含め、述べ200回近い面談を繰り返し行い、育成対象者へ海外展開へのきめ細かい指導、助言を行った
- ・ 面談を通じてアーティストの特性をつかみ、個別に売り込み先の地域、国、売り込み方の細かい選定と推進を並行して行い、翻訳・字幕作成および令和7年度の海外視察および国内での字幕付き上演を決定した

プロジェクト関係者の
意識・行動変容

- ・ 教養講座を通じて参加者の海外展開への意識が高まり、「持続可能な展開には計画の深掘りが必要」という共通認識が形成された
- ・ 運営側もメンバーの熱意に応え、講座内容を精査し具体的なサポート体制を強化している

令和6年度終了時点での
育成についての状況

- ・ 育成対象者19名を一律にサポートするのではなく、すでに高い実績のある対象者には字幕上演、海外のプロデューサーとのマッチングを進める一方、将来性のある若手アーティストには企画書の内容から指導し、ブラッシュアップを続けている
- ・ 多い者は5回程度まで面談を繰り返し、ターゲットを絞って海外プロデュースへの工程表の作成に入っている

事業概要

SPAC-静岡県舞台芸術センターがストリートシアター作品を制作することで、誰もが親しめるストリートシアターの実施ノウハウを蓄積し、国際的な舞台芸術市場にも育成対象者を輩出する。

活動計画

～3年目

～5年目

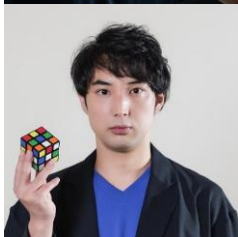
- ・ストリートシアター作品を創作し、国内での上演の実施
- ・海外のストリートシアターフェスティバルとのネットワークを構築
- ・海外の野外フェスティバルからの招聘
- ・国内でのツアー公演の実施
- ・海外の野外フェスティバルからの招聘

主な育成対象者



鈴木 ユキオ | 振付家・ダンサー

2008年『トヨタコレオグラフィアワード』にて次代を担う振付家賞（グランプリ）を受賞。2012年フランス・パリ市立劇場『Danse Elargie』で10組のファイナリストに選出。



大熊 隆太郎 | 演出家・俳優・パフォーマー

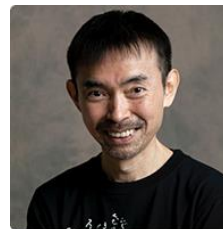
2008年劇団壱劇屋を結成。2022年度大阪文化祭奨励賞受賞。京都でロングラン公演中の『ギア-Gear-』マイムパートに出演。ストレンジシード静岡には過去7回参加。

中核的な指導者・アドバイザー



ウォーリー 木下 | 演出家・劇作家

ナンバーバルパフォーマンス集団 THE ORIGINAL TEMPOのプロデュースを行い、エジンバラ演劇祭にて5つ星を獲得、海外にて国際共同製作を行い、高い評価を得ている。東京2020パラリンピック開会式演出を担当、第49回菊田一夫演劇賞受賞。



宮城 聡 | 演出家

第3回朝日舞台芸術賞受賞。第2回アサヒビール芸術賞受賞。第68回芸術選奨文部科学大臣賞受賞。19年フランス芸術文化勲章シュヴァリエを受章。第50回国際交流基金賞受賞。



安本 亜佐美 | 演出家・サーカス・アーティスト

京都市立芸術大学院卒業後、英国サーカス学校へ。帰国後、京都を拠点に現代サーカス・アーティストとして活動。産業ロープアクセス国際資格IRATA level1を所持。



ゼロコ | 演出家・パフォーマー

角谷将視と濱口啓介によるフィジカルコメディデュオ。2016年に設立。オーストラリア、タイ・バンコク等海外のストリートフェスティバルに参加。2019年エジンバラ・フェスティバル・フリンジにてAsian Arts AwardのBest Comedy賞受賞。

プロジェクト別令和6年度実施概要・成果等（出所：令和6年度報告書）

令和6年度の実施概要

- ・ 育成アーティストの決定、ストリートシアターへの知見を深めるためのゼミの初回の実施、および静岡市街地でのリサーチを進めた

プロジェクト関係者の
意識・行動変容

- ・ 団体、指導者として、まず育成対象者を選考するにあたり、これまでのストリートシアター・アーティストの課題と現状を考えることができた
- ・ 育成対象者は、演劇/ダンス/サーカス等、他領域にまたがるジャンルとしての「ストリートシアター」のアーティストであるというアイデンティティに自覚的になった

令和6年度終了時点での
育成についての状況

- ・ 国内のフェスティバルでは、大道芸／野外劇／ストリートシアターの違いが未だはっきりしておらず、令和6年度は「ストリートシアターとは何か」ということについて、多角的な視点で考え、今後の創作の起点ができた

プロジェクト名 劇場による総合的な人材育成・国際発信プロジェクト

実施施設 世田谷文化生活情報センター（世田谷パブリックシアター）

Japan
Creator
Support
Fund
FOR CULTURAL FACILITIES

美術館・博物館

大規模

中規模

小規模

劇場・音楽堂

事業概要

指導者と育成対象の若手クリエイターが国内外で共同作業を行い、演劇作品を世田谷パブリックシアターがプロデュースし、国内外で発表を行う。舞台芸術に携わる様々な職種の劇場職員の育成を同時に行う。

活動計画

～3年目

～5年目

- 育成対象者作品の出演人材選抜ワークショップ・オーディション開催
- 3年目には、育成対象者を中心に新作を創作・上演
- 海外上演に向けて英国クリエイターとワークショップの実施
- 既存作品の国内再演やデジタルアーカイブ、海外ツアー公演を実施
- 韓国、東南アジア地域の劇場・演劇人と人材分野での交流
- 日英共同制作作品の新作を上演

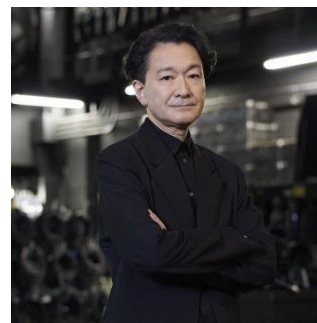
主な育成対象者



生田 みゆき | 演出家

11年、文学座附属演劇研究所入所(51期)。10～14年、『ペーター・コンヴィチュニーオペラ演出ワークショップ』参加。16年、ドイツ文化センター文化プログラムの語学奨学金(芸術分野対象)でドイツに滞在。第31回読売演劇大賞優秀演出家賞受賞。

中核的な指導者・アドバイザー



白井 晃 | 演出家

劇団主宰、KAAT神奈川芸術劇場芸術監督を経て、22年4月、世田谷パブリックシアター芸術監督に就任。第9・10回読売演劇大賞優秀演出家賞、湯浅芳子賞（脚本部門）等受賞歴多数。

他、翻訳家・俳優 1名
劇作家・演出家 1名

※そのほか俳優、ダンサー、スタッフら多様な職種の若手クリエイターをワークショップ・オーディション等を通じて選考を行う予定。

プロジェクト別令和6年度実施概要・成果等（出所：令和6年度報告書）

令和6年度の実施概要

- ・『不可能の限りにおいて』のワークショップ・オーディションを実施し、俳優14名を選抜した
- ・英国との国際共同制作では、育成対象者も議論に参加しながら、戯曲の題材について協議した
- ・英国、インドネシア、韓国を訪問し、劇場関係者や制作会社と協議した

プロジェクト関係者の
意識・行動変容

- ・育成対象者は、自分自身が対象者に選ばれたことにより、採択活動に対して他のプロジェクトと異なる強い責任感を持って取り組んでいるように見受けられる

令和6年度終了時点での
育成についての状況

- ・育成対象者は、海外の指導者との打ち合わせに参加することで、演劇づくりのノウハウを学ぶとともに、海外の文化への理解を深めた

事業概要

音楽・演劇分野で国際経験豊かな指導者と東京芸術劇場の事業推進を通じ、作品を創作し国内外に発信するノウハウを育成対象者に対して指導する。同時に、舞台映像のプロモーション等に体系的に取り組む協働チームを育成する。

活動計画

～3年目

～5年目

- ・創作・海外公演に向けたリサーチの実施
- ・国際共同制作の海外創作現場での研修に参加
- ・短期ワークショップを実施し、東京芸術劇場にて公演を実施
- ・3年目までに国内上演を実施していない育成対象者による国内上演を実施
- ・音楽・演劇両プロジェクトにて海外公演を実施

主な育成対象者



布施 砂丘彦 | アートクリエイター（音楽）

演奏、批評、公演企画、舞台作品の演出に従事。コントラバスでプロオーケストラへの首席客奏等を行う。批評家として第7回柴田南雄音楽評論奨励賞を受賞。



長瀬 善則 | アートクリエイター（音楽）

コロンビア大学経営大学院(MBA)に在籍。DTM、ピアノ演奏に従事。音楽プロダクションでの楽曲制作や、コンサート/音楽ラジオ出演等、様々な音楽企画に参加。



吉野 良祐 | アートクリエイター（音楽）

オペラカンパニーNovanta Quattroで演出作品を発表、びわ湖ホール等各地のプロダクションで演出助手を務める。建築史研究家として片岡安賞（日本建築協会）等受賞。

中核的な指導者・アドバイザー



岡田 利規 | 演劇作家・小説家

2007年クンステンフェスティバル参加以降、世界90都市で作品を上演。2016年からはドイツの公共劇場で継続的にレパートリー上演。読売演劇大賞選考委員特別賞等受賞歴多数。



山田 和樹 | 指揮者

BBC交響楽団を指揮してヨーロッパ・デビュー。欧州を含む国内外の楽団にて首席指揮者、音楽監督を歴任。出光音楽賞、渡邊暁雄音楽基金音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞等多数受賞。



額田 大志 | アートクリエイター（演劇）

2016年に演劇カンパニー『ストミック』を結成。自身の音楽のバックグラウンドを用いた脚本と演出で、パフォーミングアーツの枠組みを拡張していく作品を発表。



山崎 阿弥 | アートクリエイター（演劇）

自らの発声とその響きを感じしエコロケーションに近い方法で空間を認識。音響的な陰影を変容させ世界の生成されるのかを問い、科学者との協働に力を入れる。

他、映像メディアチーム 4名
東京芸術劇場スタッフ 6名

No
Image

プロジェクト別令和6年度実施概要・成果等

令和6年度の実施概要

- 東京芸術劇場スタッフ（育成対象者）が海外フェスティバルや見本市、コンサートホール等を調査・視察した
- 和田信太郎氏と東京芸術劇場の上級職員を指導者とする映像メディアチームを編成し、本年度の自主事業を映像制作を通じて検証し、舞台芸術の高付加価値を目指すモデル検証に実践的に取り組んだ
- アートクリエイターを広く公募し、書類・面接による選考を経て、育成対象者を決定した

プロジェクト関係者の
意識・行動変容

- 国際共同制作公演の復活と、海外公演実現に向けた創作活動の実施という、国際交流ができる劇場へと変化するきっかけとなり、アジアのハブ劇場としての役割を担う意識を持ち始めた
- 指導者は驚くほどの時間と熱意を投入し、自身の経験を次世代へ伝えようとしていた

令和6年度終了時点での
育成についての状況

- 育成対象者（アートクリエイター）は、指導者とのディスカッションやメンタリングを経て、それぞれが視察等の活動や作品制作のプラン構想等を行い、次年度以降の活動の準備をした
- 育成対象者である東京芸術劇場のスタッフは、実際に海外の劇場・ホール・フェスティバルへの視察を実施した

事業概要

東京文化会館が、デジタルテクノロジーを用いた音楽芸術領域を代表する世界的機関、パリのIRCAM（イルカム/フランス国立音響音楽研究所）と共同作曲委嘱を行う。育成対象者の育成と創作・発表の機会を創出し、日本の「最先端音楽芸術の拠点」として新たな魅力を発信する。

活動計画

～3年目

～5年目

- IRCAMと会議を重ね関係構築
- 育成対象者がパリに滞在し、IRCAMの現地クリエイターと共同創作を開始
- パリおよび日本国内で公演を実施
- 3年目までの取組を引き続き継続

育成対象者



向井 響 | 作曲家

第6回マータン・ギヴォル国際作曲コンクール（テルアビブ）およびORDA-2019作曲部門（アムステルダム）第1位。2018年ストラスブル現代音楽祭（フランス）にて、最優秀賞。第84回日本音楽コンクール作曲部門第1位。



北爪 裕道 | 作曲家

2013年より、文化庁新進芸術家海外研修制度、ロームミュージックファンデーション等から給費を受け約5年半の間パリに滞在。2015年、フランス財団音楽賞を受賞。

中核的な指導者・アドバイザー



(c)YOKO SHIMAZAKI

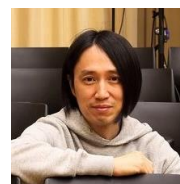
野平 一郎 | 作曲家・ピアニスト

日本を代表する作曲家のひとりで、海外でのコンクールで審査員も務める。自身もIRCAMでの委嘱制作経験がある。2012年春に紫綬褒章受章の他、芸術選奨・文部科学大臣賞等多数の受賞歴あり。



フランク・マドレーネ | アーティスティックディレクター・IRCAM所長

フランスとベルギーでピアノ、指揮、哲学を学ぶ。ヨーロッパ・モーツァルト財団、ブリュッセルのアルス・ムジカ音楽祭、ストラスブルのムジカ音楽祭で芸術監督を務めた。



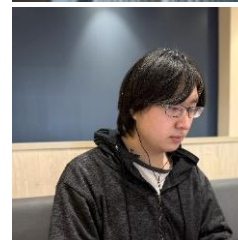
今井 慎太郎 | コンピューター音楽家

バウハウス・デッサウ財団にて、バウハウス舞台の音楽監督を度々務める。ムジカ・ノヴァ国際電子音楽コンクール第1位、ZKM国際電子音楽コンクール第1位ほか。現在、国立音楽大学准教授。



横山 未央子 | 作曲家

東京藝術大学音楽学部作曲科および同大学大学院修士課程作曲専攻修了。ヤマハ音楽振興会留学奨学生としてヘルシンキ芸術大学シベリウス音楽院大学院修士課程作曲専攻へ入学。最優秀の成績で修了。2025年テオスト賞受賞。



金原 直哉 | サウンドデザイナー

国立音楽大学コンピュータ音楽専修卒業。スペクトル楽派から強く影響を受け、ライブエレクトロニクス作品やフィクストメディア作品を中心に制作を行う。これまでに、コンピュータ音楽を今井慎太郎氏に、作曲を清水祥平氏に師事。

プロジェクト別令和6年度実施概要・成果等（出所：令和6年度報告書）

令和6年度の実施概要

- ・ 若手邦人作曲家（40歳以下）をリサーチし、当館とIRCAMで協議の上、3名を選出した。音響エンジニア志望者1名は専門家推薦により選出した
- ・ 共同委嘱者であるIRCAMとのオンラインミーティングを通じてクリエイションの時期、内容、契約、初演公演プログラム等を調整した

プロジェクト関係者の
意識・行動変容

- ・ 令和7年1月にクリエイターが決定した後、令和6年度は実質、実働に向けての準備年度であったためクリエイターの変化は捉えることが困難だった
- ・ 館内職員に関しては、現代音楽やエレクトロニクスを使用した公演等、育成対象者が関連する企画公演への関心が高まり、視察に行く機会が増えた

令和6年度終了時点での
育成についての状況

- ・ 育成対象者（クリエイター）計4名が決定し、令和7年度に研修・クリエイションが始まる2名については詳細な日程の調整を行っている
- ・ 館内の職員育成に関しても、該当者でワーキンググループを作りミーティング等を行っており、クリエイターに同行するかたちでの海外研修に関しても準備を進めている

プロジェクト名 Step into the world from Matsumoto

実施施設 まつもと市民芸術館

Japan
Creator
Support
Fund
FOR CULTURAL FACILITIES

美術館・博物館

大規模

中規模

劇場・音楽堂

小規模

事業概要

アドバイザー監修による公演制作を当館自主事業として行い、制作した作品を海外にも発信、まつもと市民芸術館のコンセプト『ひらいていく劇場』の理念に即し、地域にも開かれた活動を展開する。

活動計画

～3年目

～5年目

- ・ダンス作家は松本市内での滞在制作後、国内公演を実施
- ・アートマネジメントを担う制作者の国内公演従事
- ・ルーマニア『シビウ国際演劇祭』等での現地調査を実施
- ・欧州・アジア圏を含めて検討の上で国外公演の会場を決定
- ・海外公演作品の制作、公演実施

育成対象者



女屋理音 | 振付家

幼少よりクラシックバレエに親しむ。お茶の水女子大学入学後は作家研究を行い、ダンサーとしても様々な振付家の作品に出演。23年にシアタートラム・ネクストジェネレーション vol.15 - フィジカル - に選出され、初の主催公演を実施。



櫻井 拓斗 | 振付家・ダンサー・サウンドアーティスト

ccc振付コンペティション2011準グランプリ、『夢見の余韻』作・出演でセッションハウスアワード2023未来賞受賞。ダンサーとして、近藤良平らの作品、TOKYO2020開会式等に参加。サウンドアーティストとして、山下残、山瀬茉莉等の作品に参加。

中核的な指導者・アドバイザー



倉田 翠 | 演出家・振付家・ダンサー

まつもと市民芸術館舞踊部門芸術監督。第18回日本ダンスフォーラム賞受賞。代表作で2023年にクンステン・フェスティバル・デザール（ブリュッセル）とフェスティバル・ドートンヌ（パリ）に招聘され、海外ツアーを果たす。

No
Image

山田 せつ子 | ダンサー・振付家

ソロダンスを中心に独自のダンスの世界を展開する。1989年～ダンスカンパニー枇杷系主宰。2000年～2011年、京都造形芸術大学映像・舞台芸術学科教授。2019年度日本ダンスフォーラム大賞受賞。



宮 悠介 | ダンサー・振付家・アート企画者

筑波大学、大学院にて舞踊学を専攻。AJDF-kobeにて5度の文部科学大臣賞、ヨコハマダンスコレクション2022コンペII 最優秀新人賞、SAI DANCE FESTIVAL 2023 ソロ部門First Prize等受賞歴多数。



八木 志菜 | アートコーディネーター

京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）のアートコーディネーターとして京都国際舞台芸術祭をはじめ多数企画に従事。京都国際ダンスワークショップフェスティバル共同プログラムディレクター（2025年～）。

プロジェクト別令和6年度実施概要・成果等（出所：令和6年度報告書）

令和6年度の実施概要

- 新芸術監督の倉田翠氏のもと、地方都市から世界へ発信できるダンス作品の制作を目指し、能動的に創作に関与できるダンス作家の育成を進めた
- ダンス文化の市民への定着と観客層の拡大を図り、地方都市から海外へ文化発信する仕組み構築を進めた
- ダンス事業の強化と並行して、海外発信を担えるコーディネート能力を持つ制作者の育成にも取り組んだ

プロジェクト関係者の
意識・行動変容

- まつもと市民芸術館は、演劇のイメージの強かったが、本プロジェクトの採択と育成対象者の公募の実施により、ダンスを発信制作する劇場として認識されつつあり、次年度以降の自主事業公演へのダンス公演の売り込みが数倍となった

令和6年度終了時点での
育成についての状況

- ダンス作家については、指導者である倉田と面識の無い3名が決定したこともあり、まずはガイダンスを通して倉田との関係作りを行い、この事業の狙いや重視する点を共有し、目指す方向性を確認した
- 制作者については、まつもと市民芸術館の制作手法を学ぶため、大阪ツアー公演の現場制作経験を重ね、今後関わるダンス作家との関係作りも兼ねて、制作者として講座に参加し、指導者・ダンス作家らと交流を深めた

プロジェクト名 子ども×テクノロジー作品の制作を通じた人材育成プロジェクト

実施施設 山口情報芸術センター[YCAM]

Japan
Creator
Support
Fund
FOR CULTURAL FACILITIES

美術館・博物館

劇場・音楽堂

大規模

中規模

小規模

事業概要

ワークショップやメディアリテラシー教育の授業等に加えて、市民・学校と連携した事業を展開してきたYCAMが、AIやロボットを活用した新しい子ども向け舞台作品を制作。国内外で公演を展開し、国際的な創造環境・発信拠点の機能を高める。

活動計画

～3年目

～5年目

- 子ども向け作品、AI技術やロボティックス、教育についてリサーチを行い、使用技術の基礎知識を習得
- 国内公演ほか小学校と連携し、3年目に学校公演を実施
- 海外巡回に向け海外アドバイザーとの連携や巡回先への売り込みを実施
- 5年目に海外公演を実施

育成対象者



撮影：前谷開

振子 びじん | ダンサー/振付家

自身の体に微視的なアプローチをしたソロダンスや、ダンサーの体を物質的に扱った振付作品を発表する。



斧田 小夜 | 作家

作家、ソフトウェアエンジニア、写真家。2019年『飲鳩止渴』で第十回創元SF短編賞優秀賞受賞、2021年同作でデビュー。2022年に初の単行本『ギークに銃はいらない』（破滅派）を刊行。

中核的な指導者・アドバイザー



伊藤 ガビン | 編集者

編集的手法を使い、書籍、雑誌、映像、webサイト、展覧会のプロデュース、ゲーム制作等に従事。京都に在住し、京都精華大学の『メディア表現学部』で新しい表現について、研究・指導している。



撮影：Hideto Maezawa

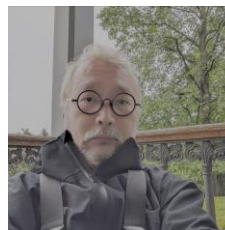
丸岡 ひろみ

PARC – 国際舞台芸術交流センター理事長。2005年より、YPAM – 横浜国際舞台芸術ミーティング（旧TPAM）ディレクター。令和6年度芸術選奨芸術振興部門文部科学大臣賞受賞。



新井 知行

PARC – 国際舞台芸術交流センター理事。YPAM – 横浜国際舞台芸術ミーティング（旧TPAM）シニアプログラムオフィサー。サウンド・ライブ・トーキョーディレクター（2014～2016）。



山元 史朗 | テクニカルディレクター

情報科学芸術大学院大学[IAMAS]、山口情報芸術センター[YCAM]、日本科学未来館の技術スタッフを経てフリーランス。国内外の展覧会やアートプロジェクトで技術監督を多数務める。

プロジェクト別令和6年度実施概要・成果等（出所：令和6年度報告書）

令和6年度の実施概要

- ・ 振子びじん氏を中心とした打ち合わせやYCAMでの滞在制作を通じ、物語や演出コンセプトを具体化した
- ・ 国内外の見本市やフェスティバルで複数の海外プレゼンターとネットワーキングを行った
- ・ 観客ニーズを把握するため、地元の人々にヒアリングを実施した

プロジェクト関係者の
意識・行動変容

- ・ 初年度の研修により、作品テーマの丁寧な調査やステークホルダーのニーズ掘り起こしを開始した
- ・ 創作初期段階から海外巡回を視野に入れた内容検討が可能となり、創作チーム全体の目標意識に変化が生まれた

令和6年度終了時点での
育成についての状況

- ・ 作家・斧田小夜氏を育成対象者として選出し、継続的なディスカッションを経て原作の執筆を依頼し、初稿が完成した
- ・ 育成対象者は子ども向け舞台作品についてのリサーチや、見本市やフェスティバルでのプレゼンテーション、ネットワーキングを行い、初年度に行うべき作品創作のための調査を行うことができた
- ・ クリエイションに関わるクリエイター、スタッフが、本作品で扱う専門領域であるロボティクス、AIについての知識、子どもとAI/ロボットの関わりについて調査し、共有しながら作品のアイデアを膨らませている

事業概要

若手アーティスト（育成対象者）と共に新作創造や旧作のブラッシュアップ、戯曲翻訳、情報発信を行い、京都から世界へ才能を発信。人材育成や国内外公演を通じ、京都舞台シーン全体の機能強化を目指す。

活動計画

～3年目

～5年目

- ・新作クリエイション/旧作リクリエイション実施
- ・指導者によるレクチャーや勉強会、海外研修の実施
- ・京都、横浜での公演実施
- ・海外公演に向けたリサーチ、プロモーションの実施
- ・新作/旧作ブラッシュアップ
- ・海外公演の実施

育成対象者



©shimizu kana

野村 真人 | 演出家・俳優

演出家、レトロニム（自身が演出家を務めるクリエイターチーム）のメンバー。京都にて演劇作品を制作・発表。『景観と風景、その光景（ランドスケープとしての字幕）』等を手がけ、利賀演劇人コンクール優秀演出家賞受賞。俳優として文化庁新進芸術家海外研修制度にてベルリン滞在中。

垣田 みずき | 制作・プロデューサー

東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻修了。2023年よりロームシアター京都事業課に入職。

No
Image

中核的な指導者・アドバイザー



©山地憲太

小倉 由佳子 | プロデューサー

ディレクターとして、アイホール(伊丹市立演劇ホール)のダンスプログラム公演、ワークショップを企画制作。2015年文化庁新進芸術家海外研修制度でロンドンに1年間滞在。2016年度よりロームシアター京都勤務、現在ロームシアター京都プログラムディレクター。

川崎 陽子 | プロデューサー

橋本 裕介 | キュレーター・ドラマツルク

林 立騎 | 翻訳者・演劇研究者

大鹿 展明 | 舞台監督

ほか



©宇治田 峻

西田 悠哉 | 劇作家・演出家

1993年東京都生まれ富山県育ち。大阪大学を母体に2015年劇団不労社を旗揚げ、代表として作・演出を担当。歪な人間像を描く作劇が特徴。関西演劇祭ベスト演出賞、若手演出家コンクール優秀賞受賞。青年団所属、京都大学大学院在学。

プロジェクト別令和6年度実施概要・成果等（出所：令和6年度報告書）

令和6年度の実施概要

- ・ 旧作リクリエイション作品を選定（『吉日再会』『MUMBLE-モグモグ・モゴモゴ-』）しているほか、新作制作を進行中である。一部の新作は国内他地域の演劇祭から2026年度の招聘打診を受けた
- ・ KYOTO EXPERIMENT等でプレゼンを実施し、国内外のキュレーターやプロデューサーとのネットワークを拡大した
- ・ 日英ウェブサイトを開設し、トークセッション映像を作成した。また海外向けプロモーションを開始した

プロジェクト関係者の
意識・行動変容

- ・ 海外キュレーターへのプレゼンと対話を通して、作品の紹介の仕方や作品の作り方について課題や留意すべき点が見えた
- ・ 英語での情報発信の重要性を改めて認識した

令和6年度終了時点での
育成についての状況

- ・ KYOTO EXPERIMENT招聘キュレーターへのプレゼン、YPAM（横浜国際舞台芸術ミーティング）でのプレゼンに参加し、本プログラムの紹介を通じ作品や活動をプロモーションした。交流会への参加を通して国際的に活躍するプロデューサーやアーティストとのネットワークづくりに取り組んだ
- ・ 育成対象者は国際的ミーティングに参加し、キュレーターの注目している点、どのように交流しているかを学ぶ機会となった